



九州大学 病院概要 2026



Kyushu University Hospital Information

Kyushu University Hospital

【九州大学病院 理念】

患者さんに満足され、医療人も満足し、
医療の発展に貢献する病院を目指します。

【九州大学病院 基本方針】

- 1 高度医療の提供と研究開発の推進
- 2 より高い医療安全の追求
- 3 地域医療への貢献と医療連携の強化
- 4 情報技術・国際化による未来志向型医療の推進
- 5 全人的医療を実践する医療人の育成



病院長 中島 康晴
Director, Yasuharu Nakashima

病院長あいさつ

九州大学病院は、1,362床(本院1,242床、別府病院120床)を有する国内有数の大学病院として、高度医療を担う拠点であると同時に、地域医療の最後の砦として重要な役割を果たしてきました。

私は2018年より副病院長として病院運営に携わり、コロナ禍をはじめとする数々の困難に直面してきましたが、そのたびに職員一人ひとりの力と強いチームワークによって乗り越えてまいりました。この経験こそが、本院の底力と、未来への大きな可能性を示していると確信しています。

今後は、「高度医療の推進と医療安全の徹底」、「盤石な財政基盤の確立」、「地域医療の中核としての使命の遂行」、「未来を切り拓く医療人の育成」という4つの柱を軸に、新しい時代の九州大学病院を創っていきたいと考えています。

とりわけ「安全はすべてに優先する」という意識を共有し、患者さんが安心して最良の医療を受けられる体制を一層強化してまいります。同時に、全職員が誇りを持ち、互いに支え合いながら成長できる環境づくりにも取り組みます。

本院は長い歴史の中で多くの方々の努力と志に支えられ発展してきました。そのバトンを受け継ぐ者として、「患者さんと医療人の双方が満足し、医療の発展に貢献する」という原点を大切にします。

そして、地域とともに歩みながら、未来の医療を創造する病院へ。みんなで創る、新しい時代の九州大学病院へ。その実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

今後も当院への変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

CONTENTS

Kyushu University Hospital Information 2026

病院長挨拶・理念・基本方針	01
機構図	04
診療案内	06
沿革	09

診療科

診療科 医科部門

血液・腫瘍・心血管内科	14
免疫・膠原病・感染症内科	14
消化管内科	15
腎・高血圧・脳血管内科	15
内分泌代謝・糖尿病内科	16
肝臓・脾臓・胆道内科	16
心療内科	17
脳神経内科	17
循環器内科	18
呼吸器内科	18
産科婦人科	19
小児科	19
消化管外科	20
肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科	20
胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科	21
呼吸器外科	21
乳腺外科	22
内分泌外科	22
血管外科	23
整形外科	23
脳神経外科	24
心臓血管外科	24
小児外科・成育外科・小腸移植外科	25
皮膚科	25
泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科	26
精神科神経科	26
眼科	27
耳鼻咽喉・頭頸部外科	27
リハビリテーション科	28
放射線科	28
麻酔科蘇生科	29
総合診療科	29
形成外科	30
先端分子・細胞治療科	30

診療科 歯科部門

小児歯科・スペシャルニーズ歯科（口腔保健科）	32
矯正歯科（口腔保健科）	32
歯内治療科（口腔機能修復科）	33
歯周病科（口腔機能修復科）	33
義歯補綴科（口腔機能修復科）	34
咬合補綴科（口腔機能修復科）	34
顎口腔外科（口腔顎顔面外科）	35
顔面口腔外科（口腔顎顔面外科）	35
歯科麻酔科（口腔顎顔面外科）	36
口腔画像診断科（口腔包括診療科）	36
口腔総合診療科（口腔包括診療科）	37
高齢者歯科・全身管理歯科（口腔包括診療科）	37

中央診療施設等

●中央診療部門

検査部	39
手術部	39
集中治療部	39
放射線部	40
病理診断科・病理部	40
遺伝子・細胞療法部	41
冠動脈疾患治療部	41
腎疾患治療部	42
総合周産期母子医療センター	42
リハビリテーション部	43
光学医療診療部	43
先端工医学診療部	44
子どものこころの診療部	44
油症ダイオキシン研究診療センター	45
救命救急センター	45

●管理部門

医療器材サプライセンター	45
メディカル・インフォメーションセンター	46
臨床教育研修センター	46
がんセンター	47
医療連携センター	47
グローバル感染症センター	48
医療安全管理部	48

●研究推進部門

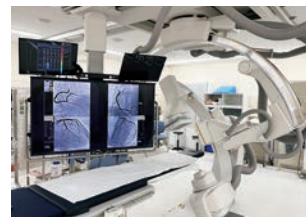
ARO次世代医療センター	49
--------------	----

国際医療部	50
海外交流センター	50
アジア遠隔医療開発センター	50
国際診療支援センター	50

薬剤部	51
医療技術部	51
看護部	52

事務部	52
-----	----





院内診療支援施設等

●集学的診療施設

小児医療センター	54
ハートセンター	54
ブレインセンター	55
小児救命救急センター	55
周術期口腔ケアセンター	56
再生歯科・インプラントセンター	56
デンタル・マキシロフェイシャルセンター	57
ECMOセンター	57
集学的痛みセンター	58
脳卒中センター	58
糖尿病診療支援センター	59
移植医療センター	59

●院内診療支援施設

MEセンター	60
高度新規医療評価部	60
診療録管理室	60
栄養管理部	60
造血幹細胞移植地域支援センター	61
臨床遺伝医療部	61
未来医療開発センター	61
歯科衛生室	62
歯科技工室	62
歯科総合予診室	62
口腔検査センター	62
内視鏡外科手術トレーニングセンター	63
看護キャリアセンター	63
患者相談支援室	63
経営戦略センター	63

別府病院

●診療科

内科	65
外科	65
整形外科	66
婦人科	66
放射線科	67
麻酔科	67
リハビリテーション科	68

●中央診療施設

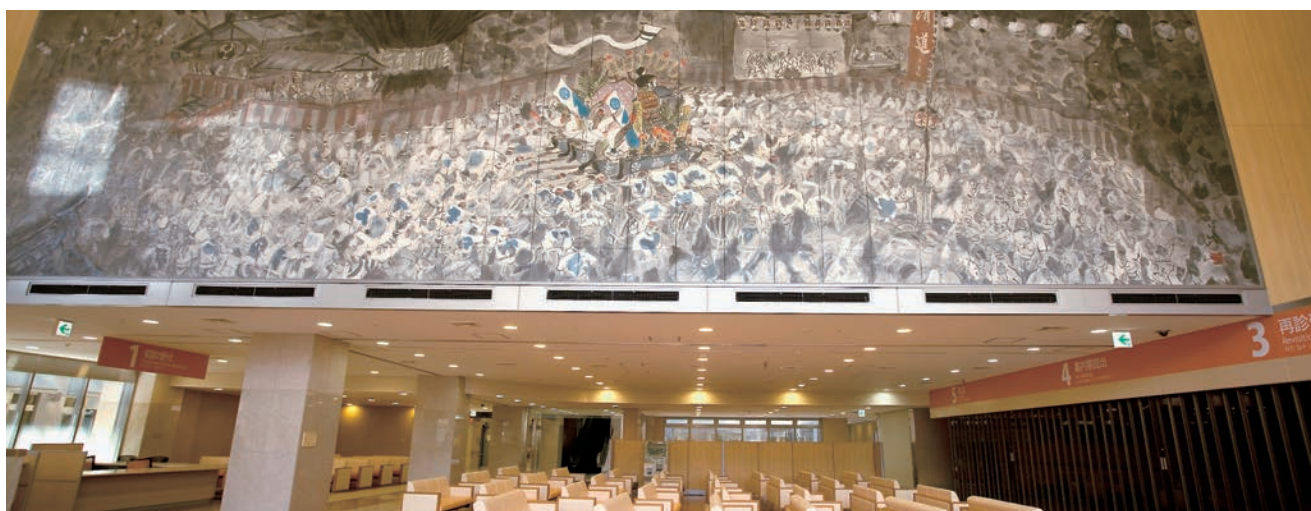
リハビリテーション部	69
検査室	69
手術室	69
診療放射線室	69
中央材料室	70
メディカル・インフォメーションセンター分室	70

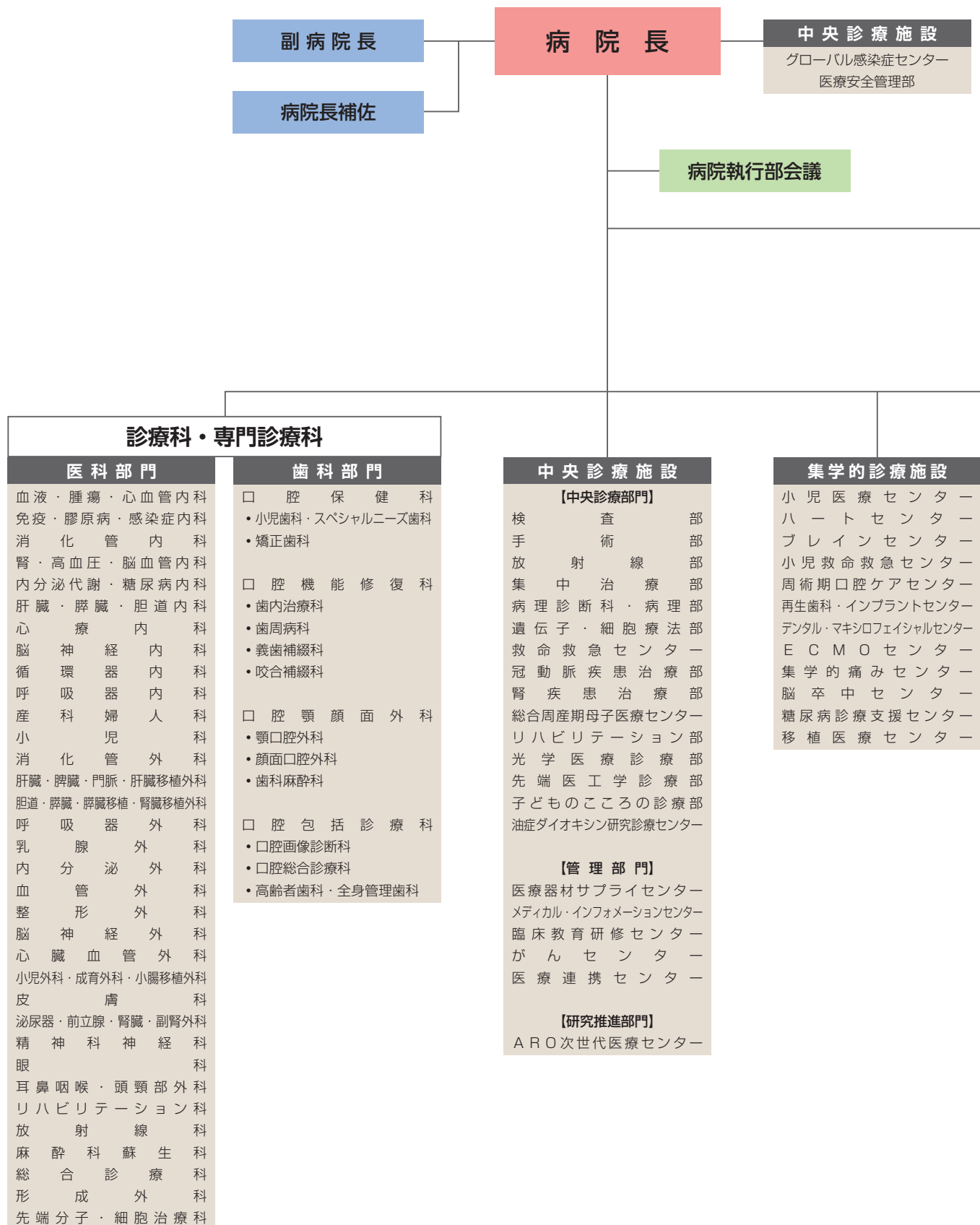
●院内診療支援施設

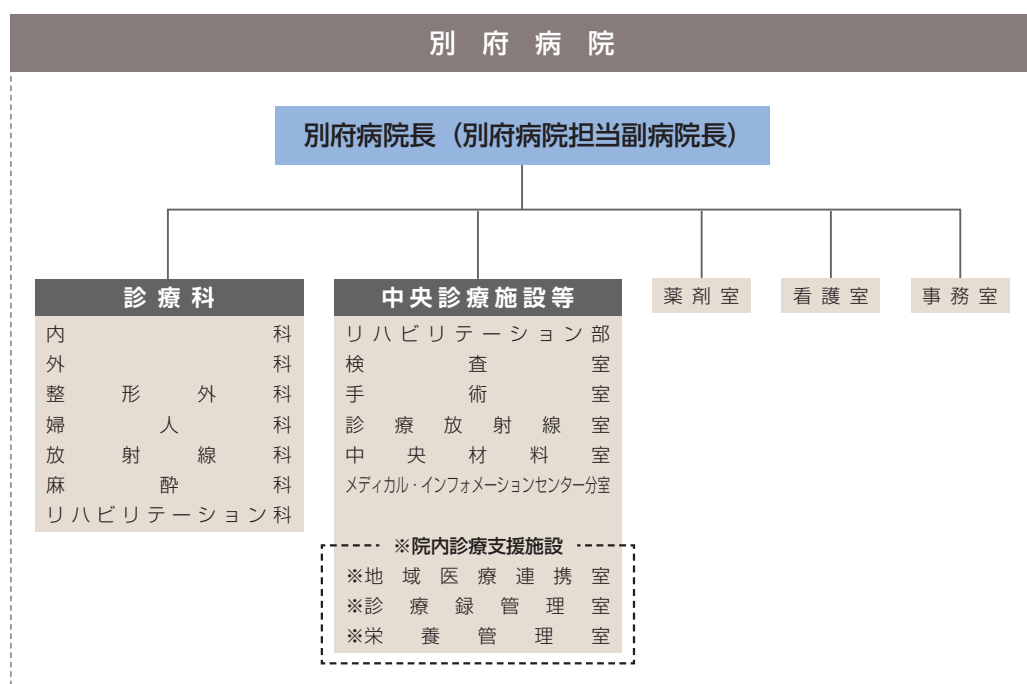
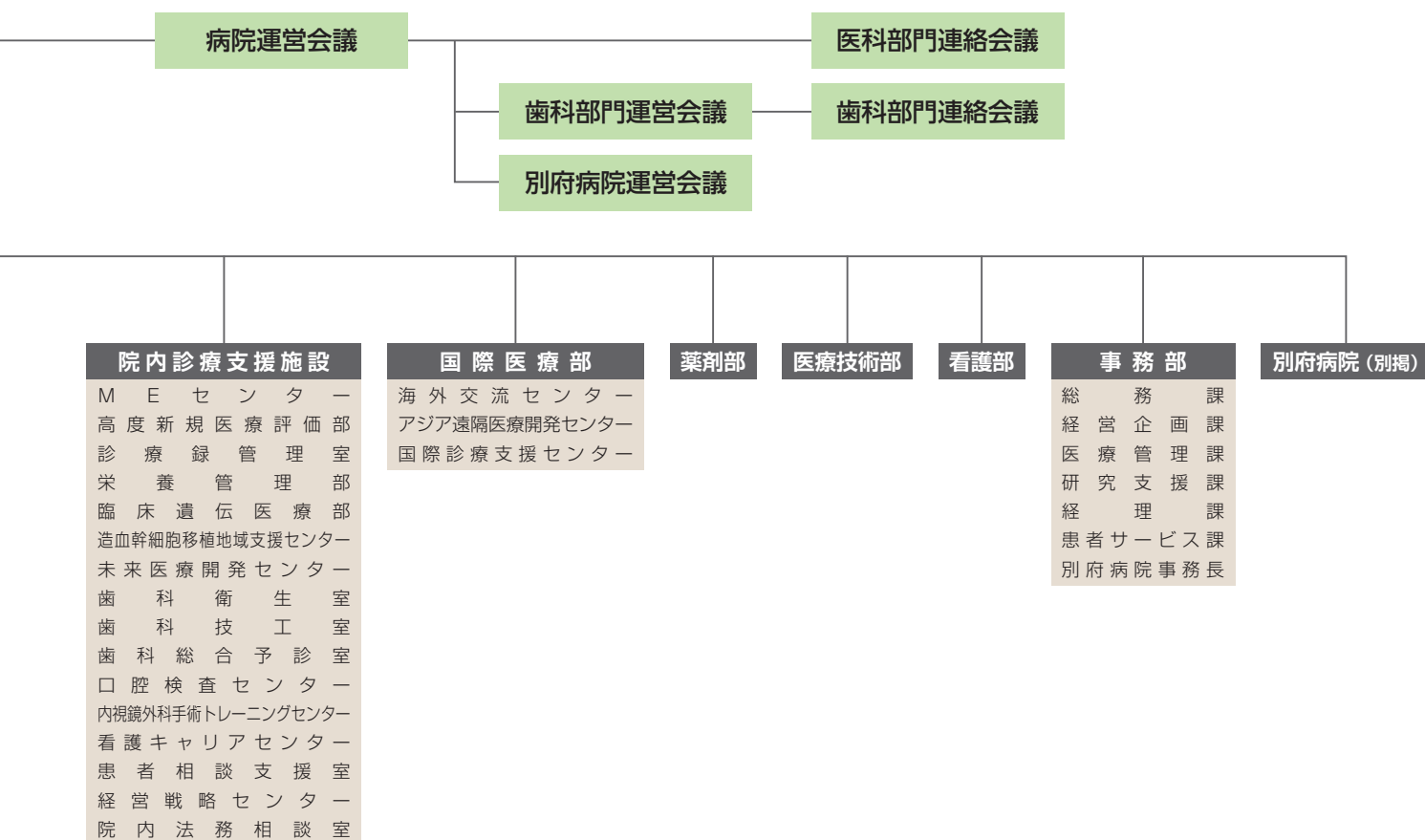
地域医療連携室	70
診療録管理室	70
栄養管理室	71
薬剤室	71
看護室	71
事務室	71

資料篇

外来・入院患者数	73
医療機関の承認・指定状況等	78
施設基準の承認状況	80
経理状況等	83
建物階別一覧	84
所在地略図・建物配置図	85







1. 内科

	診療科名	電話番号	初診日	再診日	棟	階	受付
内科系	血液・腫瘍・心血管内科	642-5302	月－金	月－金	外来	3	西
	免疫・膠原病・感染症内科		月・水・木・金		外来	3	西
	消化管内科		月・火・水・金		外来	3	西
	腎・高血圧・脳血管内科		月－金		外来	3	西
	内分泌代謝・糖尿病内科		月・火・水・金		外来	3	西
	肝臓・脾臓・胆道内科		月－金		外来	3	西
	心療内科	642-5335	月・木	月・火・水・金	外来	4	西
	脳神経内科	642-5349	火・木・金	月－木	外来	2	西
	循環器内科	642-5371	月－金	月－金	外来	3	東
	呼吸器内科	642-5388	月・水・金	月－金	外来	4	西
	小児科	642-5430	月－金	月－金	北棟	5	西
	精神科神経科	642-5640	月・火・木・金	月－金	外来	2	西第2
	放射線科	642-5705	月－金	月－金	外来	1	西
	総合診療科	642-5300	月－金	月－金	外来	1	西
	先端分子・細胞治療科	642-5102	月－金	月－金	外来	3	西
外科系	産科婦人科	産科婦人科642-5409 産科(再診)642-5900	月－金	月－金	外来	4	東
	消化管外科	642-5453, 5479	月－金	月－金	外来	4	西
	肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科		月・水・金	月・水・金	外来	4	西
	胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科		火・木・金	火・木	外来	4	西
	呼吸器外科		月－金	月－金	外来	4	西
	乳腺外科		月－金	月－金	外来	4	西
	内分泌外科		—	—	—	—	—
	血管外科	642-5479	月・水・金	月・水・金	外来	4	西
	整形外科	642-5504	月－金	月－金	外来	1	西
	脳神経外科	642-5533	月・水・金	月・水・金	外来	2	西
	心臓血管外科	642-5565	火－金	火－金	外来	3	東
	小児外科、成育外科、小腸移植外科	642-5578	月・水・木・金	月・水・木・金	北棟	5	西
	皮膚科	642-5597	月－金	月－金	外来	3	東
	泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科	642-5615	火・木	月・水・木・金	外来	2	西
	眼科	642-5660	月・水・金	月－金	外来	2	東
	耳鼻咽喉・頭頸部外科	642-5681	火・木	月・水・金	外来	3	東
	ペインクリニック(麻酔科蘇生科)	642-5719	月・火・水・金	月・火・水・金	外来	4	東
	形成外科	642-5510	月・火・水・金	月・火・水・金	外来	3	東

2. 歯科

	診療科名	電話番号	初診日	再診日	棟	階	受付
	小児歯科・スペシャルニーズ歯科	642-6465	月－金	月－金	北棟	5	西
	矯正歯科	642-6460				5	西
	歯内治療科	642-6430				4	西
	歯周病科	642-6425				4	西
	義歯補綴科	642-6440				4	西
	咬合補綴科	642-6435				4	西
	顎口腔外科	642-6445				5	東
	顔面口腔外科	642-6450				5	東
	歯科麻酔科	642-6479				5	東
	口腔画像診断科	642-6471				4	東
	口腔総合診療科	642-6490				4	東
	高齢者歯科・全身管理歯科	642-6483				5	東
	歯科総合予診室	642-6500		—	北棟	4	東
	口腔検査センター	—	月－金	月－金		4－5	

医科部門／歯科部門 共通

- 玄関開閉時間 … 7:30 - 18:00
- 自動再来受付機 … 8:15 - 17:00
- 休診日 … 土曜・日曜・祝日・年末年始(12/29-1/3)
- 初診受付時間 … 8:30 - 11:00
- 窓口受付 … 8:20 - 17:00

注意

本院の診療は原則、医療機関からの紹介・予約制となっています。
 初診の方は初診患者専用「予約センター」にてご予約ください[医科予約受付:092-642-5508、歯科予約受付:0570-088-577]。
 再診の方でも、医科は1年以上、歯科は半年以上受診されていない場合には、初診の取扱い(曜日・時間)となり、紹介状をお持ちでない方は、治療費とは別に定額負担として医科7,700円、歯科5,500円が必要となることがあります。他の患者さんの診療の妨げとなりますので、原則として予約の変更は控えください。なお、やむを得ない事情による再診予約の変更、取消、及び次回受診日の確認は、病院ホームページまたは、アプリから申込みいただけます。

3. センター等

センター / 関連診療科	電話番号	初診日	再診日	棟	階	受付
遺伝子・細胞療法部	642-5947	月－金	月－金	南棟	2	――
救命救急センター / 小児救命救急センター	――	――	――	南棟	1	――
先端工医学診療部	642-5993	月・水・金	月・水・金	外来	4	西
油症ダイオキシン研究診療センター 皮膚科	642-5211	水	水	外来	3	東
ハートセンター 血液・腫瘍・心血管内科、循環器内科、心臓血管外科	内科:642-5371 外科:642-5565	月－金 月－金	月－金 月－金	外来	3	東
入退院・周術期支援センター	642-5546	月－金	月－金	外来	1	――
周術期口腔ケアセンター 口腔総合診療科、高齢者歯科・全身管理歯科	642-6509	月－金	月－金	北棟	4	東
再生歯科・インプラントセンター	642-6361	月－金	月－金	外来	4	東第2
デンタル・マキシロフェイシャルセンター	642-6450	月－金	月－金	北棟	5	東・西
外来化学療法室	642-5125	――	――	外来	2	――

4. 専門外来等

診療科等 / 専門外来	電話番号	初診日	再診日	棟	階	受付
脳神経内科、精神科神経科 ・物忘れ外来	642-6235	火・木・金	――	外来	2	西
小児科 ・小児AYA世代がんフォローアップ外来 ・トランジショナルケア外来 ・遺伝カウンセリング外来	642-5430 642-5430 642-5057	金 月 月－金	金 月 月－金	北棟 北棟 北棟	5 5 2	西 西 ――
小児外科 ・小児漢方外来	小児外科 642-5578	木	木	北棟	5	西
脳神経外科 ・もやもや病専門外来	642-5533	水	水	外来	2	西
脳神経外科、内分泌代謝・糖尿病内科 ・間脳下垂体専門外来	642-5533	月	月	外来	2	西
精神科神経科 ・子どものこころの診療部	642-5642	火・木	月－金	外来	2	西第2
総合診療科 ・HIV外来 ・漢方外来 ・渡航外来	642-5300 642-5021	月－金 金 水	月・火 金 水	外来 外来 外来	1 1 1	西 西 西
緩和ケアセンター ・痛みの緩和ケア外来 ・こころの緩和ケア外来	642-5450	火・金 水・金	火・金 水・金	外来	2	――
産科婦人科 ・妊娠と薬外来	――	火	火	外来	4	東

5. 看護師・薬剤師外来

名称	電話番号	診療日	棟	階
看護専門外来 ・助産師外来 ・リンパ浮腫外来 ・ストーマ看護外来 ・腹膜透析外来 ・糖尿病フットケア外来 ・造血細胞移植後患者フォローアップ外来(成人) ・小児造血細胞移植後患者フォローアップ外来 ・がん看護外来 ・糖尿病透析予防指導外来	642-5900 642-5409 641-1151 642-5843 642-5302 642-5244 642-5427 642-5450 642-5302	月－金 月－金 月－金 月－金 金 水 水・木 月－金 金	外来 外来 外来 南棟 外来 外来 北棟 外来 外来	4 4 4 4 3 3 5 2 3
薬剤師専門外来 ・がん専門薬剤師外来	――	月－金	外来	2

7. 受付窓口

名称	電話番号	棟	階
予約センター (FAX:092-642-5509)	642-5508		
総合案内	642-6270	外来	1
外来受付	642-5138	外来	1
入院受付	642-5150	外来	1
支払窓口	642-5169	外来	1
文書受付	642-6269	外来	1
時間外受付	642-5163	南棟	1
リハビリテーション部受付	642-5862		

6. 相談窓口

名称	電話番号	棟	階
患者相談支援室	642-5512	外来	1
社会福祉相談窓口	642-5167	外来	1
在宅療養支援室	642-5185	外来	1
公費相談窓口	642-5736	外来	1
がん相談支援センター、小児がん相談支援センター	642-5200	外来	1
栄養相談室	642-5180	南棟	2
セカンドオピニオン外来	642-5160	外来	1
国際診療支援センター	642-4231	外来	1
A R O 次世代医療センター	642-5858	外来	1
がんゲノム外来相談窓口	642-5858	外来	1
セーフティマネジメント室 診療情報提供(カルテ開示)窓口	642-5135	北棟	2
福岡県摂食障害支援拠点病院	642-4869	外来	4
福岡県てんかん支援拠点病院事務局 (ブレインセンター内)	642-4379	北棟	2
福岡市認知症疾患医療センター	642-6235	北棟	2
福岡県・福岡市難病相談支援センター 未診断・未指定難病相談支援センター	643-1390 643-4864	北棟	2

別府病院

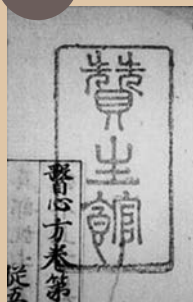
令和8年4月1日現在

診療科名	診療内容	診療日		予約の種類
		初診日	再診日	
内 科	リウマチ・感染症	月・火・水・金	月・火・水・金	△
	がん・腫瘍	月・火・金	月・火・金	△
	循環器病一般	火・水	月・火・水・金	△
	糖尿病	月・水・金	月・水・金	△
	消化器内科	月・火・水・金	月・火・水・金	△
外 科	一般・消化管・肛門	月・水・金	月・水・金	
	肝・胆・脾	月・水・金	月・水・金	
	乳腺	月・水・金	月・水・金	○
整形外科	脊椎・脊髄	火・木・金	火・木・金	○
	股関節・膝関節	月・木	月・木	○
婦人科	婦人科腫瘍	火・水・金	火・水・金	○
	女性ヘルスケア	火・水・金	火・水・金	○
放射線科	放射線治療	月・火・木	月・火・木	○
	放射線画像診断	月一金	月一金	
共 通	上部消化器内視鏡	月・火・水・金	月・火・水・金	○
	下部消化器内視鏡	月一金	月一金	○
	EMR/ESD	月一金	月一金	○
	ERCP	月・水・金	月・水・金	○
	セカンドオピニオン	月一金	月一金	○

初診・再診とも原則予約 … ○
 初診予約 ……………… △
 初診・再診とも予約不要 … 無印

- 玄関開閉時間 ……… 8:00 – 17:15
- 休 診 日 ……… 土曜・日曜・祝日・
年末年始(12/29 – 1/3)
- 代表電話番号 ……… 0977-27-1600
地域医療連携室: 0120-272-518(フリーダイヤル)、0977-27-2055(直通)
- 自動再来受付機 ……… 8:30 – 15:00
- 初診受付時間 ……… 8:30 – 11:00
- 窓 口 受 付 ……… 8:30 – 17:00

慶応3年		黒田藩の藩校として西洋医学の医育機関「養生館」を現在の福岡市中央区大名に設置。				歯科口腔外科が歯学部として独立。歯学部附属病院設置(第一保存科、第一補綴科、口腔外科)。
明治7年	12月	養生館の附属病院を新たに診療所として修猷館内に開設。		43年	4月	中央材料部設置。(研病)温泉地生気候内科設置。
	10年	6月	診療所を「福岡病院」と改称すると同時に博多中之島元製練所跡に移転。	44年	4月	集中治療部設置。
	12年	3月	福岡病院は県に移管され県立福岡医学校附属病院と改称。	45年	4月	(歯病)予防歯科、矯正科設置。
	21年	4月	県立福岡医学校の廃止により同附属病院は県立福岡病院と改称。	46年	4月	(歯病)第二保存科、第二補綴科設置。
	36年	3月	京都帝国大学福岡医科大学が設置され、県立福岡病院は京都帝国大学福岡医科大学附属医院となる。看護婦養成所設置。	48年	4月	心臓外科設置。(研病)リハビリテーション部設置。
	44年	4月	九州帝国大学医科大学附属医院と改称。		8月	胸部疾患研究施設内科は生の松原における診療を廃止し、本院地区に統合。
大正8年	4月	九州帝国大学医学部附属医院と改称。		49年	4月	病理部設置。胸部疾患研究施設内科を呼吸器科と改称。
	13年	4月	生の松原分院設置。診療開始。			事務部を改組し、総務課、管理課及び医事課の3課を設置。
昭和6年	10月	温泉治療学研究所設置。		50年	2月	中央検査部、中央手術部、中央放射線部、中央材料部を検査部、手術部、放射線部、材料部と改称。
	22年	10月	九州大学医学部附属医院と改称。		10月	輸血部設置。
	24年	5月	九州大学医学部附属病院と改称。	51年	5月	国立学校設置法改正により、看護部を設置。
			当時の診療科等:内科(3)、外科(2)、眼科、産婦人科(後に産科婦人科と改称)、小児科、耳鼻咽喉科、精神科(後に精神科神経科と改称)、整形外科、歯科(後に歯科口腔外科と改称)、皮膚科、泌尿器科、放射線科、薬局。		10月	小児外科設置。(歯病)歯科放射線科設置。
	32年	1月	中央臨床検査部設置。	52年	10月	救急部設置。(歯病)第一口腔外科、第二口腔外科設置。
	34年	4月	事務部に事務部長制導入。管理課、業務課設置。	53年	10月	分娩部設置。(歯病)小児歯科設置。
	37年	3月	看護部設置。	54年	10月	冠動脈疾患治療部設置。
		4月	薬局を薬剤部と改称。	56年	4月	理学療法部設置。
	38年	4月	麻酔科、心療内科、中央手術部設置。	57年	4月	医療情報部設置。
	39年	4月	神経内科設置。			温泉治療学研究所及び医学部附属癌研究施設を改組・統合し生体防御医学研究所を設置。
			温泉治療学研究所附属病院設置。			温泉治療学研究所附属病院は生体防御医学研究所附属病院となる。
			当時の診療科等:内科、外科、産婦人科、皮膚泌尿器科、薬剤部。			診療科:内科、外科、産婦人科、皮膚泌尿器科、温泉地生気候内科。
	40年	4月	循環器内科設置、中央臨床検査部は中央検査部と改称。			診療施設:リハビリテーション部を慢性疾患診療部に名称変更。
	41年	4月	脳神経外科、中央放射線部設置。	58年	4月	腎疾患治療部設置。
	42年	6月	生の松原分院を胸部疾患研究施設内科と改称。	59年	4月	腫瘍センター設置。
				62年	5月	総合診療部設置。
				63年	4月	(歯病)歯科麻酔科設置。
				平成元年	5月	麻酔科を麻酔科蘇生科と改称。周産母子センター設置。
				2年	6月	(研病)皮膚泌尿器科を体質代謝内科に変更。

1867
慶応3年養生館の図書印
(福岡市博物館所蔵)1885
明治18年

恩師デーニッツと大森治豊ら福岡医学校の教師たち

沿革

HISTORY Kyushu University Hospital

- 3年 4月 理学療法部を廃止し、リハビリテーション部設置。
- 4年 4月 (研病)内科をリウマチ膠原病内科に、外科を腫瘍外科に、産婦人科を生殖内分泌婦人科に、温泉地生気候内科を気候内科に変更。
- 5年 4月 (歯病) 特殊歯科総合診療部設置。
- 7年 4月 特定機能病院として承認。
- 10年 1月 医療器材サプライセンター設置。
- 11年 4月 光学医療診療部設置。治験管理センター設置(院内措置)。
- 13年 10月 南棟竣工。
- 14年 4月 南棟開院。
先端医工学診療部設置。(歯病) 11診療科を口腔保健科、口腔機能修復科、口腔顎顔面外科の3診療科に再編。口腔総合診療部設置。
- 10月 臨床教育研修センター設置(院内措置)。
- 15年 4月 輸血部を改組し、遺伝子・細胞治療部を設置。
- 5月 遺伝子・細胞治療部と腫瘍センターを統合し、遺伝子・細胞療法部設置(院内措置)。
- 10月 医学部附属病院、歯学部附属病院、生体防御医学研究所附属病院を統合。
(名称:九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院 呼称:九州大学病院)
診療支援部設置。
臨床研究センター設置(院内措置)。
事務部を改組し、総務課、戦略企画課、医療管理課、経理課及び患者サービス課の5課を設置。
別府地区に別府先進医療センターを設置。
・体質代謝内科を先端分子・細胞治療科に改組し、福岡地区に設置。
・免疫・生活習慣病内科を設置。専門診療科として免疫・血液・代謝内科専門診療科(リウマチ膠原病内科を改組)及び循環・呼吸・老年病内科専門診療科(気候内科を改組)を置く。
・がん治療科を設置。専門診療科として外科専門診療科(腫瘍外科を改組)及び産婦人科専門診療科(生殖内分泌婦人科を改組)を置く。
- 16年 4月 国立学校設置法が廃止され、国立大学法人法に

- 基づき国立大学法人九州大学を設置。
- 17年 1月 内視鏡外科手術トレーニングセンター設置(院内措置)。
- 5月 材料部を廃止し、医療器材サプライセンターを設置。遺伝子・細胞治療部と腫瘍センターを統合し、遺伝子・細胞療法部を設置。
臨床教育研修センター及び臨床研究センターを設置(院内組織の整備)。
「診療支援部」を「医療技術部」に改称。
地域医療連携センター、感染制御部及び医療安全管理部の整備(院内措置)。
- 6月 (別府地区)産婦人科専門診療科の診療を休止。
- 10月 北棟竣工。
- 18年 4月 北棟開院。
第一内科を血液・腫瘍内科及び免疫・膠原病・感染症内科に、第二内科を消化管内科及び腎・高血圧・脳血管内科に、また第三内科を内分泌代謝・糖尿病内科及び肝臓・脾臓・胆道内科に再編。
臨床研究センターを廃止し、高度先端医療センターを設置。
口腔ケア・予防科を廃止し、義歯科を義歯補綴科、咬合治療科を咬合補綴科と改称。
(別府地区)産婦人科を廃止。
小児医療センター、ハートセンター、ブレインセンターを設置(院内措置)。
- 5月 (別府地区)産婦人科 福岡地区移転により標榜取り下げ。
- 8月 救急部を廃止し、救命救急センターを設置。
- 9月 先進予防医療センターを設置。
- 19年 4月 7対1看護体制導入。
がんセンターを設置。
- 20年 3月 ウエストウイング竣工。
- 4月 油症ダイオキシン研究診療センターを設置。
地域医療連携センターを設置(院内組織の整備)。
「周産母子センター」を「総合周産期母子医療センター」に改称。
- 7月 ヘリポートを開港。
- 10月 アジア遠隔医療開発センターを設置。
- 21年 1月 「総合診療部」を「総合診療科」に改称。

1911
明治44年



九州帝国大学医科大学最初の卒業生

1915
大正4年



医科大学附属病院の薬局

	2月	(別府地区)放射線科を設置。		8月	「小児外科、小腸移植外科」を「小児外科、成育外科、小腸移植外科」に改称。
	4月	外来診療棟竣工。			
	5月	子どものこころの診療部を設置。	27年	1月	臨床教授等病院として指定。
	9月	外来診療棟開院。		4月	国際医療部を設置。内部組織として、海外交流センターを新設、アジア遠隔医療開発センターを編入、医療連携センター国際医療連携室を国際診療支援センターとして改編、編入。
22年	1月	再生歯科・インプラントセンターを設置。 第一外科を消化管外科(1)、胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科、呼吸器外科(1)、乳腺外科(1)及び内分泌外科に、第二外科を消化管外科(2)、肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、呼吸器外科(2)、乳腺外科(2)及び血管外科に、心臓外科を心血管外科に、泌尿器科を泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科に、また耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に再編。			ARO次世代医療センターを全学の先導的学術研究拠点として改組。病院内の支援組織として、臨床研究推進部門を設置。
23年	4月	別府地区の別府先進医療センターは、組織再編に伴い九州大学病院の分院(九州大学病院別府病院)として開院。 九州大学医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院を医学部・歯学部附属病院に改称。(呼称:九州大学病院) 「医療情報部」を「メディカル・インフォメーションセンター」に改称。 睡眠時無呼吸センターを設置。 別府地区の「病診連携室」を「地域医療連携室」に改称。	28年	1月	臨床研究中核病院として承認。
	6月	「地域医療連携センター」を「医療連携センター」に改称。		4月	リハビリテーション科を設置。
	11月	「感染制御部」を「グローバル感染症センター」に改称。		11月	看護キャリアセンターを設置。
24年	1月	(別府地区)麻酔科を設置。		12月	血液・腫瘍内科を血液・腫瘍・心血管内科に改称。口腔総合診療部、特殊歯科総合治療部を改組統合して口腔包括診療科とし、専門診療科として口腔画像診断科、口腔総合診療科、高齢者歯科・全身管理歯科を設置。
	5月	「高度先端医療センター」を「ARO次世代医療センター」に改称。	29年	3月	外国人患者受入れ医療機関認証制度により認証。
25年	4月	「小児歯科」を「小児歯科・スペシャルニーズ歯科」に改称。 リウマチ膠原病内科学共同研究部門を設置。		4月	先導的学術研究拠点のARO次世代医療センターの時限到来に伴い、臨床研究推進部門を九州大学病院ARO次世代医療センターに改組。
	5月	小児救命救急センターを設置。			高度新規医療評価部を設置。
	9月	先進予防医療センターを廃止。			事務部戦略企画課を経営企画課及び研究支援課に改組。
	11月	「病理部」を「病理診断科・病理部」に改称。		6月	ECMOセンターを設置。
26年	2月	デンタル・マキシロフェイシャルセンターを設置。		8月	造血幹細胞移植地域支援センターを設置。
	4月	形成外科を設置。		12月	別府病院「リハビリテーション科」を設置。
		周術期支援センターを設置。	30年	1月	別府病院「整形外科」を「整形外科(脊椎骨髄)」に改称。
		周術期口腔ケアセンターを設置。		2月	がんゲノム医療中核拠点病院として指定。
		患者相談支援室を設置。		3月	福岡県原子力災害拠点病院として指定。
				4月	医療安全管理部を中央診療施設に改組。
				10月	集学的痛みセンター、歯科総合予診室及び口腔検査センターを設置。
			31年	1月	「神経内科」を「脳神経内科」に改称。
				4月	脳卒中センターを設置。

1916
大正5年



大正時代の附属医院入口

1936
昭和11年



昭和11年当時の病院

沿革

HISTORY Kyushu University Hospital

令和元年	12月	福岡県難病診療連携拠点病院として指定。
2年	4月	周術期支援センターを入退院・周術期支援センターに改組し、医療連携センターに編入。
3年	4月	院内措置施設であったARO次世代医療センターを中央診療施設として整備。
4年	4月	睡眠時無呼吸センターを廃止し睡眠時無呼吸専門外来を設置。
	8月	糖尿病診療支援センターを設置。
5年	1月	福岡県てんかん支援拠点病院として指定。
6年	3月	別府病院新棟開院。(再開発事業)
		別府病院「整形外科(脊椎脊髄)」を「整形外科」に改称。
	4月	「呼吸器科」を「呼吸器内科」に改称。
		経営戦略センターを設置。
		別府病院 婦人科再開。
		別府病院「慢性疾患診療部」を「リハビリテーション部」に改称。
7年	4月	「院内措置施設」を「院内診療支援施設」に改称
		「集学的診療単位」を「集学的診療施設」に改称
		移植医療センターを設置
		院内法務相談室を設置
8年	4月	未来医療開発センターを設置

2009
平成21年



外来診療棟開院

2011
平成23年



ヘリポート完成

診療科紹介

■ 診療科 医科部門

■ 診療科 歯科部門

■ 中央診療施設等

■ 院内診療支援施設等

■ 別府病院

血液・腫瘍・心血管内科

血液・腫瘍・心血管内科は、造血器疾患、固形腫瘍、心血管疾患に対して最新の医学的知見に基づいた医療をすすめています。総合内科としての特色を活かして、さまざまな分野の専門知識や技術を駆使して診療を行っています。



科長 菊繁吉謙



骨髄採取

【得意分野】

白血病など造血器悪性腫瘍の診療を中心に、病態に応じて抗がん剤・分子標的薬治療、難治症例に対しては同種造血幹細胞移植500例以上、自己末梢血幹細胞移植400例以上を実施してきました。また消化器癌、原発不明癌、肉腫やその他様々な希少がんなどの抗がん剤・分子標的薬治療、免疫療法、がんゲノム検査に基づいた治療も積極的に行っています。心血管インターベンション(冠動脈形成術、末梢血管形成術、腎動脈形成術、カテーテル心筋焼灼術、構造的疾患インターベンションなど)を行っています。

【診療体制】

日本内科学会総合内科専門医、日本血液学会専門医、日本造血・免疫細胞療法学会専門医、日本臨床腫瘍学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管カテーテル治療学会専門医、日本不整脈心電学会専門医などの資格をもつ医師(教員)が中心となり、専門的な診療を行っています。急性白血病や心血管疾患など、緊急を要する患者さんは、迅速に受け入れます。

【診療方針】

造血器と固形悪性腫瘍に対し、診断時の詳細な検査でその進行度、悪性度などを評価し、最適の治療法を選択します。心血管疾患では総合内科の特徴を活かし、局所治療のみならず、全身的な合併症の診断、治療を行います。治療方針決定に際して、患者さんにはつねに正確な情報を提供すると同時に、精神的・社会的な背景を考慮した治療を選択します。さらに臨床試験の実施を通じて、医学の進歩に貢献したいと考えています。

【対象疾患】

■造血器疾患(急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リン

パ性白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病・リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄線維症、真性多血症、本態性血小板血症、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、出血性疾患)

■固形腫瘍(食道癌、胃癌、大腸癌、小腸癌などの消化器腫瘍、化学療法が必要な甲状腺癌、原発不明癌、肉腫、GIST、消化管神経内分泌腫瘍・癌、胚細胞腫瘍、その他様々な希少がん)

■心臓病・血管疾患(大動脈・末梢血管)

【主な検査】

骨髄穿刺、骨髄生検、腰椎穿刺、腹腔穿刺、胸腔穿刺、細胞表面抗原検査、抗体検査、遺伝子検査、消化管内視鏡、がんゲノム検査、心臓カテーテル、心血管エコー、血管内超音波検査、腹部エコー

【主な治療】

■造血器悪性腫瘍に対する抗がん剤・分子標的薬治療、自己末梢血幹細胞移植、同種骨髄移植、同種末梢血幹細胞移植、臍帯血移植、免疫細胞療法(CAR-T細胞療法)

■骨髄不全に対する免疫抑制療法、同種造血幹細胞移植

■固形腫瘍に対する抗がん剤、分子標的治療、免疫療法、がんゲノム検査に基づいた治療

■心血管疾患に対する低侵襲治療:カテーテルアブレーション、冠動脈インターベンション、末梢血管インターベンション(頸・腎・下肢動脈)、バルーン肺動脈形成術、心臓植込型電気的デバイス、構造的疾患インターベンション

【学会施設認定】

日本内科学会、日本血液学会、日本造血・免疫細胞療法学会、日本臨床腫瘍学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本循環器学会、日本不整脈心電学会、日本心血管カテーテル治療学会

免疫・膠原病・感染症内科

免疫・膠原病・感染症内科は、難治性の自己免疫疾患、感染症に対して最新の医学的知見に基づいた医療をすすめています。総合内科としての特色を活かして、さまざまな分野の専門知識や技術を駆使して診療を行っています。



科長 菊繁吉謙



顕微鏡による病原微生物の同定

【得意分野】

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症を中心に自己免疫疾患全般に対する免疫抑制療法を行っています。重症・難治性感染症の診療に加え、基礎疾患による免疫不全状態、移植や生物学的製剤などの治療による免疫修飾状態における特殊な感染症の診断治療を行っています。発熱・炎症性疾患に対して、感染症、免疫異常、悪性疾患を含め総合的な診療を行っています。

【診療体制】

日本内科学会総合内科専門医、日本リウマチ学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本感染症学会専門医、Infection Control Doctorなどの資格をもつ医師(教員)が中心となり、専門的な診療を行っています。コンサルテーションを含め、他診療科との診断・治療についての連携を積極的に行っています。

【診療方針】

自己免疫疾患ではしばしば多臓器障害をきたすため、全身の臓器に対する幅広い知識を基に、関連診療科との連携をとりながら診療しています。自己免疫疾患の治療の分野は、近年抗サイトカイン療法の画期的な効果が明らかになり、大きく進歩しています。新規治療の開発や応用に取り組むために、私たちは基礎的な研究を深めながら、それを臨床に活かし発展させることに努めています。1,000床を超える病床をもつ九州大学病院内

での感染症コンサルトの一翼を担い、感染症の制御に努めています。

【対象疾患】

■膠原病・リウマチ疾患(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病、成人スチル病、血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、脊椎関節炎、ベーチェット病)

■感染症・細菌感染症、真菌感染症、結核、輸入感染症、不明熱、易感染宿主や免疫不全者における感染症

【主な検査】

自己抗体検査、各種画像診断(腹部エコー、関節エコー)、細菌培養、真菌培養、抗酸菌培養、感染症の遺伝子検査

【主な治療】

■膠原病・リウマチ疾患に対する免疫抑制療法

■病原微生物の分離・同定に基づく感染症に対する抗生物質を用いた化学療法

【学会施設認定】

日本内科学会、日本リウマチ学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会、日本環境感染学会

消化管内科

食道・胃・小腸・大腸などの消化管疾患に対して、専門医が最新の知見と技術をもとに、高度かつ専門的な診断・治療を行っています。内視鏡検査や内視鏡的治療(ESD・EMR)、カプセル内視鏡、小腸内視鏡などの先進的な機器を用いた精密な診断を実施しています。また、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患、消化管腫瘍、遺伝性疾患にも幅広く対応し、多職種・他診療科と連携したチーム医療により、患者さんにとって最適な医療の提供を目指しています。



科長 吾郷哲朗



内視鏡検査

【得意分野】

胃癌・大腸癌およびその他の消化管腫瘍(腺腫・GIST・神経内分泌腫瘍など)の診断と治療を専門としています。また、逆流性食道炎やアカラシアなどの食道疾患、ピロリ菌感染に関連した胃の病気にも広く対応しています。さらに、内視鏡的粘膜切除術(EMR)や粘膜下層剥離術(ESD)などの内視鏡治療や、小腸腫瘍・小腸炎に対するX線および内視鏡検査(カプセル内視鏡・ダブルバルーン小腸内視鏡)も積極的に実施しています。クローン病・潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患には分子標的治療を含む最新の医療を提供しており、家族性大腸腺腫症に対する遺伝子診断など、予防医療にも力を入れています。

【診療体制】

日本消化器病学会および日本消化器内視鏡学会の指導医・専門医を中心に、専門的な外来および入院診療を行っています。難治性疾患にも対応するため、外来担当医と病棟医師が緊密に連携し、一貫した医療体制を構築しています。また、消化器外科とも密に連携し、内科・外科の枠を超えた総合的かつ切れ目のない診療体制を整えています。

【診療方針】

とくに慢性炎症性腸疾患では、患者さんとの対話を重視し、生活スタイルや価値観に寄り添った治療方針の選択を心がけています。どのような疾患においても、わかりやすく丁寧な説明を行い、患者さんご自身が納得のうえで治療に臨めるよう支援しています。また、症例に応じて多職種・多診療科によるカンファレンスを定期的に開催し、治療方針を慎重に相談・検討する体制を整え、より専門的かつ包括的な医療の提供に努めています。

【対象疾患】

- 食道の病気: 食道癌、逆流性食道炎、食道腫瘍、アカラシアなど
- 胃、十二指腸の病気: 胃癌、胃・十二指腸潰瘍、胃炎、胃・十二指腸ポリープ、悪性リンパ腫、胃・十二指腸神経内分泌腫瘍、胃粘膜下腫瘍、消化管ポリポースなど
- 小腸の病気: クローン病、小腸出血、悪性リンパ腫、小腸腫瘍、小腸癌、腸管ペーチェット病、非特異性多発性小腸潰瘍症など
- 大腸の病気: 大腸ポリープ、大腸癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、家族性大腸腺腫症など
- その他: 全身性の病気における消化管の病変

【主な検査】

上下部消化管内視鏡検査(超音波内視鏡検査、拡大内視鏡検査、画像強調内視鏡検査)、上下部消化管X線造影検査、超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、カプセル内視鏡検査

【主な治療】

■ 内視鏡治療

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)・内視鏡的粘膜切除術(EMR): 食道癌、胃癌、大腸癌、十二指腸腫瘍
 内視鏡的ポリープ切除術(ポリペクトミー): 食道・胃・十二指腸・大腸ポリープ
 内視鏡的止血術: 消化管出血
 内視鏡的狭窄拡張術: アカラシア、小腸狭窄
 消化管ステント留置術: 悪性腫瘍による消化管狭窄

【学会施設認定】

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、日本カプセル内視鏡学会、日本炎症性腸疾患学会

腎・高血圧・脳血管内科

腎・高血圧・脳血管内科は、腎臓病、高血圧、糖尿病、脳卒中、動脈硬化性疾患など全身の心血管病を、総合的に診断し治療を行っています。



科長 吾郷哲朗



腎・高血圧・脳循環の回診

【得意分野】

- 腎臓病: 無症候性血尿・蛋白尿から末期腎不全に至る腎疾患の診療を行っています。
- 高血圧: 治療抵抗性高血圧、二次性高血圧、合併症を伴う高血圧、妊娠合併高血圧などを中心に診療を行っています。
- 脳卒中: 脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血などの急性期診療とともに、頸動脈や脳血管病変の精密検査も行い、脳卒中発症予防の方法を提案します。さらに、頭痛や認知症進行予防のための診療を行っています。
- 糖尿病: 血糖管理や糖尿病合併症の評価・治療を行っています。当科は日本糖尿病学会の認定教育施設です。

【診療体制】

日本内科学会専門医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医、日本高血圧学会専門医、日本循環器学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本老年医学会専門医、日本認知症学会専門医が、それぞれの専門的な診療にあたり、ともに、緊密に協力して全身の心血管病に対する包括的な医療を行います。脳卒中、急性腎疾患、高血圧緊急症に対する救急医療を積極的に行っています。

【診療方針】

心血管病の多くは救急疾患で、24時間体制で診療を行っています。また、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の治療は長期間に及ぶため、患者さんに治療の必要性を納得してもらい、生活の質(QOL)を重視した診療を行います。

【対象疾患】

- 腎臓病: 急性および慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、膠原病に伴う腎障害、電解質異常、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、急性および慢

性腎不全、二次性副甲状腺機能亢進症、長期透析合併症、腎移植後など

- 高血圧: 悪性高血圧、治療抵抗性高血圧、二次性高血圧(腎血管性高血圧、内分泌性高血圧など)、合併症を伴う高血圧、妊娠合併高血圧など
- 脳卒中: 脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症、眼虚血症候群、その他の神経救急疾患(てんかん、意識障害)、頭痛、認知機能障害など
- 糖尿病: 2型糖尿病、1型糖尿病、ステロイド糖尿病、妊娠糖尿病、低血糖症など

【主な検査】

- 24時間血圧測定、ホルター心電図検査、超音波検査(腎臓、副甲状腺、心臓、頸部血管、経頭蓋超音波ドプラ、腹部血管、下肢静脈)、腎生検、脈波伝播速度(PWV)、脳波など
- 頭部CT、頭部MR、SPECT、脳血管造影検査、腎シンチ、レノグラム(放射線科と協力して行います)など

【主な治療】

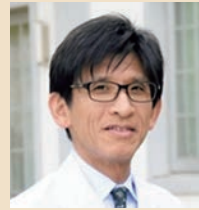
- 末期腎不全: 血液透析療法、腹膜透析療法、バスキュラーアクセス作成術、腹膜透析(CAPD)カテーテル挿入術
- 高血圧: 降圧治療 ■ ネフローゼ症候群: ステロイド治療、LDL吸着療法
- 脳卒中: 超急性期血栓溶解療法・血栓回収療法、抗脳浮腫療法、抗凝固・抗血小板療法、脳保護療法
- 糖尿病: インスリン治療、GLP-1治療、インスリンポンプ治療(CSII)

【学会施設認定】

日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本高血圧学会、日本循環器学会、日本脳卒中学会、日本老年医学会、日本認知症学会、日本糖尿病学会

内分泌代謝・糖尿病内科

内分泌代謝・糖尿病内科では、内分泌疾患、糖尿病、生活習慣病の診療を中心に、最新の知見に基づく診断・治療を行っています。



科長 小川佳宏



甲状腺穿刺吸引細胞診

【得意分野】

- 内分泌代謝：下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺疾患。肥満症に対する集学的治療、二次性高血圧の鑑別診断と治療、骨代謝疾患（骨粗しょう症など）、電解質異常。免疫チェックポイント阻害薬による内分泌有害事象（irAE）への対応。
- 糖尿病：食事療法、経口糖尿病薬、GLP-1アナログ、インスリンなどによる持続血糖モニタリングを指標とした血糖コントロール。短期教育入院。最新機器を用いた糖尿病に伴う細小血管障害や動脈硬化症など合併症の評価。

【診療体制】

日本内分泌学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本肥満学会専門医などの資格をもつ医師が専門的な診療を行っています。長期間にわたる管理が必要なことが多く、病病・病診連携を有効に活用して患者さんの十分な理解が得られる説明と、それぞれの病態に応じた最適な診療を行っています。

【診療方針】

内分泌代謝領域ではわが国有数の専門施設として、外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科などと連携の上、多種多様な内分泌疾患に対し、最善の治療を行っています。また、生活習慣病の背景として内分泌代謝学的成因が深く関わっていることが近年明らかになり、これら生活習慣病の診断、治療にも力を注いでいます。糖尿病は、糖尿病専門医、糖尿病療養指導士、看護師、管理栄養士、薬剤師の専門チームで診療しています。糖尿病合併症の評価と治療にも積極的に取り組む、患者さんの生活の質が向上するよう努めています。

【対象疾患】

- 内分泌代謝：下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などの内分泌疾患と肥満症、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症などの生活習慣病、電解質異常

- 糖尿病：1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、膵性糖尿病、遺伝子異常による糖尿病、低血糖症

【主な検査】

- 内分泌機能確認検査（負荷試験） ■ CT、MRI
- 超音波検査（甲状腺、副甲状腺、頸動脈、腹部）
- 甲状腺穿刺吸引細胞診 ■ 骨密度測定 ■ 精密体脂肪測定
- シンチグラフィ（甲状腺・副甲状腺・副腎・オクトレオスキャン）
- 選択的静脈サンプリング（副腎静脈、下垂体静脈） ■ 遺伝子検査
- インスリン分泌能検査、インスリン抵抗性検査（SSPG法）
- 持続血糖測定モニタリング（CGMS）
- 神経伝導速度検査、精密振動覚閾値検査、自律神経機能検査
- 脈波伝播速度測定（PWV）、ABI、CAVI、血管内皮機能検査（Endo-PAT）、頸動脈超音波検査
- 眼底写真検査 ■ PET-CT

【主な治療】

内分泌代謝：ホルモン補充療法、ホルモン合成阻害薬・受容体拮抗薬による薬物療法（機能性内分泌腫瘍）、化学療法（悪性内分泌腫瘍）、テプロツムマブ治療/ステロイドパルス・放射線療法（甲状腺眼症）、アイソトープ治療（バセドウ病・甲状腺癌・褐色細胞腫）

糖尿病：糖尿病教室、食事療法、運動療法、血糖降下薬内服治療、インスリン治療、インクレチン治療、持続的皮下インスリン注入療法、合併症の治療

【学会施設認定】

日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会

肝臓・膵臓・胆道内科

肝臓・膵臓・胆道内科は、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵臓癌、膵内分泌腫瘍、胆石症、胆道癌、消化管機能異常、炎症性腸疾患、消化管癌など、肝臓・膵臓・胆道・消化管疾患を中心に、最新の検査・治療を用いて診療しています。必要に応じて他科とも連携し、迅速な対応を行っています。



科長 小川佳宏



内視鏡的膵胆管造影（ERCP）

【得意分野】

- 肝臓：ウイルス性肝炎の経口剤治療、代謝機能障害関連脂肪肝炎（MASH）の評価と治療、肝臓癌のラジオ波焼灼術や化学療法、急性肝不全に対する集学的治療など
- 膵臓・胆道：膵臓癌、膵神経内分泌腫瘍と胆道癌に対する集学的治療、重症急性膵炎に対する集学的治療、慢性膵炎・自己免疫性膵炎の診断と治療、閉塞性黄疸・総胆管結石に対する内視鏡的治療
- 消化管：消化管機能異常、炎症性腸疾患、消化管癌に対する治療

【診療体制】

日本内科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医などの資格をもつ医師が専門的な診療を行っています。急性肝不全や重症急性膵炎など、緊急を要する疾患に対しても迅速に対応しています。

【診療方針】

肝胆膵・消化管疾患は、救急疾患から悪性腫瘍まで多岐に及び、患者さん・ご家族の十分な理解が得られるよう説明し、先進的な医療も視野に入れ、新しい疾患概念の確立や難治性疾患の治療にも積極的に取り組んでいます。

【対象疾患】

- 肝臓：急性肝炎・肝不全、脂肪肝・MASH、慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、代謝性肝疾患、自己免疫性肝疾患など
- 膵臓・胆道：急性膵炎、慢性膵炎、膵臓癌、膵のう胞性疾患、膵神経内分泌腫瘍、自己免疫性膵炎、胆石症、胆のう炎/胆管炎、胆管癌、胆のう癌など
- 消化管疾患：食道アカラシア、胃食道逆流症、潰瘍性大腸炎、クロー

ン病、消化管癌など

【主な検査】

- 腹部エコー・CT・MRI 検査
- 肝生検、肝腫瘍生検
- 内視鏡的膵胆管造影（ERCP）・管腔内超音波検査・経乳頭の膵管鏡/胆道鏡・胆汁/膵液細胞診
- 超音波内視鏡検査（EUS）・超音波内視鏡下穿刺吸引生検法（EUS-FNA）
- 高解像度食道内圧検査、24時間食道内pH・インピーダンス検査

【主な治療】

- 経口抗ウイルス剤による慢性ウイルス性肝炎の治療
- 急性肝不全に対する集学的治療
- 肝臓癌に対する局所療法：エタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法
- 肝硬変合併症に対する治療
- 肝・膵・胆道癌の集学的治療
- 閉塞性黄疸・総胆管結石・膵仮性のう胞などの内視鏡的治療
- 急性膵炎・慢性膵炎の診断と治療
- 自己免疫性肝炎・自己免疫性膵炎の診断と治療
- 食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術（POEM）
- 胃食道逆流症に対する内視鏡的逆流防止粘膜切除術（ARMS）
- 消化管癌に対する内視鏡的粘膜切開剥離術（ESD）

【学会施設認定】

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、日本膵臓学会、日本消化管学会

心療内科

日本で最初に開設された心療内科です。身体疾患の中でも、発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し、器質的・機能的障害を認める病態(心身症)の治療を行っています。心理療法を用いて症状の改善を目指す内科です。



科長 須藤信行



医局カンファレンス

【得意分野】

ストレスなど心理社会的因子の影響が大きい身体疾患の治療を行います。疾患や症状の評価に際し、各種身体検査に加えて、心理社会的背景を聴取します。心身相関の可能性を検討し、身体面・心理面の両面から治療を行います。

【診療体制】

日本内科学会総合内科専門医、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医、日本アレルギー学会専門医、日本糖尿病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医などの資格をもつ医師が連携して診療にあたります。臨床心理士・公認心理師が診療をサポートします。

【診療方針】

特定の疾患や症状に限定せず、患者さんの心理社会的背景なども考慮して、個々人に合った総合的な診断・治療を行っています。一般的な内科診療と心理療法を組み合わせ、心身両面から治療を行います。

【対象疾患】

気管支喘息、本態性高血圧、機能的ディスペプシア、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、嘔吐症、摂食障害、肥満症、糖尿病、甲状腺機能亢進症、慢性疼痛、アトピー性皮膚炎、睡眠障害、自律神経失調症など

【主な検査】

各種心理テスト、自律神経機能検査、基礎代謝測定、腹部超音波検査、頭部MRI、脳波検査、終夜睡眠ポリグラフィなど

【主な治療】

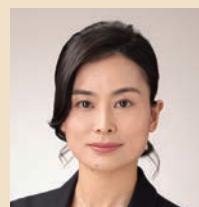
- 心理療法: 認知行動療法、自律訓練法、交流分析、家族療法、芸術療法(絵画療法、箱庭療法)、遊戯療法、ヨガ療法、内観療法、動機づけ面接、アクセプタンス&コミットメント・セラピー、弁証法的行動療法、摂食障害に対する認知行動療法(CBT-E)、支持的心理療法など
- 薬物療法: 身体疾患の治療薬、向精神薬、漢方薬など

【学会施設認定】

日本内科学会、日本心身医学会、日本心療内科学会、日本アレルギー学会、日本糖尿病学会(教育関連施設)、日本肥満学会

脳神経内科

脳神経内科の担当領域は、てんかん、認知症、頭痛などの頻度の高い神経疾患から多発性硬化症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病まで多岐にわたり、最先端の医療を行っています。



科長 磯部紀子



病棟カンファレンスの様子

【得意分野】

多発性硬化症などの免疫性神経疾患にさまざまな免疫療法を実施しています。各種神経変性疾患における診断と治療のほか、ブレインセンターで脳機能の総合的な評価をさまざまな最新機器を用いて行い、てんかんや認知症などの脳機能解析と治療に取り組んでいます。各種臨床試験も積極的に行っています。

【診療体制】

日本神経学会認定神経内科専門医(教員・医員など)が連携して専門的な診療にあたっています。福岡県てんかん支援拠点病院として地域のとんかん診療を担っています。福岡市認知症疾患医療センターとして認知症専門外来を精神科神経科と共同で実施しています。福岡県難病ネットワークの難病診療連携拠点病院として、地域における神経難病患者さんの療養環境整備にも取り組んでいます。

【診療方針】

丁寧な問診と診察、わかりやすい説明を診療の基本方針としています。各種抗体製剤や核酸医薬など最先端の脳神経内科医療を提供し、地域医療機関と連携した診療と療養環境整備を行います。

【対象疾患】

神経変性疾患(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、アルツハイマー病など)、免疫性神経疾患(多発性硬化症、視神経脊髄炎スペクトラム障害、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、筋炎など)、てんかん、感染性疾患(脳炎、髄膜炎など)、脳血管障害、その他(頭痛、筋ジストロフィーなど)

【主な検査】

- 神経伝導検査、針筋電図、誘発電位、脳波
- 長期脳波ビデオ同時記録検査、終夜睡眠ポリグラフィ
- 神経画像検査(CT、MRI、脳血流シンチ、ドパミントランスポートシンチ、PETなど)
- 頸動脈エコー、高次脳機能検査、自律神経機能検査、電流知覚閾値検査など
- 髄液検査、筋生検、遺伝子検査、特殊抗体検査

【主な治療】

- 免疫性神経疾患: 免疫グロブリン大量静注療法、血漿交換療法、ステロイド大量静注療法、疾患修飾薬、免疫抑制剤、各種分子標的治療(抗体製剤)
- パーキンソン病: レボドパ、ドパミン受容体刺激薬、各種デバイス療法など
- 筋萎縮性側索硬化症: リルゾール、エダラボン、トフェルセンなど
- てんかん: 抗発作薬、脳神経外科と共同でてんかん外科手術
- アルツハイマー病: ドネペジル、メマンチン、ガランタミン、リバスチグミン、レカネマブ、ドナネマブ
- 各種代謝性疾患: 酵素補充療法
- 片頭痛: トリプタン製剤、分子標的治療(抗体製剤)

【学会施設認定】

日本神経学会、日本内科学会、日本脳卒中学会、日本てんかん学会、日本認知症学会、日本頭痛学会、日本睡眠学会

循環器内科

心筋梗塞・狭心症から心不全、不整脈、弁膜症、肺高血圧症、成人先天性心疾患まで、科学的根拠に基づいた適切な治療を心がけ、先進医療にも積極的に取り組んでいます。



科長 阿部弘太郎



心臓カテーテル検査

【得意分野】

心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈、弁膜症、肺高血圧症、静脈血栓症などすべての循環器(心臓・血管)疾患の診療を行います。また小児科とも連携して成人先天性心疾患の診療も行っています。冠動脈疾患治療部(CCU)と連携し、虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション、各種不整脈に対するカテーテルアブレーション、重症心不全に対する両心室ペースティング、左室補助人工心臓、心臓移植(心臓血管外科と連携)、運動療法、肺動脈性肺高血圧症に対するPGI2持続静注療法や慢性血栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術、さらには経皮的心房中隔欠損閉鎖術(ASO)、経皮的卵円孔閉鎖術、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、経カテーテル肺動脈弁置換術(TPVI)、経皮的カテーテル僧帽弁修復術(心臓血管外科と連携)、補助人工心臓や心臓移植後管理など他院で治療困難な症例も積極的に診療しています。

【診療体制】

外来はおもに教員が担当し、病棟は教員、医員、研修医がチームを組んで診療にあたっています。CCUと併せて15名の教員、11名の医員、内20名が循環器専門医です。入院診療は主治医の上に指導医、疾患別カンファレンス、教授(科長)回診があり、三重のチェック体制をとっています。夜間帯は医師2名(内1名がCCU)が常駐しています。

【診療方針】

胸痛、動悸、息切れ、失神などの症状で循環器疾患かどうかはつきりしない症例についても、すべて診療します。外来で入院精査が必要かどうかなどの判断を行います。病診連携を積極的に進め、退院後安定した症例の投薬治療は原則としてかかりつけ診療所・病院にお願いしています。その後も緊急時には24時間対応しています。

【対象疾患】

入院症例の内訳は、急性心筋梗塞症や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、不整脈がほぼ半数で、先天性心疾患、弁膜症、肺高血圧症、動脈疾患、静脈血栓症などが続いています。

【主な検査】

心臓カテーテル検査(IVUS、OCT、FFRを含む)、心臓超音波検査(3D、2Dストレイン、経食道を含む)、血管超音波検査、脈波伝播速度検査、ホルター心電図、トレッドミルテスト、心肺運動負荷試験、ポリソムノグラフィ、心臓核医学検査、冠動脈CT、FFRCT、心臓MRI、心臓PET-CT

【主な治療】

冠動脈インターベンション(ロータブレードを含む)、末梢血管形成術、経皮的僧帽弁交連切開術、下大静脈フィルタ、カテーテルアブレーション、永久ペースメーカー植込み*、植込み型除細動器(ICD)*、両心室ペースティング(CRT)、経皮的リード抜去術、大動脈バルーンポンピング、ECMO、補助循環用ポンプカテーテル、経皮的心房中隔欠損閉鎖術、経皮的卵円孔閉鎖術、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)*、経カテーテル肺動脈弁置換術(TPVI)、経皮的カテーテル僧帽弁修復術*、経皮的左心耳閉鎖術、バルーン肺動脈形成術、下肢静脈インターベンション、補助人工心臓*、心臓移植*

*は、心臓血管外科と連携

<https://www.cardiol.med.kyushu-u.ac.jp>

【学会施設認定】

日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈学会、日本動脈硬化学会、日本高血圧学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本成人先天性心疾患学会

呼吸器内科

肺癌や間質性肺疾患などの難治性呼吸器疾患をはじめとし、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患などのcommon disease さらには膠原病、サルコイドーシスなど全身疾患に伴う肺病変など多岐にわたる病態を診療しています。



科長 岡本 勇



カンファレンスの風景

【得意分野】

肺癌を中心とした腫瘍性呼吸器疾患が入院症例の約8割を占め、ゲノム医療、免疫チェックポイント阻害剤を含む薬物療法など最新のエビデンス(科学的根拠)に基づく標準治療の実践を基本としています。さらに大学病院のミッションである最新治療を提供すべく、多くの医師主導臨床試験および新薬開発を目的とした企業治験、医師主導治験に積極的に取り組んでいます。間質性肺炎、重症喘息など治療困難症例に関しても最新治療に取り組んでいます。

【診療体制】

日本呼吸器学会専門医11名(指導医7名)、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医4名(指導医4名)、癌治療認定医3名、日本感染症学会専門医1名、日本結核・非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌症認定医2名、日本救急医学会専門医1名と、幅広くさまざまな呼吸器疾患に精通した専門医を配しています。「肺癌」「喘息・COPD」「感染症・びまん性肺疾患」の診療グループごとにカンファレンスを行い、治療方針を決定しています。また外科、放射線科とも合同カンファレンスを実施し、診療科横断的な診断・治療を展開しています。

【診療方針】

エビデンスに基づく実践を基本とし、難治性呼吸器疾患の治療成績向上を目指した新たなエビデンスを創出すべく臨床研究を積極的に展開しています。チームとして診療方針を決定し、患者さ

んに納得して治療を受けていただけるように、病状、治療方針についてわかりやすく説明することを心がけています。

【対象疾患】

腫瘍性呼吸器疾患(原発性肺癌、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍など)。びまん性肺疾患(特発性間質性肺炎、膠原病関連、薬剤性肺障害、サルコイドーシスなど)。慢性気道疾患(気管支喘息、COPDなど)。感染症(重症肺炎、肺真菌症など)。その他、自然気胸、急性呼吸促迫症候群、慢性呼吸不全。

【主な検査】

肺機能検査、気管支鏡検査(クライオ生検を含む)、胸部CT検査、MRI検査、FDG-PET検査、遺伝子パネル検査、胸腔鏡検査、肺換気血流シンチ検査

【主な治療】

- 肺癌:がんゲノム医療(分子標的治療薬)、免疫チェックポイント阻害剤、化学療法
- 間質性肺炎:抗線維化薬、ステロイド、免疫抑制剤
- 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患:吸入療法、生物学的製剤
- 感染性疾患:抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬

【学会施設認定】

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本臨床腫瘍学会、日本アレルギー学会、日本感染症学会

産科婦人科

産科婦人科は1905年に婦人科学産科学講座として開講された本学でもっとも古い講座の一つで、婦人科腫瘍、生殖内分泌、周産期、女性ヘルスケアを含む産科婦人科全般に関して診療を行っています。

【得意分野】

- 婦人科悪性腫瘍に対する集学的治療、がん遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療、子宮頸癌・体癌に対する鏡視下手術・センチネルリンパ節ナビゲーション手術・子宮頸癌に対する妊孕性温存手術（広汎子宮頸部摘出術）。
- 内視鏡手術（婦人科良性腫瘍・異所性妊娠に対する腹腔鏡手術、子宮鏡手術、過多月経に対するMEA）、人工授精・体外受精を含めた不妊治療、がん生殖医療としての卵子凍結・胚凍結、中高年女性退行性疾患に対する集学的治療。
- ハイリスク妊婦の妊娠・分娩・産褥管理並びに、疾病胎児の診断・胎児治療

【診療体制】

日本産科婦人科学会（専門医25名）、日本婦人科腫瘍学会（専門医7名）、日本周産期・新生児医学会（専門医6名）、日本臨床細胞学会（専門医2名）、日本超音波医学会（専門医2名）、日本生殖医学会（専門医2名）、日本がん治療認定医機構（認定医9名）、日本産科婦人科内視鏡学会（技術認定医4名）、臨床遺伝専門医1名、女性ヘルスケア専門医5名が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

当科は九州一円における高次診療ならびに教育研修施設として一般的な産科婦人科診療に加えて先端的な診療を行っています。

今後も地域の病院と連携しながら、ハイリスク疾患や高度医療に特化した診療を目指していきます。

【対象疾患】

診療対象である疾患は、婦人科悪性・良性腫瘍、不妊・内分泌疾患、性器の形態異常、女性の加齢に伴う疾患、ハイリスク妊娠および分娩・産褥合併症、胎児異常などです。

【主な検査】

超音波検査：経腹的・経腔的に異常の有無を検査します。
内視鏡検査：子宮腔部拡大鏡検査や子宮鏡検査を行っています。
羊水・臍帯血検査：染色体検査、遺伝子解析、胎児血検査などを行っています。

【主な治療】

子宮頸癌・体癌に対する鏡視下手術（腹腔鏡手術、ロボット支援手術）やセンチネルリンパ節ナビゲーション手術、将来の妊娠を可能とする子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出術等の低侵襲手術・機能温存治療を積極的に行っています。婦人科良性疾患・不妊・内分泌疾患に対しては腹腔鏡・子宮鏡手術、人工授精・体外受精を含めた不妊治療、さらに産科領域では胎児水腫、胎児不整脈、閉塞性尿路障害の疾病胎児を対象に胎児治療を行っています。

小児科

将来を担う子どもの健康を、最先端の医療を通じてやさしく支援します。2013年2月に小児がん拠点病院、5月に小児救命救急センターの指定を受けました。2014年4月に成人診療科への移行期医療をサポートするトランジショナルケア外来を、2020年3月に小児AYA世代がんフォローアップ外来を開設しました。



科長 酒井康成

【得意分野】

経験豊かな専門グループのスタッフが協力し、一般診療から高度・先進医療まで、さまざまな疾患に広く深く専門的に対応します。

【診療体制】

60名の小児科医師（うち小児科学会専門医50名）で診療を行います。

【診療方針】

“すべての子どもに夢と希望と輝く笑顔を”をモットーに、高度な専門性と総合力で、安心できる医療を実践します。

【対象疾患】

- 免疫・血液疾患：免疫不全症、自己免疫疾患、自己炎症性疾患、血球貪食症候群、造血障害や血友病、炎症性腸疾患など
- 腫瘍：小児白血病や悪性リンパ腫・すべての小児固形腫瘍
- 感染症・アレルギー：小児感染症全般。海外渡航者を含めた予防接種（予約制）。アレルギー、気管支喘息
- 循環器疾患：先天性心疾患や川崎病などの後天性心疾患、不整脈、心疾患手術の周術期管理、成人先天性心疾患、心筋炎や心筋症などの重症心不全
- 神経疾患：てんかん、発達遅滞、脳性麻痺、脳炎・脳症、脳血管障害、代謝・変性疾患、神経筋疾患、こころの診療（児童精神科と共同の「子どものこころの診療部」）、神経難病に対する遺伝子治療
- 腎疾患：先天性腎尿路異常、腎炎、ネフローゼ症候群、遺伝性

腎症など。腹膜透析や、血液透析、腎移植前後の管理

- 新生児：極低出生体重児のフォローアップ健診と発達検査、在宅療養指導、合併疾患児のトータルケアなど
- 内分泌：先天代謝異常症・遺伝性疾患：低身長、甲状腺・副腎・性腺などの内分泌疾患、糖尿病、先天代謝異常症と遺伝相談など
- 小児救命救急・集中治療：人工呼吸、血液透析、ECMOなど重症対応
- 小児緩和ケアチーム：すべての子どもが対象

【主な検査】

フローサイトメーター検査、心臓カテーテル検査、腎生検、内分泌負荷試験、遺伝学的検査、ビデオ脳波、非侵襲性脳機能計測など

【主な治療】

- 造血細胞移植（白血病、固形腫瘍、造血・免疫異常など）、CAR-T療法、酵素補充・遺伝子治療など
- カテーテル手術：バルーンによる弁・血管形成術、コイル塞栓術、ステントを使用した血管形成術、不整脈に対するカテーテルアブレーション（焼灼術）など

【学会施設認定】

日本小児科学会、日本小児循環器学会、日本小児神経学会、日本小児血液がん学会、日本周産期・新生児医学会、日本人類遺伝学会、日本内分泌学会、日本血液学会、日本造血・免疫細胞療法学会、日本腎臓学会、日本てんかん学会

消化管外科

食道・胃・大腸のがん治療を中心に診療を行っています。消化管内科や肝臓外科、呼吸器外科、血液腫瘍内科、放射線科などの診療科との連携を通して、化学療法や放射線治療など総合的な診療を行い、がんの根治を目指します。また最新の薬剤だけでなく、治験薬も使用できる場合があります。

【得意分野】

食道、胃、大腸はそれぞれの分野でロボット支援下を含む内視鏡外科手術を行い、根治性と機能温存の両立を実現しています。食道癌は早期がんだけでなく、切除が困難と考えられる患者さんにも、抗がん剤や放射線治療で腫瘍を小さくして、積極的に手術を行っています。胃癌の手術では切除から再建まですべての手術操作をロボット支援下を含む腹腔鏡で行う、完全腹腔鏡手術をほぼ全例取り入れています。大腸の手術のほぼ全例をロボット支援下を含む腹腔鏡で行っています。炎症性腸疾患(クローン病や潰瘍性大腸炎)は、患者さん個々に最適な治療を選択しています。

【診療体制】

日本外科学会専門医:14名 日本外科学会指導医:8名 日本消化器外科学会専門医:14名 日本消化器外科学会指導医:9名 日本内視鏡外科学会技術認定医:11名 ロボット支援手術ブロッカー:8名 日本食道学会食道外科専門医:2名 日本食道学会食道科認定医:4名 日本大腸肛門病学会専門医:2名 日本大腸肛門病学会指導医:2名 日本がん治療認定医機構認定医:11名 日本遺伝性腫瘍学会専門医:2名 がん薬物療法専門医:2名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医:1名 日本消化器病学会専門医:3名 日本消化器病学会指導医:1名などの専門的なスタッフが十分な知識と技術をもって診療にあたります。

【診療方針】

ロボット支援下を含む内視鏡外科手術をはじめとした多彩な治療法を提案し、患者さんに十分説明して理解を得たうえで、もっとも適した治療を選択します。患者さんの生活の質が可能な限り維持できるような医療を実践するため、さまざまな分野の専門家が連携して相談しながら診療に取り組

んでいます。

【対象疾患】

食道:食道癌、食道憩室、食道破裂、食道裂孔ヘルニア、食道良性腫瘍、食道胃接合部癌、逆流性食道炎、食道アカラシア

胃・十二指腸:胃癌、十二指腸癌、消化管間葉腫瘍(GIST)、神経内分泌腫瘍(NET, NEC)

小腸:炎症性腸疾患、小腸癌、消化管間葉腫瘍(GIST)、神経内分泌腫瘍(NET, NEC)

大腸:大腸癌(結腸癌、直腸癌、肛門管癌)、消化管間葉腫瘍(GIST)、神経内分泌腫瘍(NET, NEC)、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)、家族性大腸腺腫症、肛門疾患(直腸脱、痔ろう癌)

【主な検査】

上部消化管内視鏡・透視、下部消化管内視鏡・透視、超音波内視鏡、CT、MRI、腹部超音波、PET検査、肛門機能検査

【主な治療】

■低侵襲手術:胸腔鏡・腹腔鏡下手術(食道切除再建術、胃切除術、胃全摘術、結腸切除術、直腸切除術、大腸全摘)、単孔式腹腔鏡手術(結腸切除術)、ロボット支援下手術(食道癌、胃癌、大腸癌(結腸、直腸)、LECS(胃GIST))

■一般開腹手術:結腸切除術、直腸切除術、骨盤内臓全摘術

■化学療法:術前後の補助化学療法や局所進行、再発がんに対する化学療法

【学会施設認定】

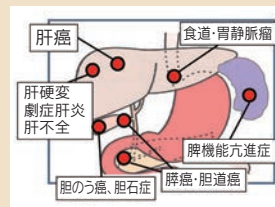
日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本大腸肛門病学会、食道外科専門医認定施設

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科の担当する専門領域は、肝臓・胆道・脾臓、脾臓・門脈、肝臓移植で、それらの各領域の専門家が有機的に繋がりをもちて患者さんの診療を行っています。



科長 吉住明晴



主な対象疾患

【得意分野】

肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科では肝臓・脾臓、肝臓移植、門脈圧亢進症の疾患を対象に、手術をはじめとして、低侵襲的治療、薬物療法、また最新の治療を行っています。肝臓の手術では腹腔鏡下やロボット支援の肝切除を積極的に取り入れ、身体にやさしい手術を目指しています。肝臓移植の症例数は1,100例を超え、良好な成績をおさめています。当科は、脳死肝移植の認定施設として現在までに114例(2026年4月1日現在)の脳死肝移植を行っています。また、胆道・脾臓癌に対しても治療を行っております。

【診療体制】

日本外科学会(指導医2名、専門医7名)、日本消化器外科学会(指導医5名、専門医7名)、日本肝臓学会(指導医3名、専門医7名)、日本肝胆脾外科学会(高度技能指導医2名、専門医5名)、日本内視鏡外科学会(技術認定医1名)、日本移植学会(移植認定医4名)、日本がん治療認定医機構(認定医7名)が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

患者さんに十分に説明した上で、もっとも適した治療法を選択することを基本としています。患者さんには高度の専門知識をもったスタッフがチーム診療にあたります。患者さんに優しい医療の実践のため、各疾患の専門家が皆でディスカッションし

ながら診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

■肝臓外科:原発性肝癌、転移性肝癌、胆道癌、脾臓癌

■肝臓移植外科:末期肝不全(B/C型肝硬変、原発性胆汁性胆管炎、アルコール性肝硬変、非アルコール性肝硬変)、肝細胞癌、劇症肝炎、先天性代謝異常疾患

■脾臓門脈外科:門脈圧亢進症、食道静脈瘤、脾腫瘍、脾機能亢進症、脾臓摘出を要する血液疾患

【主な治療】

■肝臓・胆道・脾臓の悪性腫瘍(主にがん)に対する手術

■生体肝移植・脳死肝移植

■肝臓・胆道・脾臓の悪性腫瘍に対する薬物療法

■脾機能亢進症・門脈圧亢進症に対する手術

■低侵襲治療:腹腔鏡下肝切除術、ロボット支援肝切除、腹腔鏡下脾臓摘出術

【学会施設認定】

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本胆道学会、日本肝胆脾外科学会、日本肝臓学会脳死肝移植実施施設、日本内視鏡外科学会

胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科

胆道、膵臓外科部門では、肝臓、胆のう、胆管、膵臓、脾臓などの悪性疾患や、胆石などの良性疾患の外科手術と、内視鏡を用いた診断と治療(ERCP、PTCD)を行っています。膵臓移植・腎臓移植外科については、腎不全で透析中あるいは透析導入予定の患者さんに対する腎臓移植や、重症糖尿病患者さんに対する膵臓移植などを行っています。患者さんにやさしく、また、患者さん一人ひとりに応じた医療の実践を心がけています。

【得意分野】

肝胆膵領域癌に対する根治術のほか、胆石症や膵臓腫瘍・胆道拡張症に対するロボット支援下手術、内視鏡外科手術も行っています。また、肝内結石症や総胆管結石症などに対する内視鏡的治療(ERCP、PTCD)にも取り組んでいます。生体腎臓移植のドナー手術(腎臓摘出術)は、全例で内視鏡外科手術を適応し、患者さんの負担の軽減を目指しています。

【診療体制】

日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能医、日本移植学会認定医、日本内視鏡外科技術認定医など、専門のスタッフが十分な知識と技術をもって診療にあたっています。救急疾患も常時受け付け、責任をもって対応します。

【診療方針】

患者さんに対して、主治医・担当医を中心に、各疾患グループが診療にあたるグループ診療を基本としています。治療の開始にあたっては、ロボット支援下手術、内視鏡外科手術をはじめとした多彩な選択肢を提案し、患者さんに十分な理解と了承を得られるよう、留意しています。内科との緊密な連携により、手術後も継続して治療が受けられるよう配慮しています。

【対象疾患】

肝臓癌、胆のう癌、胆管癌、膵臓癌、十二指腸癌、肝内結石症、胆のう結石症、総胆管結石症、胆道拡張症、慢性腎不全、重症糖尿病(1型糖尿病を含む)など

【主な検査】

内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)、経皮経肝的胆管ドレナージ(PTCD)、超音波検査など

【主な治療】

- 一般開腹手術(膵頭十二指腸切除、膵分節切除、膵体尾部切除、肝切除)
- 移植手術(腎臓移植、膵臓移植)
- ロボット支援下手術:ロボット支援下膵切除術
- 内視鏡外科手術:膵臓腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除、腹腔鏡下胆のう摘出、腹腔鏡下総胆管切開切石、腹腔鏡下脾臓摘出、先天性胆道拡張症手術(腹腔鏡下肝外胆管切除、胆道再建)、後腹膜鏡下ドナー腎採取術など
- 内視鏡治療(内視鏡的十二指腸乳頭切開・切石、胆道内視鏡下切石)
- 化学療法

【学会施設認定】

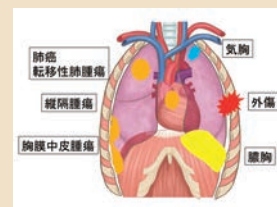
日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、膵臓移植認定施設、日本胆道学会

呼吸器外科

肺・縦隔などの胸部疾患に対する専門的な診療を行っています。近年増加している肺癌をはじめ、さまざまな呼吸器系悪性腫瘍について、総合的な診断や手術を中心とした治療、術後の再発に対する薬物治療を行っています。呼吸器内科、放射線科、病理部などと緊密に連携を行い、がんの根治を目指します。



科長 竹中朋祐



呼吸器外科疾患

【得意分野】

気管支、肺、縦隔、胸壁などに起こる病気、とくに悪性腫瘍を対象に、手術をはじめ抗がん剤治療や、複数の治療を組み合わせた集学的治療、最新の治療に至るまで幅広く取り組んでいます。ほとんどの手術に胸腔鏡を使用し、より小さな創で、できるだけ低侵襲な治療を心がけています。さらに近年は、ロボット支援下手術を導入し、より精密で痛みの少ない手術を行うことにより、入院期間の短縮を図っています。

【診療体制】

日本外科学会(指導医1名・専門医5名)、日本呼吸器外科学会(専門医5名)、日本がん治療認定医機構(認定医3名)が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

患者さんに十分に説明した上で、もっとも適した治療法を選択することを基本としています。それぞれの患者さんには疾患の専門家が主治医となって診療にあたりますが、外科に加えて内科や放射線科の専門医も交えたカンファレンスを行い、診療科横断で取り組んでいます。

【対象疾患】

原発性肺癌、転移性肺腫瘍(他臓器がんの肺転移)、縦隔腫瘍(胸腺腫、神経原性腫瘍など)、胸壁腫瘍(肋骨を含めた腫瘍)、悪性胸膜中皮腫、気胸、炎症性疾患(肺化膿症、膿胸、縦隔炎など)、重症筋無力症

【主な治療】

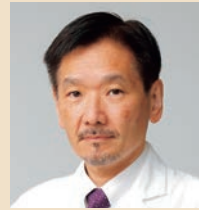
- 肺悪性腫瘍手術:呼吸器外科で行う手術の約半数は原発性肺癌に對してです。原発性肺癌に対する標準的な手術は、がんの発生した肺葉を切除し、同時に周囲のリンパ節を摘除(専門的には'リンパ節郭清'と呼びます)します。患者さんの状況によっては、切除する範囲を小さくする縮小手術(区域切除や部分切除)を行います。また、肺以外の臓器にできたがんが肺に転移してきた転移性肺腫瘍に対しても、積極的に肺切除を行っています。ほとんどの手術を胸腔鏡を用いた低侵襲な手術で行っています。
- 低侵襲治療:胸腔鏡下手術、ロボット支援下手術
- 拡大手術:周囲臓器に進行した肺癌や縦隔腫瘍に対して、抗がん剤治療に手術や放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っています。

【学会施設認定】

日本外科学会、日本呼吸器外科学会

乳腺外科

日本と世界のエビデンスとガイドラインに基づいて、個人の背景と病状に応じた適切な治療を提供します。手術・化学療法・放射線療法・分子標的治療などを組み合わせたチーム医療と医療連携で、個人を尊重した治療を目指します。また、患者さんの利益に配慮し、紹介を受けた地元の医院・病院との連携を大切に継続します。



科長 久保 真

【得意分野】

原発乳癌に対して、最新のエビデンスに基づき適切な手術と薬物療法を提供します。十分な根治性と低侵襲性、整容性の両立を目指しています。また、再発乳癌に対しては、患者さんにがんゲノム医療に基づく薬物療法、臨床試験参加への道を開きます。

【診療体制】

日本乳癌学会乳腺専門医(3名)、うち指導医(1名)、乳がん看護認定看護師など十分な知識と技術をもった専門スタッフが診療にあたります。また、臨床遺伝専門医(1名)が遺伝性腫瘍に関する相談、診療に対応します。

■遺伝カウンセリング外来(臨床遺伝診療部と連携)

■がんゲノム外来(乳癌)

■セカンドオピニオン(専門医による)

【治療方針】

患者さん一人ひとりに対して、主治医・担当医を中心に、全スタッフが診療にあたるグループ診療を基本としています。治療の開始にあたっては、カンファレンスを経て治療方針を立て、患者さんにその治療内容を十分に説明し、理解と同意を得て診療にあたります。また、さまざまな分野の専門スタッフと連携し、チーム医療を心がけています。

【対象疾患】

乳腺悪性腫瘍(乳癌など)、乳腺良性腫瘍(葉状腫瘍、線維腺腫、乳管内乳頭腫など)など

【主な検査】

マンモグラフィ、乳房超音波検査、穿刺吸引細胞診(FNA)、針生検(CNB、VAB)、CT、乳腺MRI、骨シンチ、PET、骨塩定量など、迅速・確実な診断を心がけています。

【主な治療】

■手術:乳房部分切除術(鏡視下を含む)、乳房全切除術、センチネルリンパ節生検(色素+PI併用法)、腋窩リンパ節郭清(レベルⅢまで可能)、腫瘍摘出術、再建(形成外科と連携)

■薬物療法:内分泌療法、分子標的治療、化学療法、免疫療法

■放射線治療(放射線科と連携)

■緩和医療(緩和ケアチーム、医療連携室、患者サービス課と連携)

【学会施設認定】

日本外科学会、日本乳癌学会、日本乳房オンコプラステックサージャリー学会、日本人類遺伝学会

内分泌外科

内分泌外科では、甲状腺、副甲状腺疾患の外科的治療を中心に、診断から治療まで患者さん一人ひとりの病状に応じた最善の診療を提供します。セカンドオピニオンにも対応しています。

【得意分野】

甲状腺切除、副甲状腺切除など、根治性と低侵襲性の両立を目指しています。

【診療体制】

内分泌外科のスタッフが、十分な知識と技術をもって診療にあたっています。

【診療方針】

患者さん一人ひとりに対して、主治医・担当医を中心に、全スタッフが診療にあたるグループ診療を基本としています。治療の開始にあたっては、多彩な診療方針を提示し、インフォームドコンセントの原則のもと、患者さんに十分な理解と了承を得られるよう、留意しています。

【対象疾患】

甲状腺癌、バセドウ病、原発性・続発性副甲状腺機能亢進症など

【主な検査】

超音波検査、CT検査、穿刺吸引細胞診、核医学検査など

【主な治療】

手術:甲状腺切除術、副甲状腺切除術など

【学会施設認定】

日本外科学会、日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会

血管外科

血管外科は主に動脈瘤(胸腹部、腹部、末梢血管)、動脈閉塞(慢性閉塞、急性閉塞)や下肢静脈瘤の治療を担当しています。



科長 吉住朋晴



血管外科シエマ

【得意分野】

動脈瘤や動脈閉塞、下肢静脈瘤に対する外科的手術とカテーテル治療。

バージャー病、腎動脈狭窄症、シャント合併症や血管外傷などに対する加療も行っています。

【診療体制】

日本外科学会(専門医3名・指導医1名)、日本心臓血管外科(専門医3名・修練指導医1名)、関連10学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会認定胸部大動脈ステントグラフト実施医、腹部大動脈ステントグラフト実施医・指導医、脈管学会専門医、日本血管外科学会認定血管内治療認定医が診療にあたっています。

【診療方針】

外科的手術とカテーテル治療の両方の選択肢を有することで、患者さんの状態に応じた術式選択を行っています。

【対象疾患】

大動脈瘤、動脈閉塞、下肢静脈瘤

【主な検査】

上下肢血圧比(ABI)、趾尖脈波(TBI)、皮膚還流圧(SPP)、レーザードップラー、下肢血管エコー、造影CT、MRI、血管造影

【主な治療】

胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフトや人工血管置換術、下肢動脈閉塞に対するカテーテル治療やバイパス手術、下肢静脈瘤に対するラジオ波治療、血管内塞栓術など。

【学会施設認定】

心臓血管外科専門医認定基幹施設

胸部・腹部大動脈ステントグラフト指導医在籍施設

浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

脈管学会認定研修指定施設

下肢静脈瘤血管内治療実施施設

整形外科

整形外科は骨・関節・脊椎・神経などの運動器疾患全般を対象とする診療科です。股関節、膝関節、骨軟部腫瘍、脊椎、足、上肢、肩関節、リウマチ、小児、スポーツ、骨粗鬆症など、各分野の専門家によって、年間1,500件以上の手術を行っています。

【得意分野】

人工関節置換術、骨切り術、骨軟部腫瘍手術、側わん症手術をはじめ、整形外科における高度な技術を必要とする手術を行っています。本院整形外科で考案され世界に広まった大腿骨頭回転骨切り術や、寛骨臼移動術などを行い、優れた成績を報告しています。低侵襲手術として脊椎内視鏡、膝・足・肩・肘関節鏡などを行っています。また人工関節置換術ではコンピューター・ロボット支援手術を取り入れています。

【診療体制】

日本整形外科学会専門医資格をもつ23名の教員が、各専門グループ(股関節、膝関節、骨軟部腫瘍、脊椎、関節リウマチ、手・上肢、足、小児整形外科、スポーツ、骨粗鬆症)を担当しています。

【診療方針】

患者さんの病状は一人ひとり異なります。私たちは、患者さんにとって最も適切な治療を提供できるよう、手術だけでなく、薬物療法やリハビリテーションを含めた保存的治療にも対応し、最新の知識と技術に基づいて診療を行っています。また、十分な説明と同意のもと、思いやりのある医療を心がけています。

【対象疾患】

- 股関節疾患:変形性股関節症、大腿骨頭壊死など
- 膝関節疾患:変形性膝関節症、半月板、靱帯損傷など
- 骨軟部腫瘍:骨腫瘍、軟部腫瘍(良性および悪性)
- 脊椎疾患:脊柱管狭窄症、側わん症、脊柱靱帯骨化症、脊髄腫瘍

など

■肩関節疾患:腱板断裂、変形性肩関節症、スポーツ肩障害など

■手の外科:外傷、変形性指関節症、絞やく性神経障害など

■リウマチ性疾患:関節リウマチ、強直性脊椎炎など

■小児整形外科:発育性股関節形成不全、先天性内反足、筋性斜頸、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など

■足の外科:変形性足関節症、足部変形、外反母趾など

【主な検査】

X線、CT、MRI、血管造影、脊髄造影、神経伝導検査、核医学検査など

【主な治療】

■人工関節置換術(股関節・膝関節・肩関節・肘関節・手指)

■関節疾患(股関節、膝関節、手の外科、足の外科)に対する骨切り術(関節温存手術)

■悪性骨軟部腫瘍に対する患肢温存手術

■内視鏡(関節鏡)下手術(膝関節・肩関節・手関節・足関節に対する関節鏡下手術、脊椎内視鏡手術、骨髄鏡下手術など)

■脊柱側わん症に対する手術、脚延長や四肢変形矯正、関節リウマチに対する生物学的製剤や骨粗鬆症に対する薬物療法など

【学会施設認定】

日本整形外科学会、日本リウマチ学会、日本脊椎脊髄病学会、日本手外科学会、日本リハビリテーション医学会

脳神経外科

脳神経外科は脳・眼窩内腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊椎・脊髄疾患、中枢神経奇形、機能的脳外科疾患など、脳神経外科疾患全般を対象に、手術を中心とした専門的な高度医療を行っています。



科長 吉本幸司



経鼻内視鏡による低侵襲脳腫瘍手術

【得意分野】

脳腫瘍(下垂体腫瘍、頭蓋底腫瘍、神経膠腫などの悪性脳腫瘍)や、血管性病変(脳動脈瘤や脳動静脈奇形、頸動脈狭窄症、もやもや病など)の手術難易度の高い病変に対し、豊富な手術経験に基づいて、良好な成績をあげています。術後化学・放射線療法に関しては個々の症例に対して検討し、最適な治療を行っています。血管奇形や高難度動脈瘤に対しては最新のデバイスを用いた血管内治療や直達手術を行っています。難治性てんかんなどの機能的疾患に対しても、最新の検査と手術装置を用いて、手術を行っています。

【診療体制】

日本脳神経外科学会認定専門医、日本脳卒中学会認定専門医、日本脳神経血管内治療学会専門医、がん治療認定医、日本てんかん学会認定臨床専門医が専門的な診療にあたっています。毎週月、水、金曜日が初診受診日で、その日のうちにそれぞれの専門医が対応します。脳卒中や頭部外傷などで緊急手術が必要な急患に対しては、救命救急センターとの連携のもと、24時間体制で対応しています。

【診療方針】

患者さんの立場に立って生活の質 Quality of Life (QOL) の改善と維持を目指し、より確実かつより侵襲の少ない治療法を開発・実践しています。

【対象疾患】

脳腫瘍(髄膜腫、聴神経腫瘍、頭蓋底腫瘍、下垂体腺腫、神経膠

腫、胚細胞腫、転移性脳腫瘍など)、眼窩内腫瘍、脳血管障害(脳動脈瘤、脳動静脈奇形、閉塞性脳血管障害、もやもや病、頸動脈狭窄性病変など)、脊椎・脊髄疾患(脊髄腫瘍、椎間板ヘルニア、後縦靱帯骨化症など)、中枢神経形成異常(水頭症、脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫、キアリ奇形など)、機能的脳外科疾患(難治性てんかん、顔面けいれん、三叉神経痛、パーキンソン病など)

【主な検査】

神経放射線学的検査:CT、MRI、脳血管撮影、PET、SPECT
機能的検査:機能的MRI、長時間ビデオ脳波検査、各種誘発電位

【主な治療】

手術用顕微鏡、外視鏡ナビゲーション、神経内視鏡、電気生理学的モニターなどの最新術中支援システムを駆使した手術を行っています。最新の三次元コンピュータ画像作成システムを使った詳細な術前検討を行うことにより、難易度が高い症例に対しても、安全で確実な手術を行っています。最近では、経鼻的に内視鏡で頭蓋底腫瘍を摘出する低侵襲手術も数多く行っています。また専門スタッフにより最先端のデバイスを用いた脳血管内治療も行っています。難治性てんかんに対する手術経験も豊富です。

【学会施設認定】

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本てんかん学会、日本脳神経血管内治療学会、日本脳神経外傷学会

心臓血管外科

弁形成や人工弁置換術、冠動脈バイパス術、先天性心臓病手術、胸部・腹部・腹部大動脈人工血管置換術、補助人工心臓装着、心臓移植。ステントグラフト手術、経カテーテル的大動脈弁置換術などの血管内治療。身体に優しい低侵襲小切開手術やロボット手術など高度の先進手術も多数の経験があり、ほぼ全ての手術に対応している九州随一の施設です。



科長 塩瀬 明



MICS (低侵襲心臓手術)の手術風景

【得意分野】

心臓、大血管疾患すべての分野において、最新かつ先進的な手術治療に取り組んでいます。弁膜症の手術は複合臓器障害を合併した重症例、複数回の再手術症例や広範囲感染性心内膜炎へのホモグラフト移植などの重症手術を多く行っています。先天性心疾患は、未熟児を含め新生児から成人期の再手術症例まで、幅広い年齢層で多くの手術を行っています。小児心臓施設が少ないため、九州一円から患者さんの紹介を受けています。大動脈疾患は従来の人工血管置換術はもちろん、侵襲の少ないステントグラフト手術も積極的に行っています。重症心不全に対しては九州唯一の心臓移植施設として、補助人工心臓装着から心臓移植まで行っています。現在は補助人工心臓を装着した患者さんが心臓移植までの間、自宅待機が可能です。2017年にECMOセンター設立、ECMO(体外式膜型人工肺)チーム医療が開始、2018年に小児補助人工心臓(EXCOR Pediatric)が開始され、成人、小児ともに重症心肺不全の治療に力を入れています。低侵襲手術(小切開やロボット手術等)や経カテーテル的大動脈弁置換術も積極的に取り入れています。

【診療体制】

スタッフは心臓血管外科専門医認定機構認定専門医11名を含め18名で、年間約700例の手術(うち心臓・大血管手術約500例)を行っています。急患用ホットラインを備え、24時間対応で手術依頼の受け入れを行っています(①080-3213-2833 ②病棟092-642-5563、5564から内線2295)。

【診療方針】

患者第一をモットーに、心臓病に苦しむ方とご家族の期待に応えるため、信頼のできる医療を提供します。手術後の患者の生活の質(QOL)を向上させるために、もっとも良い手術法、治療法を選択するようチーム一同心がけています。また、これまで手術の恩恵を得ることができなかった方々の治療も可能となるよう、最新の治療技術開発にも取り組んでいます。

【対象疾患】

弁膜症疾患、感染性心内膜炎、冠動脈疾患、先天性心疾患(小児、成人)、解離性・非解離性大動脈瘤、重症心不全、不整脈、心膜疾患、心臓腫瘍など心臓、大血管全般

【主な治療】

人工弁置換術、小切開低侵襲心臓手術、ロボット心臓手術、経カテーテル的大動脈弁置換術、自己弁温存弁手術、冠動脈バイパス術(心停止下、心拍動下)、補助人工心臓装着(成人、小児)、心臓移植(成人、小児)、胸部大動脈人工血管置換術、胸腹部大動脈人工血管置換術、ステントグラフト内挿術、先天性心疾患姑息術・根治術、成人先天性手術(再手術例を含む)、永久ペースメーカー植込み術(リードレスペースメーカー可)、両心室ペースメーカー植込み術、植込み型除細動器植込み術、Maze手術

【学会施設認定】

日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設、心臓移植認定施設(成人、小児)、植込み型補助人工心臓実施施設(成人、小児)、ステントグラフト実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設、インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設、ロボット心臓手術実施施設

小児外科、成育外科、小腸移植外科

われわれは「こどもを安心してまかせられる外科医」をモットーとし、小児の手術を必要とする病気を広く取り扱っています。対象年齢は胎児(出生前診断例)から16歳までが主ですが、小児外科特有の病気は成人になっても成育外科として診療を継続します。



科長 田尻達郎



小児固形腫瘍に対する腫瘍摘出術

【得意分野】

新生児外科、小児肝臓・小腸移植、小児消化器、小児呼吸器、小児固形腫瘍、小児泌尿器、小児鼠径部疾患(鼠径ヘルニア、陰のう水腫)、小児外傷

【診療体制】

小児外科、成育外科、小腸移植外科では疾患別に診療にあたっています

新生児・呼吸器・代謝栄養グループ 消化管グループ
肝胆道・移植グループ 腫瘍グループ
泌尿器グループ 漢方グループ
日常疾患グループ

【診療方針】

■専門医による診療

外科治療が必要な小児の治療に対して、十分に訓練を受けた小児外科専門医が担当します。

■出生前から始まる診療

出生前診断された胎児の診療のために、総合周産期母子医療センターがあります。ここでは産科・新生児内科・新生児外科の医師が協力して出生前診断された胎児・新生児の診療にあたります。

■Quality of Life を考慮した診療や傷の残らない手術

病気が治った後はできるかぎり普通の生活に戻れるように考慮した治療を選択するよう心がけています。

【対象疾患】

- 頭部・顔面: 副耳、耳前瘻、舌小帯短縮症
- 頸部: 正中頸のう胞、側頸瘻、梨状窩瘻、リンパ管腫、血管腫
- 胸壁: 漏斗胸
- 呼吸器: のう胞性肺炎、先天性気管狭窄症、気管軟化症、異物誤嚥、ECMO、気胸
- 食道: 異物の誤飲、胃食道逆流症、先天性食道閉鎖症、食道狭窄症

■横隔膜: 横隔膜ヘルニア、食道裂孔ヘルニア

■肝臓・胆道: 胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、胆石症、門脈圧亢進症、脾腫

■消化管: 異物の誤嚥・誤飲、胃潰瘍、肥厚性幽門狭窄症、胃軸捻転、消化管穿孔、腸閉鎖症、腸回転異常症、腸重積症、メッケル憩室、腸管重複症、腸閉塞、ヒルシュスプルング病および類縁疾患、短腸症、直腸肛門奇形、肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻、裂肛、便秘、急性虫垂炎、腸炎、壊死性腸炎、胎便性腹膜炎、腸管ポリープ

■脾臓: 脾炎、脾のう胞

■腹壁・臍: 臍ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、臍腸瘻、尿膜管遺残、臍炎・臍肉芽腫

■鼠径部・精巣: 鼠径ヘルニア、陰のう・精索水腫・ヌック管水腫、停留精巣、精巣捻転症

■泌尿生殖器: 水腎・尿管管症、膀胱尿管逆流症、先天性腎疾患、腎のう胞、包茎、先天性腎尿路異常(CAKUT)

■腫瘍: 神経芽腫、腎腫瘍、肝腫瘍、胚細胞腫瘍(奇形腫)、横紋筋肉腫、肺腫瘍、脾腫瘍、その他の良性/悪性固形腫瘍

■外傷: 肺損傷、外傷性消化管穿孔、肝損傷、脾損傷、腎損傷

【主な検査】

栄養評価・成長評価、消化管造影検査、内視鏡検査、超音波検査、消化管内圧検査、食道pHインピーダンス検査、直腸粘膜生検、肝生検

【主な治療】

臓器移植(肝移植・小腸移植)、腫瘍の集学的治療、腸管延長術、新生児外科治療、低侵襲外科手術(内視鏡外科手術)、漢方治療(小児漢方外来)

【学会施設認定】

日本小児外科学会認定施設、脳死肝および小腸移植認定施設
小児がん拠点病院(2013年一)、総合周産期母子医療センター、
日本東洋医学会 指定研修施設・教育病院

【国際医療連携】

NPO 法人と連携した医療技術提供と情報収集

皮膚科

アトピー性皮膚炎、じんましん、薬疹、乾癬、水疱症、皮膚感染症など難治性皮膚疾患を、専門的に治療します。皮膚腫瘍、熱傷の手術、赤あざのレーザー治療、真菌症などの専門外来も充実しています。



科長 中原剛士



ダーモスコピーによる病変の観察

【得意分野】

アトピー性皮膚炎、じんましん、皮膚真菌症、悪性腫瘍の治療では、学会や厚生労働省のガイドライン作成に関与しています。難治性皮膚潰瘍、熱傷の豊富な治療経験をもっています。紫外線治療機器、レーザー治療機器も充実しています。

【診療体制】

初診は月・水・金曜日の午前、再診は火・木曜日の午前で、いずれも完全予約制です。初診でカルテを作成後、下記の各種専門外来(各曜日午後)を受診していただくことがあります。

- ①レーザー外来(月) ④油症外来(水) ⑦真菌外来(木)
②アトピー外来(月・水) ⑤腫瘍外来(水・金) ⑧形成外来(木)
③褥瘡外来(院内患者のみ)(火) ⑥皮膚外科外来(水・金)

【診療方針】

患者さんのために最も適した治療を、十分な説明を行った上で適切に行うことを心がけています。それぞれの患者さんには担当主治医を中心に診療にあたりますが、必要に応じて皮膚科全体カンファレンスで治療方針を決定します。初診・再診は完全予約制です。ご協力ください。またレーザー外来では疾患により自費診療となります。

【対象疾患】

- アトピー性皮膚炎、じんましん、難治性湿疹、乾癬、薬疹、悪性黒色腫などの悪性皮膚腫瘍、良性皮膚腫瘍、褥瘡、熱傷、難

治性潰瘍、外傷、ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、膠原病、水疱症、白斑、円形脱毛症、油症

■レーザー治療(単純性血管腫)

【主な検査】

■ダーモスコピー検査

■超音波検査

■皮膚生検(病理検査)

■真菌検査(直接鏡検、真菌培養)

■サーモグラフィ

■パッチテスト

■光線過敏検査

【主な治療】

■外用療法、内服療法、レーザー治療(色素レーザー)、光線(紫外線)療法(PUVA療法、ナローバンドUVB療法、エキシマライト)、液体窒素冷凍療法など

■皮膚悪性・良性腫瘍に対する手術と、局所皮弁、植皮による再建

■悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検、免疫チェックポイント阻害薬・分子標的薬による治療

■難治性の乾癬、アトピー性皮膚炎、じんましんに対する分子標的薬による治療

■難治性の天疱瘡に対する大量免疫グロブリン療法

■難治性皮膚潰瘍に対する陰圧閉鎖療法

【学会施設認定】

■日本皮膚科学会認定皮膚科専門医主研修施設

■日本アレルギー学会認定教育施設

泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科

当科は、腎臓や腎盂・尿管・膀胱・尿道といった尿路系全般と前立腺・精巣・陰茎などの男性生殖器に加え、ホルモン産生臓器である副腎の外科的疾患を主な対象として、幅広く最先端の医療を行っています。



手術支援ロボット「ダヴィンチ」での手術風景

【得意分野】

外科的治療として副腎腫瘍、腎癌などに対して腹腔鏡手術を積極的に行っています。限局性前立腺癌や小径腎癌に対するロボット支援手術などさまざまな最先端の低侵襲治療を行っています。また、尿路結石にはレーザーを用いた内視鏡の治療を行っています。一方で、進行腎癌に対する免疫療法や分子標的治療、尿路上皮癌に対する全身化学療法、前立腺癌に対する内分泌療法、排尿障害に対する薬物療法など内科的治療も幅広く行っています。

【診療体制】

日本泌尿器科学会専門医13名(そのうち指導医8名)、泌尿器腹腔鏡技術認定医6名が在籍しています。泌尿器科領域の悪性腫瘍の診断治療を診療の柱として、病気の進行段階に応じた適切な治療を行っています。さらに、前立腺肥大症などに伴う排尿障害、尿路感染症など専門的な診断治療を行っています。

【診療方針】

患者さんに十分説明し、最も適した治療法を選択するインフォームドコンセントを診療の基本にして、生活の質(QOL)を十分に考慮した、より低侵襲で最先端の医療を提供することに努めています。個々の患者さんに優しい医療の実践のため、放射線科をはじめとする関連治療科の専門家とディスカッションしながらチームとして診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

腎・尿路性器癌(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、腎盂尿管癌、精巣癌など)、尿路結石症、前立腺肥大症、尿路感染症、神経因性膀胱、女性泌尿器科(尿失禁、性器脱など)、頻尿(過活動膀胱、間質性膀胱炎など)、小児泌尿器疾患、副腎腫瘍(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫など)

【主な検査】

腹部エコー、軟性膀胱鏡検査、硬性または軟性尿管鏡検査、経直腸前立腺エコー、ウロダイナミクス検査、尿流量測定、残尿測定、膀胱内圧測定、内圧尿流検査(Pressure flow study)、膀胱造影、逆行性腎盂尿管造影、尿道造影、前立腺生検、CT、MRIなど

【主な治療】

- 膀胱癌に対するロボット支援膀胱全摘除術
- 前立腺癌に対するロボット支援根治的前立腺摘除術
- 腎癌に対するロボット支援腎部分切除術
- 前立腺癌に対する放射線治療時のスペーサー留置、薬物療法
- 副腎、腎、尿管、膀胱、前立腺疾患に対する腹腔鏡手術、開腹手術、薬物療法
- 膀胱癌に対する内視鏡手術、薬物療法
- 尿路結石に対する経尿道的内視鏡手術

【学会施設認定】

日本泌尿器科学会専門医教育施設

精神科神経科

精神科神経科は脳の機能不全や心理社会的な要因によって生じるこころの病気を診療対象として、医師、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士など多職種のスタッフが、患者さん一人ひとりの全人的理解に基づき、包括的な精神医療活動を続けています。



科長 中尾智博

【得意分野】

うつ病、双極性障害、強迫性障害、統合失調症、発達障害などの精神疾患の診断、治療のエキスパートや、老年精神医学、リエゾン精神医学など幅広い専門領域をもつスタッフが、高度かつ利用者に優しい医療を提供します。高度医療機関である利点を活かし、他科と連携して患者さんの身体疾患(合併症)とこころの問題の双方に対して高い水準の治療を行います。

【診療体制】

初診日は火曜日と木曜日の午前中です。はじめての受診の場合は、かかりつけ主治医から予約センターにFAXで予約をお願いします。一般外来・行動療法外来・気分障害ひきこもり外来・もの忘れ外来(脳神経内科と合同)・子どものこころの診療部(小児医療センター、総合周産期母子医療センターと合同)

【診療方針】

心理社会的治療から生物学的治療まで幅広い治療法を、病状に応じてバランスよく組み合わせた、外来・入院治療を提供します。患者さんと家族のウェルビーイングのために、十分なインフォームドコンセントに基づき安全な治療環境を保障します。

【対象疾患】

- 一般成人精神医学(強迫性障害や社会不安障害などの神経症性障害、うつ病、双極性障害、統合失調症)
- リエゾン精神医学(身体疾患の治療中に生じる不安・抑うつやせん妄など)
- 老年精神医学(認知症、うつ病、せん妄)

【主な検査】

脳波、脳MRI、脳CT、脳血流シンチ(SPECT)、PET、高次脳機能検査、神経心理検査

【主な治療】

- 行動療法外来:学習心理学を応用した精神療法で強迫性障害、パニック障害、社交不安障害などに有効です。
- 気分障害ひきこもり外来:抑うつ症状を呈する多様な気分障害やひきこもりの先進的な診断評価を行い、総合的な治療を行います。
- 認知療法:主にうつ病の方を対象に、薬物療法とともに認知の修正を行うことで、再発や悪化を防ぎます。
- 電気けいれん療法:全身麻酔下呼吸循環管理の下で、頭部に通電を行う療法です。難治性のうつ病などに、きわめて安全かつ効果の高い方法です。
- 反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS):パルス磁場による誘導電流で前頭葉を低侵襲的に刺激し、脳を活性化させてうつ病の症状を改善する治療法です。入院で、週5回、6週間程度の実施が必要になります。
- 精神科リエゾンサービス:一般病棟に入院中の患者さんや、本院で臓器移植や遺伝子診断などの先進医療を受ける方のこころの問題への総合窓口として随時対応します。
- 精神科デイケア:患者さんが地域での生活にスムーズに戻れるように、さまざまなリハビリテーション活動や相談を行います。統合失調症やうつ病、発達障害を対象としたグループ活動(もしくは心理社会的療法)を行っています。

【学会施設認定】

日本精神神経学会専門医研修施設、日本老年精神医学会専門研修施設、日本認知症学会専門研修施設、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設

眼科

眼科は、九州地方のみならず全国各地から患者さんの紹介を受けており、難治性の疾患や希少な疾患にも対応できるよう、専門性が高く経験豊富なスタッフを擁しています。患者さんが安心して良質かつ高度な医療を受けられるよう、各専門領域の医師が緊密に連携を取りながら診療を行っています。



科長 園田康平



硝子体手術支援ロボットOQrimoを用いた手術の様子

【得意分野】

ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患(糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など)、網膜色素変性、緑内障、眼部腫瘍、眼瞼・涙道疾患、未熟児網膜症、角膜疾患など、眼疾患全般の診療を行っています。特にぶどう膜炎、網膜硝子体疾患、眼部腫瘍においては、最先端の診断技術と共に、精密で安全な治療法を提供し、良好な治療成績を得ています。また、硝子体手術支援ロボットを用いた手術など新しい技術にも取り組んでいます。

【診療体制】

日本眼科学会認定眼科専門医が中心となって診療にあたっています。診断や治療が難しい疾患に関しては、カンファレンスで複数の医師が討議しながら、診療の方針を決定しています。また地域医療機関とも密接に連携を取っています。緊急を要する疾患に対しては、速やかに入院治療を行える体制を整えています。

【診療方針】

患者さんに対しては、わかりやすい言葉で丁寧に説明するよう心がけています。最新の検査機器を用いて病状を正確に捉え、個々の患者さんに最適な治療法を選択します。

【対象疾患】

ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患(糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜剥離、網膜静脈閉塞症、黄斑円孔、黄斑上膜、増殖硝子体網膜

症など)、網膜色素変性、緑内障、眼部腫瘍、眼瞼・涙道疾患、小児眼疾患(未熟児網膜症、斜視など)、角膜疾患、白内障

【主な検査】

視力検査、眼圧検査、動的・静的視野検査、マイクロペリメータ、光干渉断層計(OCT)検査、レーザー赤外眼底造影検査、網膜電図、角膜形状解析検査、超音波生体顕微鏡検査、広角光干渉断層計

【主な治療】

- ぶどう膜炎:コルヒチン、シクロスポリン、低容量ステロイド、インフリキシマブ治療、アタリブマブ治療、硝子体手術など
- 網膜剥離・糖尿病網膜症: 小切開硝子体手術、heads up surgery、抗VEGF薬硝子体注射、レーザー網膜光凝固など
- 加齢黄斑変性: 抗VEGF薬硝子体注射、光線力学的療法(PDT)など
- 緑内障: 線維柱帯切開術、線維柱帯切除術、チューブシャント手術、プリザーフロ、ハイドラスなど
- 眼部腫瘍: 眼内腫瘍の眼球温存療法、局所抗がん剤治療、サイバーナイフ治療など
- 眼瞼・涙道疾患: 眼形成手術、涙のう鼻腔吻合術(DCR 鼻外・鼻内法)、甲状腺眼症に対する手術など

【学会施設認定】

日本眼科学会専門医制度研修施設

耳鼻咽喉・頭頸部外科

当科では耳、鼻、口、のど、顔面、頸部の病気を取り扱いいます。この領域には、聴覚、嗅覚、味覚、平衡覚といった日常生活を営む上で重要な「感覚」や、摂食、嚥下という「生命の維持に重要な機能」や、発声、構音という「コミュニケーションに重要な機能」があります。耳鼻咽喉・頭頸部外科医はこれらの感覚や機能の障害を治療し、患者さんのQOL(生活の質)の向上を目指しています。



科長 中川尚志



手術

【得意分野】

高度感音難聴に対する人工内耳埋めこみ術は日本でもトップクラスの症例数です。また、脳神経外科と合同で行う経鼻内視鏡頭蓋底手術も得意としています。頭頸部癌治療も充実しており、ダビンチ治療や内視鏡による癌の切除で機能温存を目指す他、光免疫療法など最先端の治療も行っています。また、希少癌である外耳道癌は、他大学から当院に紹介されることも多く、たくさんの症例を治療してきています。

【診療体制】

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医を中心に診療を行っています。専門外来として耳・めまい外来(月曜)、鼻外来(水曜)、腫瘍外来、音声外来、嚥下外来、気道外来(金曜)を設け、それぞれ専門医が診療にあたっています。

【診療方針】

患者さんのニーズに応じた丁寧な診療を心がけています。単に疾患を治すだけでなく、耳鼻咽喉科領域に特有なQOLを重視した治療を基本方針としています。

【対象疾患】

耳科疾患(慢性化膿性中耳炎/真珠腫性中耳炎/高度感音難聴)、鼻科疾患(慢性副鼻腔炎/アレルギー性鼻炎)、咽頭・喉頭疾患(音声障害/嚥下障害)、頭頸部腫瘍(口腔癌・咽頭癌・喉頭癌・副鼻腔

癌・外耳癌・唾液腺癌・甲状腺癌)など

【主な検査】

- 純音聴力検査、語音聴力検査、SISI検査、自記オーディオ検査、ティンパノグラム、アブミ骨反射検査、聴性脳幹反応検査(ABR)、耳鳴検査、耳音響放射
- 注視眼振検査、頭位・頭位変換眼振検査、重心動揺検査、カロリック検査、前庭頸反射検査など
- T & T 嗅覚検査、鼻腔通気度検査、アレルギー誘発検査など
- 喉頭ファイバー検査、頸部超音波検査、ストロボスコーピー検査、ビデオ嚥下透視検査など

【主な治療】

- 耳科領域: 鼓室形成術、人工内耳植込み、聴神経腫瘍摘出など
- 鼻科領域: 内視鏡下鼻副鼻腔手術など
- 喉頭・音声領域: 喉頭マイクロ手術・甲状軟骨形成術など
- 頭頸部腫瘍: 口腔、咽頭、喉頭、鼻副鼻腔、耳下腺、甲状腺腫瘍に対する手術、放射線化学療法、再建手術、頭蓋底手術など
- 嚥下障害に対する改善手術: 輪状咽頭筋切断術、喉頭挙上術など
- 頭蓋底領域: 経鼻内視鏡頭蓋底手術など

【学会施設認定】

日本耳鼻咽喉科学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本鼻科学会認定鼻科手術認可施設

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、すべての診療科と協力して、疾病による障害や運動機能が低下した患者さんに対して、病状に応じたりハビリ診療を提供し、医療スタッフが一体となって機能回復や社会復帰をサポートしています。また、新しい医療技術の研究開発や、学生や社会人に対する教育や、運動器疾患予防の社会啓発活動にも取り組んでいます。



リハビリ室の診療風景

【得意分野】

関節疾患や脊椎疾患、骨軟部腫瘍などの運動器疾患の術前・術後のリハビリや心臓リハビリを中心に、呼吸理学療法、脳血管疾患、小児疾患、終末期のリハビリから言語聴覚療法など、幅広い領域のリハビリ診療を行っています。

【診療体制】

スタッフは、医師3名(リハビリ専門医1名)、理学療法士23名、作業療法士6名、言語聴覚士2名で、それぞれ職能を活かし良質で安全なリハビリを実践しています。施設基準は、脳血管疾患Ⅰ、運動器Ⅰ、呼吸器Ⅰ、心大血管疾患Ⅰ、がんの5種を取得し、総合的なリハビリ医療環境を整えています。

【診療方針】

各診療科の主治医の治療オーダーを基に、リハビリ専門医と各専門職とでチームを組み、患者さんご家族に寄り添ったリハビリ診療を提供します。また、さまざまな社会背景をもつ個々の患者さんがスムーズに家庭や社会に復帰できるよう、医療連携の充実にも努めています。

【対象疾患】

運動器疾患の術前・術後リハビリが約30%を占めますが、脳血管疾患、心大血管や呼吸器疾患、さらに臓器移植術や多発外傷後のICUでの急性期リハビリ、長期臥床・安静後の廃用症候群など、小児から高齢者まで幅広い領域の疾患に対して診療を行っています。

【主な検査】

- 三次元動作解析装置(VICON)
- 簡易上肢機能検査(STEFF)
- 高次脳機能障害の各種検査
- シート式下肢加重計(ワークWay)
- 体成分分析装置(InBody)
- 重心動揺計(バランスコーダ)

【主な治療】

徒手で治療を行います。一部機器も使用します。

- 上下肢全身運動器(ニューステップ)
- 膝関節等速性筋力トレーニング(COMBIT)
- 電気刺激装置

放射線科

放射線科では画像に基づく全身の疾患の診断・治療を行っています。CT、MRI、PET、内視鏡などの最新医療機器で診断し、適応に従い、放射線治療、化学放射線療法、画像下治療(IVR)、内視鏡的治療などの各種治療を行っています。



科長 石神康生



高精細CT

【得意分野】

最新診断機器(CT、MRI、PET、内視鏡、IVR-CT)を駆使した画像診断、放射線治療(定位照射、IMRT、密封小線源治療を含む)、核医学治療(甲状腺癌、甲状腺機能亢進症、神経内分泌腫瘍、パラガングリオーマ、前立腺癌)、画像下治療(IVR)(血管塞栓術・凍結療法・ラジオ波焼灼術・緩和IVR)、内視鏡治療(ポリープ切除術、粘膜下層剥離術、光線力学療法)。

【診療体制】

日本医学放射線学会専門医(診断もしくは治療、計31名)、日本がん治療認定医機構認定医(3名)、日本核医学会専門医(3名)、PET核医学認定医(6名)、日本IVR学会専門医(7名)、検診マンモグラフィ読影認定医(11名)、日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医(3名)が、外来・入院で画像検査、画像下治療、放射線治療、化学放射線療法、内視鏡的切除など幅広い専門的診療を行っています。

【診療方針】

放射線科が目指す診療は、患者さんにやさしい診療です。診断分野では、より侵襲が少なく効率的な画像診断法を選択して行います。治療分野では、切らずに治す放射線治療や核医学治療、画像下治療(IVR)、内視鏡治療などを提供します。

【対象疾患】

舌癌、口腔底癌、上顎癌、上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌、喉頭癌、甲状腺癌、食道癌(再発含む)、胃癌、大腸癌、大腸ポリープ、

肺癌、乳癌、肝臓癌、腎癌、前立腺癌、子宮癌、転移性脳腫瘍、転移性骨腫瘍、悪性リンパ腫、脊椎圧迫骨折、動脈狭窄症など。

【主な検査】

単純写真、マンモグラフィ、胸部X線動態撮影、CT、MRI、超音波検査、核医学検査(シンチグラフィ、SPECT-CT、PET-CTなど)、血管造影検査、消化管検査(内視鏡、バリウム造影、大腸CT)、CTガイド下生検

【主な治療】

- 放射線治療：体外照射(定位照射、IMRTを含む)、密封小線源治療(子宮など)
- 核医学治療：ヨード治療、ルテチウムオキシドトレオチド治療、ゾーフィゴ治療、MIBG治療、プルヴィクト治療
- 画像下治療(IVR)：腎癌凍結療法、血管塞栓術(腫瘍、出血、血管性病変)、肝癌動脈化学塞栓療法、ラジオ波焼灼術、CTガイド下ドレナージ、中心静脈ポート留置、頭頸部腫瘍動注化学療法、血管形成術、経皮経食道胃管挿入術
- 内視鏡治療：内視鏡的粘膜下層剥離術(食道癌、胃癌、大腸癌)、内視鏡的ポリープ切除術(大腸ポリープ)、光線力学療法(再発食道癌)
- 化学放射線療法(頭頸部癌、食道癌、婦人科癌など)

【学会施設認定】

日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、日本がん治療認定医機構、日本核医学会、日本IVR学会、日本消化器内視鏡学会

麻酔科蘇生科

麻酔科医は、手術を受ける患者さんのそばにいて、最適な麻酔と全身管理を行いながら命を守り続けます。また、痛みでお悩みの患者さんに、専門的立場から外来と入院治療を行っています。



科長 山浦 健



全身麻酔のセットアップ

【得意分野】

麻酔科蘇生科の主な診療内容は、手術時の麻酔と痛みの治療（ペインクリニック・緩和ケア）です。手術を受ける患者さんには麻酔と同時に呼吸・循環などの全身管理が必要です。麻酔科医は重症患者の多い集中治療部や救命救急センターでも活躍しています。ペインクリニック・緩和ケアでは、難治性疼痛の治療に力を入れ、他科とも連携して診療にあたっています。

【診療体制】

現在、麻酔科医39名（麻酔科専門医23名）が在籍し、本院で行われる年間約11,000例の手術のうち、約8,200症例を麻酔科蘇生科が担当しています（2024年度医科実績）。また、ペインクリニックや緩和ケアにも力を入れ、整形外科・脳神経外科・神経内科・心療内科などとも連携をとりながら、集学的診療にあたっています。

【診療方針】

麻酔科蘇生科では、手術前・中・後の患者さんの生命維持と安全の確保に取り組んでいます。ペインクリニック・緩和ケアでは、個々の患者さんに各々の治療法について十分に説明し、理解していただいた上で治療を行います。

【対象疾患】

当科が麻酔を担当する対象疾患は手術治療を必要とする全疾患に及びます。小手術の場合は担当科で局所麻酔をして手術することも

あります。ペインクリニック・緩和ケアでは、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛、その他の顔面痛、頭痛、腰痛、肩の痛み、術後の痛み、がんの痛み、閉塞性動脈硬化症（ASO）、複合性局所疼痛症候群（CRPS）などのあらゆる痛みや、顔面神経麻痺を対象にしています。

【主な検査】

手術中、麻酔科医は学会の勧告するモニター指針に従って、絶え間なく患者さんのバイタルサインを看視します。さらに、必要に応じて血液検査、脳波や心エコーなど特殊な検査も加えます。ペインクリニックではサーモグラフィ、電流知覚閾値などの専門的な検査も行っています。

【主な治療】

- 本院で行われる手術の高度な麻酔管理を行います。
- ペインクリニックでは薬物療法、イオントフォレーシス、低周波電気治療、レーザー照射、近赤外線照射、神経ブロック、脊髄刺激療法、高周波熱凝固治療、東洋医学的アプローチなどを用いて、痛みの治療を行っています。

【学会施設認定】

麻酔科認定病院（日本麻酔科学会）、ペインクリニック専門医指定研修施設（日本ペインクリニック学会）、集中治療専門医研修施設（日本集中治療医学会）、緩和医療認定研修施設（日本緩和医療学会）、心臓血管麻酔専門医認定施設（日本心臓血管麻酔学会）

総合診療科

総合診療科はさまざまな病気に対応し、原因不明の発熱疾患、診断の難しい疾患、生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症など）、感染症（細菌・ウイルス・真菌感染症、ウイルス性肝炎、HIV感染症/AIDS、輸入感染症など）、漢方外来、渡航外来を行っています。



カンファレンス

【得意分野】

疾患を特定できない症状を有する患者さんや、受診する診療科の判断に迷う患者さんの診断・治療を行います。

【診療体制】

総合内科専門医10名、総合診療専門医7名、日本病院総合診療医学会専門医3名・認定医6名、プライマリケア認定医2名、家庭医専門医2名、日本感染症学会専門医5名、インфекションコントロールドクター3名、日本肝臓学会専門医4名、日本消化器病学会専門医1名、日本東洋医学会漢方専門医1名を含む17名の医師が診療を行います。初診外来は月曜日から金曜日まで、毎日行います。専門外来は、HIV感染症外来、漢方外来、渡航外来（16歳以上）です。

【診療方針】

日常よくある内科疾患や、何科を受診してよいか分からない患者さんを診察・診断し、必要な場合は適切な専門診療科に紹介します。高齢者など病気を重複してもつ患者さんについては各専門科と相談しながら主治医として診療を行います。

【対象疾患】

一般内科全般、不明熱・リンパ節腫脹など未診断の症候の診療、感染症（ウイルス性肝炎、HIV感染症/AIDSを含む）、生活習慣病（糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症など）、漢方治療と

なる疾患全般、渡航外来（海外旅行、海外出張予定のある方への予防接種、英文診断書作成など）

【主な検査】

腹部超音波検査、ファイブロスキャンおよびCombinational Elastography を用いた非侵襲的肝線維化・肝脂肪化評価、肝生検、動脈硬化症検査（頸動脈エコー、脈波速度、CAVI）、糖代謝検査

【主な治療】

- 生活習慣病：糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗しょう症に対する薬物療法
- 肝炎ウイルス感染症：
 - ・C型肝炎治療：直接作用型抗ウイルス剤を中心とした治療
 - ・B型肝炎治療：核酸アナログ製剤による治療
- HIV感染症：抗レトロウイルス療法（ART）
- 漢方診療：煎薬、医療用漢方エキス製剤による治療

【学会施設認定】

日本内科学会、日本病院総合診療医学会、日本感染症学会、日本肝臓学会、日本東洋医学会、総合診療専門研修プログラム 研修基幹施設

形成外科

形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的に正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質 "Quality of Life (QOL)" の向上に貢献する、外科系の専門領域です。腫瘍切除後の再建、顔面骨折などの外傷、先天異常、瘢痕拘縮、ケロイド、顔面神経麻痺、難治性潰瘍、リンパ浮腫の治療など、幅広い領域の治療を行っています。



科長 門田英輝

【得意分野】

■自家遊離組織移植

悪性腫瘍切除後に生じた組織の欠損に対して他科との協力のもと、自家遊離組織移植(皮膚軟部組織や腸管、骨の移植)を用いて再建を行い、術後の機能、形態の喪失を抑え、QOLの向上に貢献します。

■リンパ浮腫

婦人科疾患治療後の晩期合併症である下肢リンパ浮腫や腋窩部郭清後の上肢リンパ浮腫に対して、リンパ管静脈吻合し、治療を行います。

■顔面骨骨折(眼窩骨・上顎骨・頬骨)に対する整復術を行います。変形治療には骨切り術を行い機能、整容の改善を目指します。

【診療体制】

■日本形成外科専門医 4名

初診・再診ともに月・水・金曜日の午前で、完全予約制です。顔面骨開放骨折や重症軟部組織損傷など緊急の疾患は救命救急センター・麻酔科と協力し迅速に対応します。

【診療方針】

1. とくに外科治療を受ける患者さんの術後のQOLをできるだけ維持するための医療を提供する。
2. 患者さん一人ひとりに応じた安全で効果的な治療を提供する。
3. 全国的・国際的な評価にも耐えうる高度、先進的な医療を提供する。
4. 地域の形成外科医療に貢献する。

※九州大学病院形成外科では基本的に自費診療での治療・美容形成手術は行っておりません。

【対象疾患】

悪性腫瘍切除後の再建(頭頸部・四肢・体幹・乳房)、外傷(顔面骨折・切断指・重症軟部組織損傷・熱傷・瘢痕(外傷、手術創治療後)・ケロイド、先天性疾患(小耳症・小顎症・頭蓋骨顔面骨形成異常・唇裂・口蓋裂・多指症)、さまざまな治療、疾患に伴うもの(四肢のリンパ浮腫・難治性潰瘍・放射性骨髄炎)、良性腫瘍、血管腫、リンパ管腫、眼瞼下垂症、顔面神経麻痺、斜鼻・鞍鼻・鼻中隔湾曲症など

【主な検査】

超音波・内視鏡・透視・CT・MRI・シンチグラフィ・ICG検査(リンパの流れの検査)・病理検査

【主な治療】

- 遊離皮弁による再建術(頭頸部・四肢・体幹・乳房)
- 外傷(顔面骨折整復術・顔面骨骨切り術・切断指再接着・植皮術・瘢痕拘縮形成術・外鼻形成術)
- 先天性疾患(ティッシュエキスパンダー、肋軟骨移植による小耳症手術・頭蓋骨顔面骨形成術・唇裂口蓋裂手術)
- さまざまな治療、疾患に伴うもの(リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術・持続陰圧治療・血管柄付き遊離骨移植術)
- 眼瞼下垂症手術、顔面神経麻痺に対する動的・静的再建

【学会施設認定】

日本形成外科学会基幹施設

先端分子・細胞治療科

先端分子・細胞治療科は、癌(大腸癌、肺癌、胃癌、胆道癌など)の免疫療法の開発に取り組んでおり、免疫療法を実際の診療に応用することを目指しています。当科では、患者さんに細胞療法を行う際の投与細胞を調製する分子・細胞調製センター(Molecular and Cell Processing Center: MCPC)を支援することにより、本院における細胞療法や遺伝子治療の臨床応用を支えています。



科長 水野晋一

【得意分野】

■悪性腫瘍に対する免疫・細胞療法、遺伝子治療

【診療体制】

診療医は日本内科学会総合内科専門医・認定医、日本血液学会専門医、日本造血・免疫細胞療法学会認定医、日本輸血細胞治療学会認定医、日本再生医療学会認定医であり、細胞療法の施行のため分子・細胞調製センターを支援しています。

【診療方針】

患者さんにとって最善の治療を提供するため、各疾患の専門家やARO次世代医療センターとの連携のうえ、新規の免疫細胞療法や遺伝子治療法など最先端の治療法を速やかに臨床応用できるよう、基礎および臨床試験を実施しています。

【対象疾患】

- 臨床試験: 難治性の血液疾患や固形腫瘍
- 診療支援: 保険診療における細胞療法(分子・細胞調製センター)

【主な検査】

- 臨床研究: 遺伝子発現検査、悪性腫瘍遺伝子検査、腫瘍免疫検査
- 細胞製剤: 再生医療新法に基づいた品質管理

【主な治療】

分子・細胞調製センターは、GMP (good manufacturing practice) に準拠した施設として2008年に九州大学病院に設置され、施設設備として細胞調製ユニット(2室)、ベクター調製ユニット(1室)、アイソレーターユニット(1室)を中心とする4つの製造ユニットとP3対応のウイルス製剤の製造加工ユニットを併せもっています。本施設は2014年に施行された再生医療等の安全性の確保等に関する法律施行規則で定めた基準を満たし、細胞療法の早期臨床試験から再生医療等製品の提供を行っています。2022年4月現在、先端分子・細胞治療科は、悪性腫瘍に対する細胞療法の各種試験と保険診療における血液悪性腫瘍に対するCAR-T (Chimeric Antigen Receptor-T cell) 療法や重症心不全に対する心筋シート作成を支援しています。

【学会施設認定】

日本内科学会、日本血液学会、日本再生医療学会
日本造血・免疫細胞療法学会

診療科紹介

■ 診療科 医科部門

■ 診療科 歯科部門

■ 中央診療施設等

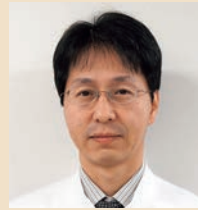
■ 院内診療支援施設等

■ 別府病院

小児歯科・スペシャルニーズ歯科

(口腔保健科)

当診療科は第3次医療機関として、一般開業歯科医院(小児歯科専門医院も含む)などの医療機関では対応が困難と判断された小児患者と障がい者(児)の診療に主眼を置いています。また小児医療センターの一翼として、障がい児・者や有病児の口腔疾患の治療と予防にも積極的に努めています。



科長 福本 敬



全身麻酔の診療風景

[得意分野]

成長発育期の新生児、乳幼児、学童児、青少年と障がい者(児)の口腔領域全体の、歯科疾患診断・予防・治療や口腔保健推進管理を行っています。なかでも重い障がいや全身疾患があるハイリスクな患者さんに対する歯科治療(とくに全身麻酔下での治療)、口唇口蓋裂児への哺乳指導や継続的口腔管理に関しては、他科と連携し積極的に取り組んでいます。

[診療体制]

日本小児歯科学会や日本障害者歯科学会認定の指導医・専門医を中心に、より安全な診療を行う体制をとっています。同時に、院内の他診療科や地域の一般開業医と連携をとりながら診療する体制もとっています。

[診療方針]

“親子とともに病と闘い、親子を支援する”をモットーとし、患者さんの基礎疾患・障がい・生活背景を正確に理解するよう徹底しています。そして、全体的な背景(基礎疾患・障がい)と口腔顎顔面領域に生じる疾患との関連をたいへん重視しています。全身管理が必要な患者さんには、精神科神経科、子どものこころの診療部、小児科、小児外科、歯科麻酔科など他科と緊密に連携し、安全に配慮したきめ細やかな対応を行っています。

[対象疾患]

口腔内感染症(う蝕・歯髄炎・顎骨炎・歯周炎など)、外傷、歯列咬合異常、口腔軟組織の疾患、過剰歯、埋伏歯、歯の先天性欠如、歯の形態異常や形成不全症、歯の萌出異常、口唇口蓋裂など[歯並びに対する治療や予

防処置の一部などについては、保険診療対象外(自費診療)になります]

[主な検査]

- 歯と顎顔面の発育状態のX線検査
- 過剰歯と埋伏歯の精査目的のCT検査
- う蝕リスク検査(う蝕活動性試験検査、唾液中抗体価の測定など)
- 歯列模型分析検査(自費診療)
- 病理組織検査

[主な治療]

- 心疾患・悪性腫瘍罹患児の周術期口腔ケア・病棟往診
- 障がい児・者の歯科治療と口腔ケア
- 口腔内感染病巣(う蝕・歯髄炎・顎骨炎・歯周炎など)の治療と機能回復(冠・義歯など)、予防(口腔衛生管理)
- 全身麻酔下または笑気吸入鎮静下での歯科治療全般
- 小児の過剰埋伏歯・顎骨のう胞性疾患・口腔粘膜疾患に対する治療
- 乳歯や幼若永久歯の外傷に対する治療
- 摂食嚥下指導
- 咬合誘導(乳歯の早期喪失に対する保険処置、小児矯正など)
- 唇顎口蓋裂児に対する哺乳指導・う蝕予防管理・口唇形成術前の外鼻矯正
- 口腔疾患予防システム(一部自費診療)

[学会施設認定]

日本小児歯科学会、日本障害者歯科学会

矯正歯科

(口腔保健科)

歯科矯正治療、すなわち歯ならびや咬み合わせの治療は、咀嚼能力などの機能向上のためだけでなく、う蝕や歯周病、顎関節症の予防のためにも必要です。最近、顔立ちの審美的な改善、咀嚼能力向上などの生活の質(QOL)の向上を求めていく上で、その治療意義が高まっています。



科長 高橋一郎



矯正治療の診療風景

[得意分野]

成長期から成人期にかけての一般的な不正咬合はもちろん、治療が困難な顎変形症や、口唇口蓋裂に伴う不正咬合の治療を行っています。

[診療体制]

日本矯正歯科学会認定の指導医・認定医が専門的な診療にあたっています。口腔外科医や小児歯科医と協力して、顎変形症の患者さんや口唇口蓋裂の患者さんの咬合管理を含めた治療に取り組んでいます。

[診療方針]

歯科矯正治療は、口元の審美性や表情の生成とも深く関わり、健康で快適な生活を獲得するためにたいへん大切な医療分野といえます。患者さんに納得していただける治療計画を第一の基本方針としております。治療は大人でも十分に可能です。治療の流れは次のとおりです。

1. 初診相談 2. 検査 3. 診断:患者さんに治療方針、治療計画を説明します 4. 実際の治療 5. 保定

[対象疾患]

- 歯列不正、咬合不全ならびに咀嚼障害
- 顎変形症の矯正治療
- 口唇口蓋裂や先天疾患に起因した咬合異常
- 顎関節症への矯正的アプローチ

[主な検査]

- 頭部X線規格写真検査
- 口腔内および顔面規格写真検査
- 歯列模型分析検査
- 顎運動および筋電図検査
- 咬合面圧分布測定

[主な治療]

金属ブラケット(矯正用金具)、審美ブラケット、リンガルブラケット(裏側からの装置)、歯科矯正用アンカースクリュー(歯を動かす固定源として骨にメタルインプラントを埋入)を用いる治療

[学会施設認定]

日本矯正歯科学会

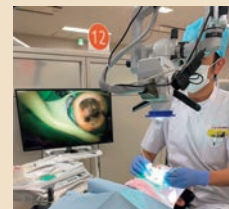
歯内治療科

(口腔機能修復科)

もっとも一般的な歯の疾患である、う蝕を含む硬組織疾患がある歯の修復治療・抜髄・感染根管治療・外科的歯内療法・変色歯の治療などを行っています。当科では、「生涯を通して自分の歯で噛む」ことができるような口腔機能の健康維持に努めています。



科長 前田英史



歯科用実体顕微鏡を用いた根管治療

[得意分野]

- う蝕治療:冷たいもの・熱いものがしみる歯や、う蝕により実質欠損を生じた歯に対し、レジン、金属などを用いて治療を行っています。また、深在性う蝕に対しては歯髄温存療法を併用することにより、極力歯髄の温存を図っています。
- 歯内治療:歯髄炎や根尖性歯周炎の診断と治療を行っています。複雑な根管形態に対応するために、歯科用実体顕微鏡、Ni-Tiファイルを用いて根管治療の確実性を高めるとともに、根尖病変が消退しない症例に対しては症例ごとにもっとも適切な外科的歯内療法を併用することで、根尖周囲組織の機能と健康の維持を図っています。
- 歯根破折歯の保存治療:歯根破折を起こした歯の治療は、基本的に抜歯術が適応されていますが、診査を行い保存可能と判断した歯には、接着材料を用いて残す治療を行っています。
- ホワイトニング治療:歯の色に関する悩みに対して最新の機器を用いて診査を行い、漂白法・レジンボンディング法・ラミネートベニア法など、最適の方法を用いて治療を行っています。

[診療体制]

日本歯科専門医機構歯科保存指導医1名・専門医1名、日本歯科保存学会指導医1名・専門医1名・認定医5名、日本歯内療法学会指導医1名・専門医2名を中心に診療体制を組んでいます。

[診療方針]

「なるべく歯を削らない」「なるべく神経(歯髄)を取らない」「なるべく歯を抜かない」を治療方針としています。

[対象疾患]

知覚過敏、う蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、変色歯、歯冠・歯根破折、正中離開

[主な検査]

- X線検査
- CBCT検査

[主な治療]

- う蝕治療:レジン充填、セラミックインレー、メタルインレー、覆髄
- 歯内治療:抜髄、感染根管治療
- 外科的治療法:歯根尖切除法、ヘミセクション、意図的再植法
- ホワイトニング治療:漂白法(ホームホワイトニング、オフィスホワイトニング、ウォーキングブリーチ)、レジンボンディング法、ラミネートベニア
- その他:歯科用実体顕微鏡を用いた治療、Ni-Tiファイルを用いた治療、YAGレーザーを用いた治療

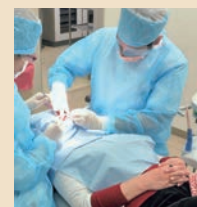
[学会施設認定]

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会

歯周病科

(口腔機能修復科)

高齢化社会に伴って、歯周病に罹患している成人が増加しています。歯周病は、糖尿病、動脈硬化、誤嚥性肺炎などに影響を及ぼすこともわかっています。したがって、歯周治療は口腔の健康増進、生活習慣病の改善、生活の質(QOL)の向上に貢献します。



歯周外科手術

[得意分野]

糖尿病や動脈硬化の進行を歯周治療との関連において予防します。また、高度に失われた組織の再生を目指して、エナメルマトリックスタンパク質(EMD)、リグロスを応用した再生療法を積極的に取り入れています。

[診療体制]

日本歯周病学会指導医、専門医、認定医と日本歯科保存学会指導医を中心に、これらを目指す若手医師とで診療体制を組んでいます。

[診療方針]

最先端の診査・診断に基づいて治療を進めます。

[対象疾患]

慢性歯周炎、侵襲性歯周炎、薬物性歯肉増殖症、壊死性潰瘍性歯周炎

[主な検査]

歯周組織検査、X線検査、コーンビームCT検査、口腔内カラー写真検査、顎模型検査

[主な治療]

歯周基本治療、歯周抗菌治療、歯肉剥離搔爬手術、歯肉歯槽粘膜形成術(遊離歯肉移植術、結合組織移植術、歯肉弁根尖側移動術、歯冠長延長術)、ヘミセクション、歯根分割法、歯の再植術、自家骨移植術、歯根切断法

[学会施設認定]

日本歯周病学会、日本歯科保存学会

義歯補綴科

(口腔機能修復科)

義歯やインプラントにより、歯や顎骨の欠損による機能障害や審美障害の治療(オーラル・リハビリテーション)を行っています。咬合の問題や顎関節症にも対応します。



科長 鮎川保則



診療風景

【得意分野】

義歯(入れ歯)をはじめとするさまざまな補綴装置を用いて咬合(歯と歯のかみ合わせ)や補綴治療(咀嚼を回復するための治療)を行っています。う蝕、歯周病、外傷、口腔悪性腫瘍、唇顎口蓋裂、顎変形症などによって生じる歯・顎口腔顔面領域の咀嚼・嚥下障害、構音障害、形態異常、顎関節症、審美障害に対する診断、補綴装置を用いた治療とリハビリテーションを行っています。

【診療体制】

日本補綴歯科学会の専門医・指導医と、日本口腔インプラント学会の専門医・指導医が中心となって専門的な治療にあたっています。インプラント外来、顎関節症外来、顎顔面補綴外来、睡眠時無呼吸症候群外来、スポーツ歯科外来を実施しています。初診時には検査・応急処置のみとなる場合があります。インプラント治療は、相談時から健康保険の対象外となります。

【診療方針】

単なる患歯の治療だけでなく、各診療科と連携しながら一口腔単位で総合的な検査を行い、治療計画を提示します。補綴治療は治療期間が長く、保険外治療を含めて治療費が高額になる場合が多いので、明確な説明を行い、治療に同意を得た上で診療を開始することを基本方針としています。

【対象疾患】

う蝕、歯周病、外傷などによって生じる歯・顎口腔領域の咀嚼・嚥

下、構音などの機能障害、審美障害、形態異常、顎関節症や口腔顔面痛に対する診断、補綴装置を用いた治療とリハビリテーション。ブラキシズム(歯ぎしり、口腔習癖)、睡眠時無呼吸症候群(口腔内装置)など。

【主な検査】

- インプラント検査:治療終了時のイメージを術前模型上、CT写真上に再現することで、より詳細な手術計画を立てます。
- 顎関節症検査:咀嚼筋・顎関節の圧痛検査、顎運動検査、咬合検査、顎関節・顎のX線検査、心理学的検査、神経学的なスクリーニング検査など
- 顎口腔機能検査:咀嚼能率検査などの各種口腔機能のスクリーニング検査や精密検査

【主な治療】

歯冠修復と全部・部分床義歯による一般的な歯科補綴治療、インプラント補綴治療(再生治療を含む)、CAD/CAMによる歯冠修復、補綴前歯周外科、高齢者の特徴を考慮した補綴治療、顎関節症に対する保存的治療、口腔腫瘍・口唇口蓋裂の方に対する顎顔面補綴治療、ブラキシズム・睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置による治療、各種スポーツ用マウスガードの製作など。

【学会施設認定】

日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会、日本顎関節学会

咬合補綴科

(口腔機能修復科)

咬合補綴科(こうごうほてつか)は、「食べる」「話す」といったお口の基本的な機能を回復させ、見た目の美しさも整える診療科です。歯を失った部分には、ブリッジや入れ歯だけでなく、インプラントを用いた治療も行います。白くて自然な見た目のセラミックなどを使った治療にも対応しています。



科長 熱田 生



前歯部審美補綴修復

【得意分野】

咀嚼機能の回復:虫歯やケガで歯が欠けたり抜けてしまった場合に、かぶせ物(クラウン)やブリッジ、入れ歯、インプラントなどを使って「かむ力」を取り戻す治療を行っています。特にあごの骨が少ないケースでは、口腔外科と連携して最新の治療を提供します。

また、歯やあごのズレが原因でお口や顔のバランスが崩れている場合、それを整える治療も行います。治療の前後には「かむ力」や「あごの動き」などを測定して、効果をわかりやすくご説明できます。

【診療体制・診療方針】

治療は、日本補綴歯科学会の専門医や指導医などの経験豊富な歯科医師が管理しています。私たちは歯科医の理想だけを追い求めるのではなく、治療の説明(インフォームド Consent)を大切に、患者さんが「この治療を受けてよかった」と思えるような医療を目指しています。

【対象疾患・主な治療】

- 冠、ブリッジ、義歯(入れ歯):虫歯や歯の破折などで歯が欠けたときに、金属やプラスチック、セラミックなどを使って歯の形を再現し、見た目や機能を回復します。デジタル機器を使った型取りや、コンピュータで歯を削り出す「CAD/CAM」も導入しており、精密な治療に対応しています。

- インプラント:歯を失った部分のあごの骨にチタン製の人工歯根(インプラント)を埋めて、しっかりとかめる状態にします。骨の量が足りない場合は、骨を増やす処置(骨移植)も行っています。

- マウスピース:顎関節症やスポーツ中のケガ予防のためのマウスピース、また、いびきや歯ぎしりを防ぐための「ナイトガード」の製作を行っています。

- 顎顔面補綴(がくがんめんほてつ):がんなどの手術でお口の中に大きな欠損ができた方に、特殊な入れ歯や補てつ物(オプチュレーター、プロテーゼ)を製作し、生活の質の向上を目指します。

【主な検査】

- 口腔機能検査:虫歯や歯周病、加齢、全身の病気などでお口の働きが弱くなることを「口腔機能低下症」といいます。この状態は全身の健康にも影響を与えるため、私たちは口の清潔さや乾燥、舌や唇の動き、舌の力、かむ力、かむ効率、飲み込む力などの検査を行い、改善に向けたサポートをしています。
- インプラント術前検査(コンピュータ解析):CTで得たデジタル画像を使って、コンピュータ上で治療のシミュレーションを行います。これにより、より安全な治療計画の立案や、患者さんへのわかりやすい説明が可能になります。

顎口腔外科

(口腔顎顔面外科)

大診療科として、当科は顔面口腔外科と協力して口腔外科的疾患全般の診療にあたっています。口腔顎顔面の腫瘍、外傷などの手術から抜歯などの小手術といった外科的治療はもとより、口腔粘膜疾患、ドライマウス(口腔乾燥症)、摂食・嚥下障害、口唇口蓋裂、発音言語障害などの口腔内科的な治療にも携わる守備範囲の広い診療科です。



科長 川野真太郎



毎週金曜日の合同手術カンファレンス風景

【得意分野】

口腔、顎、顔面の疾患、とくに口腔腫瘍に対する手術による外科的治療や、口腔粘膜疾患、ドライマウス、摂食・嚥下障害などに対する口腔内科的治療を中心に、他科との十分な連携のもとで包括的治療を行います。口唇口蓋裂は出生前よりカウンセリングを行い、出生日から治療をスタートします。

【診療体制】

日本口腔外科学会指導医2名、口腔外科専門医7名、国際口腔顎顔面外科専門医1名、日本口腔腫瘍学会認定口腔がん専門医1名を中心に診療を行っています。また、福岡市歯科医師会休日診療支援をはじめ、土日祝日の急患にも対応しています。さらに、他の歯科外来と協力した専門外来(口腔腫瘍外来、ドライマウス外来、摂食・嚥下機能支援外来、言語療法外来、顎顔面補綴外来など)があります。

【診療方針】

紹介医と情報交換を緊密に行い、正確で迅速な診断、科学的根拠に基づいた確かな治療をするように心がけています。患者さんやご家族にわかりやすく説明し、十分な理解と納得の上で治療を行うように努めています。また、他科と十分に連携して、専門性を活かしたチーム医療を行っています。

【対象疾患】

悪性腫瘍、良性腫瘍、顎骨再建、のう胞、唾液腺疾患、外傷(顎顔

面の骨折、歯の外傷や舌や口唇などの軟組織損傷)、智歯および埋伏歯抜歯、口腔粘膜疾患、ドライマウス、口唇口蓋裂、顎変形症、顎関節疾患、歯科インプラントおよび補綴前外科処置など。

【主な検査】

画像検査(単純X線、CT、MRI、唾液腺造影、超音波検査、PET、嚥下造影検査など)、血液検査、ドライマウスに関する検査、摂食・嚥下機能検査、発音言語機能検査、味覚検査、知覚検査、金属アレルギー検査など

【主な治療】

■手術:悪性腫瘍、良性腫瘍、組織欠損の顎骨再建、口唇口蓋裂、抜歯、のう胞、唾液腺疾患、外傷、顎変形症、歯科インプラントおよび補綴前外科処置に関する手術を全身麻酔下に行っています。また、静脈内鎮静法を用いることもあります。疾患の内容によっては短期入院もしくは日帰りの手術も可能です。

■悪性腫瘍に対する放射線療法や化学療法

■口腔粘膜疾患(関連他科と連携した治療、重症の場合は入院下の治療)、ドライマウス、顎関節症、摂食・嚥下障害、発音言語障害の治療

【学会施設認定】

日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔内科学会、日本口蓋裂学会、日本顎変形症学会、日本顎関節学会

顔面口腔外科

(口腔顎顔面外科)

口腔には先天あるいは後天異常、外傷、口腔粘膜や顎骨の炎症、腫瘍、のう胞など、さまざまな疾患が生じます。顔面口腔外科は大診療科である口腔顎顔面外科として、顎口腔外科と協力してこれら全ての口腔疾患と、これに起因する組織や欠損機能障害に対して最新医療を行う体制を整えるとともに、以下の得意分野を重点的に担当しています。



科長 森山雅文



外来での顎変形症患者への説明風景

【得意分野】

口唇口蓋裂、顎変形症は重点疾患として専門診療班を設け、系統的に診療を行っています。口唇口蓋裂は出生前相談でサポートを開始し、出生直後から成人に至るまでの一貫治療を行い、顎口腔機能と望ましい顔面形態の獲得に努めています。顎変形症では矯正歯科と連携して、咬合、骨格の形成のみならず軟組織の形態変化に留意した治療を行っています。口腔悪性腫瘍は腫瘍の制御に加えて顎口腔の機能回復に力を入れ、顎骨再建および歯科インプラントを用いた咬合回復や補綴前外科処置に対応しています。

【診療体制】

日本口腔外科学会認定の口腔外科指導医1名、口腔外科専門医5名、がん治療認定医3名を中心に専門的な診療にあたっています。口腔外科疾患に関する急患に対しては休日、夜間を含めた24時間体制で受け付けています。また、医療連携センターを通して、幅広く紹介患者さんを受け入れています。

【診療方針】

顔面口腔外科は院外からの紹介を数多く受け入れています。そのため、紹介医との情報交換に努め、患者さんやご家族に対してわかりやすく説明し、十分に納得の上で手術や治療を行っています。また、疾患によっては院内他科(医科・歯科)と緊密な連携をとり、患者さんにとって最適な治療を行うよう心がけています。

【対象疾患】

口唇口蓋裂、顎変形症(下顎前突や後退、顔面非対称など)、顎骨再建、歯科インプラントおよび補綴前外科処置(以上得意分野)、口腔悪性腫瘍(舌癌、歯肉癌など)、顎顔面外傷(顎顔面の骨折、歯の外傷や舌や口唇などの軟組織損傷)、唾液腺疾患、顎関節疾患、のう胞、良性腫瘍、口腔粘膜疾患、智歯および埋伏歯抜歯、歯根端切除、インプラント矯正など

【主な検査】

X線検査(単純X線、パノラマ、デンタル、唾液腺造影など)、CT検査、MRI検査、超音波検査、PET検査、血液検査(血液像、生化学、ウイルス抗体価など)、唾液分泌量測定、生検、VF(嚥下造影検査)、電気味覚検査、精密触覚検査

【主な治療】

口唇口蓋裂一貫治療、仮骨延長術を含むさまざまな顎矯正手術を行っています。口腔悪性腫瘍は病期によって手術単独、あるいは放射線や化学療法の併用を考慮しています。術後の口腔機能を重要視し、遊離あるいは有茎皮弁を用いた口腔軟組織、硬組織再建術はもちろん、義歯補綴科・咬合補綴科との連携のもとにインプラントや顎補綴を、看護師、言語聴覚士の協力のもとに摂食嚥下、言語指導を系統的に行っています。

【学会施設認定】

日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔内科学会、日本顎変形症学会、日本顎関節学会、口腔顔面神経機能学会

歯科麻酔科

(口腔顎顔面外科)

歯科麻酔科は、歯科領域での全身麻酔・静脈内鎮静法の施行・有病者の歯科治療時のモニタリングなどを行っています。



科長 横山武志



全身麻酔下での歯科治療

【得意分野】

全身麻酔、静脈内鎮静法、モニタリングなど口腔外科処置や歯科治療時の全身管理

【診療体制】

歯科麻酔科外来では、全身麻酔器を装備した歯科処置室(2室)で、全身麻酔や静脈内鎮静法を行っています。さらに手術室における口腔外科手術や歯科治療の麻酔も担当しています。日本歯科麻酔学会指導医1名・専門医3名・認定医1名で、歯科麻酔科外来(北棟5F)および手術室(南棟3F)、インプラントセンター(外来診療棟4F)で、専門的な診療を行っています。

【診療方針】

歯科領域の疾患に対する手術や苦痛を伴う検査を行う際に、全身麻酔法や静脈内鎮静法を用いて、不安や苦痛を除くことにより各症例のストレスを十分に軽減し、快適な治療環境を提供します。各症例の全身状態を十分に把握し、必要なモニタリングを行い、呼吸や循環、代謝などの管理を行うことで、安全に治療ができるように配慮します。

【対象疾患】

■全身麻酔、静脈内鎮静法、全身管理：口腔外科手術全般、歯科恐怖症、有病者、障がい者(児)、歯科治療非協力児、歯牙欠損のインプラント手術など

【主な治療】

- 全身麻酔：口腔外科手術の際の全身麻酔、乳幼児や障がい者(児)の歯科治療時の全身麻酔(日帰り全身麻酔を含む)
- 静脈内鎮静法：口腔外科、インプラント、歯科治療時の鎮静(歯科恐怖症や有病者あるいは苦痛の大きな処置の場合、静脈内鎮静法を併用する事でストレスが軽減され、快適に治療を受けていただけます)
- モニタリング：重度の全身疾患がある患者さんの歯科治療中のモニタリング(治療時に、歯科麻酔科医がモニター監視を行い、患者さんの変化にすぐに対応できるようにします)

【学会施設認定】

日本歯科麻酔学会

口腔画像診断科

(口腔包括診療科)

当科は口腔・顎顔面・頭頸部の疾患に対する画像検査と診断が専門です。任意断面再構成画像や3次元表示画像も作成します。放射線治療後の口腔内管理なども行っています。



科長 筑井 徹



歯科用CBCT撮影像

【得意分野】

口腔・顎骨・顔面・頸部領域の病変や、咬合・咀嚼・嚥下にかかわる疾患に対する各種画像検査(「主な検査」参照)と診断を行っています。CT検査では精密なスキャンと再構成画像作成により、疾患の鑑別や原因の特定を行います。悪性腫瘍ではCTで検出されるリンパ節に対し、さらに超音波による精密検査を行います。放射線部と共同で口腔がんに対し、放射線障害防止のためのスプレーを応用した放射線治療と、患者さんの口腔内管理を行っています。

【診療体制】

日本歯科放射線学会の指導医および専門医3名が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

口腔・顎骨・顔面・頸部領域のあらゆる疾患に対して、高精細、かつ効率的で高度な画像検査と正確な診断を、つねに目標としています。依頼医のニーズに合わせたきめ細かな検査と正確な診断を行います。

【対象疾患】

口腔・顎骨・顔面・頸部領域の腫瘍・炎症・外傷・のう胞・奇形・変形など、あらゆる疾患を対象としています。

【主な検査】

- 一般エックス線撮影検査：歯・顎のほか、頭部規格撮影などの一般撮影検査
- CT検査：口腔・顎骨・顔面・頸部領域の疾患に対するCT検査。医用および歯科用(コーンビーム) CTを利用したインプラント検査
- 超音波検査：頭頸部領域の軟組織疾患に対する超音波検査
- MRI診断：口腔・顎骨・顔面・頸部領域の疾患に対するMRI画像の読影・診断
- 造影検査：唾液腺疾患に対する、専用のカテーテルを挿入して行う唾液腺造影検査。摂食・嚥下機能を評価するための咽頭造影検査

【主な治療】

- 頭頸部腫瘍に対する放射線治療患者の口腔管理

【学会施設認定】

日本歯科放射線学会

口腔総合診療科

(口腔包括診療科)

口腔総合診療科は、一般歯科全般にわたる治療を行っています。患者さんは複数の専門診療科を往来する必要がなく、一つの診療室で総合的に治療を受けることができます。治療終了後は定期的な口腔管理を実施します。



科長 和田尚久



診療風景

【得意分野】

う蝕や歯周病の予防処置と治療、抜歯(智歯の抜歯を含む)、その他の外科小手術、金属冠・ブリッジ・義歯による補綴治療、顎関節症の治療などの歯科全般にわたる治療を行います。周術期の患者さんの口腔ケアなども行っています。

【診療体制】

■保存治療(う蝕や歯周病)、補綴治療(金属冠・ブリッジ・義歯)、口腔外科、顎関節症治療の各専門医がチームを組んで総合的な診療を行うため、患者さんが複数の診療科を移動する必要はありません。高度に専門的な治療を必要とする場合や、重篤な全身疾患がある場合は専門診療科と密接な連携をとり、患者さん中心の歯科医療を実施しています。

■臨床研修歯科医の受け入れと教育・指導は、当科が中心となって行っています。

■周術期口腔ケアセンターと連携して、手術や放射線・化学療法前後の患者さんの口腔ケアを行っています。

【診療方針】

初診日に主治医を決め、口腔内検査とX線検査を行い、治療計画を立案し治療を開始します。治療終了後は定期的に口腔内の診査、ブラッシング指導、口腔清掃を行い、口腔の健康を管理します。

【対象疾患】

一般歯科疾患(う蝕、歯周病、歯髄炎、根尖性歯周炎、変色歯、歯の破折、歯の欠損、智歯周囲炎、顎関節症など)

【主な検査】

- X線検査: 口内撮影法、口外撮影法により、う蝕や歯周病の進行の程度を調べます。必要に応じてCT検査を行い、罹患歯や顎骨病変の診断をします。
- 歯周組織検査: 歯周ポケットの深さや動揺度の測定を行い、染色液で歯垢を染め出して歯垢の付着状態を調べ、歯周病の予防と管理を行います。
- 口腔機能検査: 咀嚼機能、咬合力、唾液量、舌や口唇の運動機能、嚥下などの評価を行います。

【主な治療】

- 一般歯科治療: う蝕・歯周病・補綴治療など
- 歯周外科処置: 歯周病の治療では必要に応じて、歯肉粘膜剥離掻爬術や歯周組織再生誘導法を行っています。
- 外科小手術: 保存困難な歯・智歯・埋伏歯の抜去、マイクロスコープを使用した歯根尖切除等を行っています。
- 顎関節症治療: スプリント療法やマイオモニターなどを用いて、顎の痛みや開口障害の治療を行っています。
- レーザー治療なども行います。
- 周術期口腔ケア: さまざまな病気の治療(手術、化学療法や放射線治療)の患者さんに対して、入院・手術・回復期の口腔ケアを行い、合併症予防を行っています。

【学会施設認定】

日本歯科保存学会、日本補綴歯科学会、日本総合歯科学会

高齢者歯科・全身管理歯科

(口腔包括診療科)

歯科治療を行う上で問題となる、基礎疾患がある患者さんが来院します。入院または通院で、内科的な治療中または外科的な手術前後の患者さんに対し、医科と連携を取りながら、包括的な歯科治療を行っています。



科長 柏崎晴彦

【得意分野】

医科主治医と連携を取りながら、抜歯、保存治療、補綴治療など歯科治療全般を行い、患者さんの口腔機能の回復と維持を目指しています。また入院患者さんへの往診による口腔ケアの支援にも取り組んでいます。

【診療体制】

スタッフ全員がチームを組んで包括的な歯科治療を行っています。医科から紹介された患者さんは、診査の後で必要があれば応急処置を行います。そして医科主治医とさまざまな点について協議を行った上で、治療計画を立てていきます。

【診療方針】

患者さんの医科での治療進行に合わせて、体調や臨床データに配慮しながら歯科治療を進めていきます。口腔内感染源の除去と口腔機能の維持に重点を置き、安全で患者さん中心の歯科医療を実践するため、カンファレンスで治療方針を検討しながら診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

基礎疾患がある患者さんの歯科治療全般に対応しますが、特に、

弁置換術、冠動脈バイパス術、化学療法、放射線療法、臓器移植などの周術期において、術前に口腔内感染源を精査し、感染源の除去と咀嚼機能の回復、専門的口腔ケアと口腔衛生指導を行います。がんの治療中に発症する口腔粘膜障害の予防と治療を病室への往診でも行います。

【主な検査】

- X線検査: 歯科用口内撮影法、パノラマX線写真、顎関節撮影 Water's撮影法(上顎洞炎)、CT (顎骨病変)
- 歯周組織検査: 歯周ポケットの深さ、出血、排膿、動揺度
- 細菌簡易培養: 口腔カンジダ検査
- 口腔機能検査: 咀嚼機能測定、舌圧測定
- 口腔細菌定量検査

【主な治療】

- 一般歯科治療: う蝕治療、歯周基本治療、補綴治療(クラウン・ブリッジ、義歯)
- 口腔外科小手術: 抜歯、歯根端切除術など

【学会施設認定】

日本有病者歯科医療学会、日本老年歯科医学会

診療科紹介

■ 診療科 医科部門

■ 診療科 歯科部門

■ 中央診療施設等

■ 院内診療支援施設等

■ 別府病院

検査部

検査部の歴史は1957年に始まり、九州大学病院の中でも最も早期に設立された中央診療施設の一つです。その後、設備と検査項目が順次拡充され、検体検査室(化学、血液、凝固、免疫、外注部門)、細菌検査室、輸血検査室、外来検査室、遺伝子・高分子検査室、生理機能検査室の6つの検査室で九州大学病院の大半の検査を行っています。



部長 國崎祐哉



オートメーション化された検査ラインと分析装置

【運営方針】

臨床検査室に特化した国際規格ISO15189認定を2006年に取得し、その理念のもと検査業務を行っています。さらに次の方針を掲げ、日本の臨床検査のリーダーたるべく努力しています。

- 精密、迅速な検査を通して正確な診療に貢献する
- 検査データの標準化を推進し、その有用性を通して社会に貢献する
- 検査法の研究・開発を通して検査医学の向上発展に貢献する
- 次代の臨床検査のリーダー育成のため教育に力を注ぐ

【業務内容】

- 血液中の酵素、血糖値などを定量する化学検査、赤血球・白血球・血小板などの血球算定や白血球分類をする血液検査、止血機構を調べる凝固検査、ウイルス感染症、ホルモン、自己抗体などを検査する免疫検査、尿定性や便潜血を検査する一般検査(以上検体検査)
- 血液型判定や輸血用製剤の管理を行う輸血検査
- 細菌などの培養・同定・薬剤感受性検査を行う細菌検査
- 血栓性素因やミトコンドリア病を検査する遺伝子検査
- 脳波・心電図・肺機能検査を行う生理機能検査はハートセンター、睡眠時無呼吸センター、ブレインセンターと連携しています。
- 治験、外部委託検査のための検体前処理・保管とデータ管理

【設備】

細菌感染症検査システム、遺伝子検査システム、輸血検査システム、生理検査システム、ウイルス肝炎遺伝子検査システムなど、また、検体検査自動化システム、全自動血球計測システム、血液凝固測定システム、時間外検査システム。九州大学ARO次世代医療センター支援の下、複数種の最先端質量分析計(MS)を配備した統合分析システム

【特色】

検査部では入院、外来を問わず24時間365日、検査データを提供しています。また、遺伝子検査を含む血栓性素因検査、ミトコンドリア遺伝子検査、質量分析装置を駆使した次世代の検査技術の開発も行っています。また、グローバルな視点から検査値の標準化を推進し続けています。

【教育】

医学部医学科、保健学科の臨地実習や講義のほか、他校学生や社会人研修も受け入れ、将来の臨床検査分野における指導者の育成、検査医学の発展に努めています。

【学会施設認定】

日本輸血細胞治療学会認定輸血検査技師研修施設
日本臨床検査医学会学会認定研修施設

手術部

手術部はすべての診療科の手術を行う場であり、すべての手術が安全かつ円滑に行える環境の提供に努めています。



部長 吉住明晴

【運営方針】

手術を受ける患者さんの安全確保を最優先しながら、高度で多様な手術の円滑な遂行に努力しています。

【業務内容】

医師スタッフが周術期患者管理・麻酔診療と手術室の管理運営に従事し、看護師が手術の準備・介助、患者看護ならびに手術室の管理運営を行っています。また、臨床工学技士が心臓手術時の人工心肺操作、医療機器・検査機器の操作と保守を行っているほか、薬剤師が麻薬や麻酔薬をはじめとする薬剤の管理を、技術専門職員が情報機器管理と材料コスト管理を行い、安全かつ効率的な手術医療の運営に努めています。

【特色】

手術部は、南棟の3階に位置し、隣には集中治療部・救命ICUと冠動脈疾患治療部があります。さらに北棟3階のハートセンターとも隣接し、また、救急専用エレベータで1階の救命救急センター、5階の総合周産期母子医療センターと直結して緊急手術への対応を容易にし、病院の基本コンセプトである Critical Care Center 構想の中心的役割を果たしています。手術室は、無菌手術室、感染症手術室、ハイブリッド手術室、ロボット手術室を含めた計21室を備えており、年間10,000件を超える手術を行っています。

集中治療部

集中治療部は、大手術を受けた患者さんの術後管理や、入院中に重篤な状態となった患者さんに高度な全身管理を行う中央診療部門です。



部長 山浦 健

【得意分野】

集中治療とは、外科系および内科系疾患を問わず、原疾患に併発した呼吸、循環、代謝、神経系などの重要臓器不全に対して、集中的な管理・治療を行うことで臓器機能を回復させ救命することを目的としています。重篤な状態にある患者さんに対して、バイタルサインをはじめとする生体情報を持続的にモニターしながら、人工呼吸器、体外循環装置、血液浄化装置といった生命維持装置を駆使して、総合的・集中的な全身管理を行っています。

【診療方針】

成人から小児・新生児まで、当該科の診療を集中治療部の専任スタッフが専門的立場から支援し、関連する診療科・診療部門と緊密な連携をとりながら高度な集中治療を行うことで、患者さんの状態安定・改善を目指しています。また医療安全に配慮し、高度かつ安全な集中治療を提供することを目指しています。

【対象疾患】

手術後予定入室：心臓・大血管手術、臓器移植手術(心・肝・腎・膵・小腸)、開頭手術など
緊急入室：心停止蘇生後、急性呼吸・循環不全、意識障害・脳卒中、腎障害、敗血症など

放射線部

放射線部門は、九州大学病院のすべての診療科・部門と密接に協力して、放射線に関連する検査、画像診断・インターベンショナルラジオロジー・放射線治療・核医学検査および治療を行っています。



部長 石神康生



IVR-CT装置

【運営体制】

診断・治療・核医学の3部門に分かれ、医師5名(兼任2名)・診療放射線技師68名・看護師13名・事務補佐員など10名で運営しています。業務時間外は、診療放射線技師2名が勤務しています。

【運営方針】

患者さんの負担はできるだけ軽く、短時間に、精密で安全な検査・治療を遂行することを心がけ、放射線科をはじめ他の診療科との密接な連携の下に検査・治療業務を行っています。

【業務内容】

画像診断・インターベンショナルラジオロジー・放射線治療・核医学検査および治療を行っています。

【設備】

■診断部門

1.5T MRI 装置1台、3T MRI 装置5台、マルチスライスCT装置5台、心臓カテーテル検査装置2台、血管造影検査装置、IVR-CT装置などの最新技術を導入した専用のX線撮影装置や消化管検査・IVRなどに使用するX線透視装置、骨密度測定装置、単純X線撮影装置、X線動態撮影装置、移動型X線撮影装置、超音波検査装置などを装備しています。

■放射線治療部門

高精度放射線治療装置3台(うち1台は即時適応放射線治療に対応)、腔内照射や組織内照射の装置(マイクロセレクトロン)

を使って放射線治療を行っています。

■核医学部門

SPECT-CT装置4台、PET-CT装置2台を装備し、PET-CT検査は外部からも広く検査を受けています。また、専用の施設で、放射性物質を用いた甲状腺疾患や神経内分泌腫瘍、褐色細胞腫の治療も行っています。サイクロトロンでPET検査薬の合成を行っています。

【特色】

画像診断・放射線治療に関連する最新の機器を多数保有し、高い技術レベル・安全性を維持しています。

【教育】

医学科・保健学科との連携のもと、病院見学や多数の実習生を受け入れ、九州大学病院の放射線診療機器の原理・取扱い・安全管理に関する教育を行っています。また、病院職員に対しても放射線の安全取扱いに関する教育を行っています。

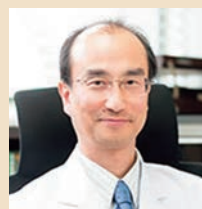
臨床放射線科や保健学科の大学院生の画像診断(被ばく低減撮像法、新たな形態・機能評価画像撮像法開発など)・放射線治療(ターゲットへの照射方法の改善など)に関する研究にも積極的に協力しています。

【学会等施設認定】

特定非営利活動法人日本乳がん検診精度管理中央機構(認定番号2269号)、日本救急撮影技師認定機構 指定実施研修施設、(公社)日本診療放射線技師会臨床実習指導登録施設

病理診断科・病理部

病理部は、組織や細胞の顕微鏡的観察により、病気を診断する部門です。正確な診断によって、よりよい治療に貢献できるよう業務を行っています。



部長 小田義直



顕微鏡を用いた病理診断

【運営体制】

病理部の業務は、病理医(病理部・病理学教室)と臨床検査技師が密接に連携して行っています。

【運営方針】

「患者さんのための病理診断」を目標に、病理部は医学研究院の形態機能病理学、構造病態病理学、保健学部門検査技術科学分野、歯学研究院の口腔病理学といった専門分野と連携し、高度な病理診断を提供しています。最終診断に際しては臨床医との協議も重視し、「チーム医療」の一翼を担っています。

【業務内容】

病理部の主な業務は、病理組織診断、術中迅速診断、細胞診断、病理解剖です。2025年度には、それぞれ18,242件、1,179件、13,807件、23件の診断を行いました。

病理組織診断では、生検や手術で採取された組織・臓器を肉眼および顕微鏡で詳細に観察し、必要に応じて特殊染色や免疫染色を用いて診断を確定します。バイオマーカー検査を通じて治療標的分子の同定も積極的に実施しています。

また、がんゲノム医療中核拠点病院として、がん遺伝子パネル検査を含む多数の遺伝子検査にも取り組んでおり、6名の分子病理専門医が診断に携わっています。

術中迅速組織診断では、手術中に病変の性質や広がりリアル

タイムで評価し、手術方針の決定に貢献します。細胞診断では、尿、喀痰、擦過・穿刺吸引によって得られた細胞を用いて、悪性所見や炎症性変化の有無を診断します。

病理解剖は、患者さんが不幸にも亡くなられた場合に実施し、病態の解明や死因の究明に役立てます。すべての剖検症例は、主治医を含む臨床医と病理医が参加する臨床・病理検討会で詳細に議論されます。

【設備】

ホルマリン対策排気システム、自動薄切装置、自動染色装置、自動免疫染色装置(5台)、Whole Slide Image 配信システム、検体取り違い防止照合システム、病理診断支援システムなどを備え、診断精度の向上と効率化に努めています。

【教育】

初期臨床研修医や専攻医の受け入れをはじめ、医学科・保健学科学生の実習、大学院生の研究指導、細胞検査士を目指す技師の研修など、幅広い教育活動を行っています。スタッフも院内外の学会・勉強会・研修会に積極的に参加し、診断能力の向上に努めています。

【学会等施設認定】

当病理部は、日本病理学会、日本臨床細胞学会の認定施設であり、ISO15189の認定も取得しています。

遺伝子・細胞療法部

遺伝子・細胞療法部は、輸血センターと細胞免疫検査部門で構成される中央診療部門です。安全かつ適正な輸血・細胞治療システムと、迅速かつ正確な細胞免疫検査の提供に努めています。



部長 菊繁吉謙



アフェレーシスルーム

【得意分野】

自己血貯血を含む輸血療法の安全性確保と適正化に努めています。一元管理による適正な輸血療法の実施をサポートします。疾患ごとに最適な細胞治療とアフェレーシス治療を提供します。最先端の機器と技術による細胞免疫検査を提供します。

【診療体制】

教員4名(日本輸血・細胞治療学会認定医1名、細胞治療認定管理師1名)、医員7名、専任臨床検査技師10名(認定輸血検査技師4名、認定サイトメトリ技術者2名、認定HLA検査技術者2名、細胞治療認定管理師1名)、専任看護師1.5名、臨床工学技士1名の体制で、輸血・細胞治療・アフェレーシス治療に特化した診療・検査に従事しています。24時間体制での輸血検査と血液製剤の管理・出庫を行っています。

【診療方針】

患者さんの安心・安全を第一に考え、十分な説明と同意を得た上で、高い技術と知識に裏打ちされた質の高い輸血・細胞治療とアフェレーシス治療に取り組んでいます。

【対象疾患】

- 造血細胞移植治療の適応となる血液疾患(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、再生不良性貧血など)、自己免疫疾患(強皮症など)
- CAR-T細胞療法の適応となる血液疾患(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など)

- 血しょう交換の適応となる肝疾患、神経疾患、血液型不適合臓器移植、血液疾患、自己免疫疾患
- 白血球除去療法の適応となる炎症性腸疾患
- 自己血輸血の適応となる待機手術症例

【主な検査】

- 輸血検査
- 造血器悪性腫瘍細胞表面抗原検査
- キメリズム検査
- HLAタイピング検査
- 抗HLA抗体検査
- 造血幹細胞数およびCAR-T細胞療法のためのリンパ球数測定

【主な治療法】

- 造血幹細胞採取・保存(末梢血、骨髄、さい帯血)
- CAR-T細胞療法のためのリンパ球採取
- 血しょう交換療法
- 白血球除去療法
- 自己血貯血・保存
- ドナーリンパ球輸注のためのリンパ球採取

【学会施設認定】

日本輸血・細胞治療学会認定制度指定施設
日本輸血・細胞治療学会 I&A認定施設

冠動脈疾患治療部

冠動脈疾患治療部(CCU)は、急性心筋梗塞、不安定狭心症などの緊急治療を要する心臓疾患のほか、心不全、重症不整脈などの高度な医療を必要とする症例の治療にあたっています。



部長 阿部弘太郎



冠動脈疾患治療部

【得意分野】

循環器内科と連携し、急性冠症候群に対する緊急心臓カテーテル検査、緊急冠動脈インターベンションに積極的に取り組んでいます。その他すべての循環器(心臓・血管)疾患の急性期治療もCCUが担当します。

【診療体制】

CCU教員は2名、医員3名ですが、循環器内科と併せて15名の教員、11名の医員が合同で診療にあたります。夜間帯は循環器内科およびCCUの2人の医師が常駐し、24時間緊急心臓カテーテル治療が行える体制を整えています。救急外来到着から迅速に検査・治療を行っています。救命救急センターとも連携を図りつつ、つねに急患を受け入れられる体制をとっています。心原性の院外心停止に対する積極的な経皮的人工心肺(ECMO)や低体温療法なども行っています。

【診療方針】

初めて救急で運ばれて来る患者さんが多いため、十分な説明を行い、納得を得た上で検査・治療を開始するよう心がけています。緊急治療後は個室仕様の病床で安心して治療に専念していただけます。

【対象疾患】

急性心筋梗塞、不安定狭心症、その他の狭心症、心不全、劇症型心筋炎、急性肺血栓塞栓症、急性大動脈解離、肺高血圧症、重症不整脈、感染性心内膜炎、弁膜症など

【主な検査】

心臓カテーテル検査(IVUS、OCT、FFRを含む)、心臓超音波検査(3D、2Dストレイン、経食道を含む)、トレッドミル、ホルター心電図、心肺運動負荷試験、ポリソムノグラフィ、心臓核医学検査、冠動脈CT、FFR-CT、心臓MRI

【主な治療】

冠動脈インターベンション(ロータブレードを含む)、末梢血管形成術、経皮的交連切開術、下大静脈フィルタ、カテーテルアブレーション(CARTO、EnSite使用)、永久ペースメーカ植込み*、植込み型除細動器(ICD)*、両心室ペースティング、大動脈バルーンポンピング、補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)、経皮的人工心肺(ECMO)、経皮的心房中隔欠損閉鎖術、経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)*、経皮的カテーテル僧帽弁修復術(MitraClip)*、経カテーテル肺動脈弁置換術(TPVI)、経皮的左心耳閉鎖術、バルーン肺動脈拡張術、二相性陽圧呼吸、持続的血液濾過透析、補助人工心臓*、心臓移植*

*心臓血管外科と連携

腎疾患治療部

腎疾患治療部は1983年に開設された中央診療部門です。南棟4階に血液透析ベッドとして13床を保有しています。加えて、2006年から腹膜透析(CAPD)外来を開設しました。



部長 中野敏昭



透析室の風景

【得意分野および診療体制】

血液透析の患者さんの維持透析、急性腎不全に対する緊急透析(約500例/年、約3,900回/年)、および腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群、電解質や酸塩基平衡異常に関する他科からのコンサルテーション(約300例/年)に対応しています。CAPD外来では約50名のCAPD患者さんの管理を行い、年間約15例のカテーテル挿入術を施行しています。その他には、腎炎に対する腎生検と診断(約600例/年)、透析合併症としての二次性副甲状腺機能亢進症の治療や、胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科と連携して腎臓移植の患者さんの内科的管理、移植腎に対する腎生検診断も行っています。

【診療方針】

腎疾患治療部では、蛋白尿から慢性腎臓病、血液および腹膜透析医療、腎不全に伴う合併症治療、さらには腎臓移植に至るまで腎臓に関する包括的医療を目指しています。看護師、臨床工学士の協力のもとにチーム医療を行い、患者さんにとって最善の治療を行えるよう十分な検討を行い、治療方針を決定しています。

【対象疾患および主な検査、治療】

■腎炎、ネフローゼ症候群

確定診断のための腎生検検査を行います。専門の腎病理医が診断し、腎組織カンファレンスで治療方針を決定します。

■腎不全、電解質異常に関するコンサルテーション

腎不全や電解質の管理、腎不全時の薬剤投与の注意点など、腎臓全般に関するコンサルテーションを受け付けます。腎前性・腎性・腎後性腎不全の鑑別のための腹部超音波検査を施行し、理学所見や他検査と合わせた総合的医療を行います。

■血液透析

血液透析患者の維持透析および急性腎不全に対する緊急透析、これに関連したバスキュラーアクセス造設術、人工血管移植術、透析用カテーテル留置術、経皮的血管形成術(PTA)などを行います。

■腹膜透析

CAPD患者の内科的管理に加えて、外科的には腹膜透析カテーテル留置術から抜去術まで行います。

■腎移植

胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科と連携して、腎臓移植患者のサポートを行います。腎臓移植前後の透析療法に加え、専門医が腎臓移植後の内科的管理や移植腎の病理診断を行います。

■二次性副甲状腺機能亢進症

専門医が副甲状腺超音波検査を含めた精査を行い、内科的治療、副甲状腺摘除術(PTX)などを行います。

【学会施設認定】

日本腎臓学会認定施設、日本透析学会認定施設

総合周産期母子医療センター

母体の分娩ならびに母体、胎児、新生児のすべての疾患に対して集学的に診療を行うセンターです。



センター長 田尻連郎

【得意分野】

緊急を要する母体や新生児を速やかに受け入れ、診療各科と連携して集学的な周産期医療を行います。

【診療体制】

総合周産期母子医療センターは母性胎児部門、新生児内科部門および新生児外科部門の3部門で構成し、専門スタッフが協力して診療にあたります。

【診療方針】

母体と胎児、新生児に高度で安心できる診療を行います。

【対象疾患】

■母性胎児部門

母体・胎児救急:母体搬送(24時間体制で対応)
ハイリスク妊娠・分娩:病気をもつ妊婦さんと胎児の集学的な妊娠分娩管理
母子精神保健:妊娠・分娩に伴う精神疾患の予防と母子精神支援

■新生児内科部門

早産児、低出生体重児を中心に、新生児仮死、呼吸障害、感染症、先天性心疾患、中枢神経疾患、内分泌代謝疾患、血液免疫疾患、先天形態異常などの、集中治療を要する新生児疾患

■新生児外科部門

先天性横隔膜ヘルニア、肺のう胞性疾患、臍帯ヘルニア・腹壁破裂、消化管穿孔、食道閉鎖、腸閉鎖、ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形、水腎症など

【主な検査】

■母性胎児部門

超音波検査:胎児の発育や形態異常、中枢神経機能の解析
胎児心拍陣痛図:中央監視システムで胎児の健常性を常時観察
羊水・臍帯血検査:羊水穿刺・臍帯穿刺による染色体検査、遺伝子解析、胎児血液検査

■新生児内科部門

超音波検査:心臓や脳の異常を非侵襲的に検査
AABR:退院前の新生児を対象とした簡易聴力検査
aEEG:ベッドサイドで行う簡易脳波モニタ
NIRS:近赤外線を用いた非侵襲的な脳の機能検査

■新生児外科部門

腹部超音波検査:非侵襲的な腹部臓器の画像検査
pHモニタ:胃食道逆流症の診断
消化管造影:消化管閉鎖、腸回転異常、ヒルシュスプルング病の診断
直腸粘膜生検:ヒルシュスプルング病などの診断

【主な治療】

■母性胎児部門

胎児水腫、胎児不整脈、先天性のう胞性腫瘍様形成異常(CCAM)、閉塞性尿路障害などを対象に、胎児治療を行っています。

■新生児内科部門

Nasal CPAP:非侵襲的に新生児の呼吸を助けます。
HFO:長期人工呼吸による肺損傷の予防効果があります。

■新生児外科部門

NO(一酸化窒素ガス):肺血管抵抗を調節し、循環を管理します。
ECMO(人工肺)、血液透析など。新生児外科の手術は手術室だけでなくNICUやICUでも行い、その治療成績は全国屈指の救命率です。

【学会施設認定】

日本周産期新生児医学会・周産期専門医基幹研修施設、日本小児外科学会専門医認定施設、日本産科婦人科学会専攻医指導施設、胎児心臓病超音波検査専門施設

リハビリテーション部

リハビリテーション部は、すべての診療科の依頼を受けて、さまざまな疾病や障がいがある患者さんに対して手厚いリハビリ診療を提供し、新しい医療技術の研究開発を行い、社会人や学生に対する教育啓発にも努めています。



部長 遠藤 誠



広い理学療法フロアでの運動療法

【得意分野】

骨軟部腫瘍・関節疾患・脊椎疾患などの運動器疾患に対するリハビリをはじめ、心臓リハビリ、呼吸理学療法、脳血管疾患リハビリ、小児および終末期のリハビリ、言語聴覚療法など、全診療科にわたる幅広いニーズにお応えしています。

【診療体制】

医師3名、理学療法士(PT)23名、作業療法士(OT)6名、言語聴覚士(ST)2名が、それぞれの職能を活かし、心を込めてリハビリ診療を行います。施設基準は、脳血管疾患Ⅰ、運動器Ⅰ、呼吸器Ⅰ、心大血管疾患Ⅰ、廃用症候群Ⅰ、がんリハ等を取得し、総合的なリハビリ医療環境が確保されています。

【診療方針】

主治医の治療方針とオーダー内容を遵守しながら、リハビリ独自の専門性や特殊性を活かして、患者さんご家族を支える医療チームとして治療方針を立て、経過に応じて適宜修正を行います。また、リハビリ部門は「病院内と、家庭や社会との架け橋」としての機能を持ち、医療連携や地域貢献を進めています。

【対象疾患】

整形外科疾患の術前・術後リハビリが全体の約30%を占めますが、脳神経外科や神経内科疾患のリハビリ、心臓血管外科の術後や循環器内科の心大血管リハビリ、臓器移植術や多発外傷後

のICUでの急性期リハビリ、長期臥床・安静後の廃用症候群に対するリハビリなど、小児から高齢者まで各診療科のさまざまなニーズに応えています。診療患者数は毎日290名、年間診療患者数は約75,000名、初診依頼数は年間5,600名を超えて、さらに増加中です。

【主な検査】

簡易上肢機能検査(STEFF)
高次脳機能障害の各種検査
重心動揺計(バランスコーダ)
三次元動作分析システム(VICON)
シート式下肢加重計(ウォークWay)
肺運動負荷モニタリングシステム(エアロモニタ)

【主な治療】

徒手で治療を行います。一部機器も使用します。
膝関節等速性筋力トレーニング(COMBIT)
上下肢全身運動器(ニューステップ)
電気刺激装置

光学医療診療部

光学医療診療部は診療科ごとにそれぞれ独立して行われていた内視鏡検査を統合し、効率的で安全かつ快適な検査・治療を行える診療体制を整えています。多数の内視鏡専門医、看護師、臨床工学技士の下に、最新の機器を導入し、最先端の検査・治療を行っています。



部長 仲田 興平



上部消化管内視鏡検査

【得意分野】

現在、透視検査が可能な部屋も含め8室の検査室があり、それぞれ独立した部屋となっています。8台の内視鏡検査装置がハイビジョン対応で、より鮮明な画像を得ることができるようになりました。最近脚光を浴びている内視鏡的粘膜下層剥離術にも最新の機器を設置し、対応に力を入れています。また海外(とくにアジア)との交流も活発で、高速インターネット回線を使ったカンファレンスを日常的に行うとともに、アジア各国から多くの研修生を受け入れています。

【診療体制】

多数の消化器内視鏡学会指導医・専門医、呼吸器内視鏡学会指導医・専門医、看護師、臨床工学技士などの専門スタッフが勤務し、年間14,000件を超える内視鏡検査と治療を行っています。

【診療方針】

安全かつ快適な内視鏡検査・治療が患者さんに行われるよう、つねに心がけています。使用する内視鏡の使用状況、洗浄・消毒の記録を残すシステムを導入するなど、感染対策にも力を入れています。

【対象疾患】

- 食道:食道癌、食道炎、食道静脈瘤、食道狭窄など
- 胃・十二指腸:胃癌、胃潰瘍、胃ポリープ、胃炎、十二指腸潰瘍、

胃悪性リンパ腫など

- 小腸:小腸腫瘍、小腸ポリープ、小腸出血など
- 大腸:大腸癌、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、クローン病など
- 膵臓・胆道:胆石症、胆道癌、胆管結石症、膵臓癌、胆管癌など
- 呼吸器:肺癌、間質性肺炎など

【主な検査】

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、気管支鏡検査、逆行性膵胆管造影検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、ダブルバルーン内視鏡アシスト下逆行性膵胆管造影検査、カプセル内視鏡、超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診、胸腔内超音波検査、経気管支肺生検、超音波気管支鏡など

【主な治療】

- 消化管:内視鏡的静脈瘤結紮術、内視鏡的硬化療法、内視鏡的ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的止血術、バルーン拡張術、ステント留置術、経口内視鏡的筋層切除術(POEM)、内視鏡的逆流防止粘膜切除術(ARMS)、光線力学療法(PDT)など
- 胆道・膵臓:内視鏡的乳頭切開術、超音波内視鏡下穿刺吸引法、内視鏡的ステント留置術など
- 呼吸器:レーザー治療、バルーン拡張術、ステント留置術など

先端医工学診療部

先端医工学診療部は、「低侵襲診断」「低侵襲治療」をモットーに、患者さんに優しい「精確」で安全な医療の提供を目指して診療を行っています。世界最先端の医療機器の開発を促進し、手術支援ロボットや高度医療技術を駆使して、より侵襲の少ない治療法を、多くの患者さんに提供できるよう、さまざまな診療科と臨床開発を行っています。



部長 沖 英次



国産ロボットを使用した遠隔手術のシミュレーション

【得意分野】

- 手術支援ロボットダヴィンチを用いたロボット手術
- ナビゲーション技術を用いた低侵襲治療
- 内視鏡を用いた低侵襲治療
- 遠隔手術の臨床開発
手術支援ロボットを用いた遠隔手術について、臨床応用にむけた研究開発を行っています。
- 新規治療機器の研究開発と臨床応用
マイクロ手術が可能な新しいロボットや3Dアノテーションシステムの研究開発を行っています。

【診療体制】

一般外科のみならず泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科、小児外科・成育外科・小腸移植外科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科など多岐にわたる臨床系指導医のほか、工学博士などの先端医療を専門とするスタッフと協力することで、診療対象症例を徐々に増やしています。

【主な治療】

- 画像誘導下治療
CTや超音波画像などから作り出したナビゲーション画像を基に、手術をより効率よく、安全に行う方法です。現在、外科、内科、整形外科、泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科(泌尿器科)、小児外

科・成育外科・小腸移植外科(小児外科)、耳鼻咽喉・頭頸部外科(耳鼻咽喉科)、脳神経外科、歯科と協力して研究、臨床に取り組んでいます。

■ロボット手術

内視鏡下手術のほとんどすべてが対象となります。
適応例:食道切除術、胃切除術、大腸切除術、腎摘出術、脾切除術、総胆管切開術、胆のう摘出術(小児例含む)、噴門形成術(食道裂孔ヘルニア胃、逆流性食道炎に対する手術)、脾臓摘出術(小児例含む)、前立腺全摘術など。
アクセス困難な場所や、縫合など複雑で綿密な手術操作を必要とする手術に適します。上記以外にも適応症例は徐々に増えています。

■遠隔手術

本診療部では近い将来実用化される予定の、ロボットを使った遠隔手術について、臨床研究を行っています。

■内視鏡外科手術トレーニング

本診療部は、2004年に学内外の外科医を対象に設置された「九州大学病院内視鏡外科手術トレーニングセンター」の運営を担当し、2,000名を超える受講生を輩出しています。

【学会施設認定】

日本肥満症治療学会、肥満外科手術認定施設

子どものこころの診療部

子どもと養育者のメンタルヘルスのために、九州大学病院の関連診療科やセンターと、九州大学の多職種・多領域が協働して治療や支援に取り組みます。



部長 中尾智博



診療スペース

【得意分野】

神経発達症がある子どもの総合的な診断評価と関連機関との連携・家族支援、周産期医療と連携した女性のこころの健康と育児支援、乳幼児期のこころの問題。

【診療体制】

子どものこころ専門医、公認心理師を中心に、子どものこころの育ちに関わる小児医療センター、総合周産期母子医療センターなど院内関連部門のスタッフと連携して治療にあたります。

【診療方針】

個人のライフスパンを視野にいれて、さまざまなこころの育ちと健康のあり方をサポートします。子どもと家族の安心・安全な生活のために地域医療、教育、福祉など関連領域との連携を重視します。

【対象疾患】

- 子どものメンタルヘルス:注意欠如・多動症、自閉スペクトラム症、限局性学習症などの行動のコントロール、社会性、学業のつまづきにつながる神経発達症、うつ病、不安症など子どもの情緒の問題。チック症、トゥレット症(トゥレット症候群)などの習癖の問題、心的外傷などストレス関連障害。
- 養育者のメンタルヘルス:周産期うつ病、育児不安、養育困難のリスクをもつ母親と家族、神経発達症がある子どもの家族への支援。

【主な治療】

■子どものこころと育ちの総合的な診断評価:国際的に標準化された児童精神医学の診断技術や多面的な発達検査・心理検査・医学検査を組み合わせ、子どもと家族にわかりやすい診断・治療プログラムを提案します。情緒・行動の問題に対しては最新の薬物療法と心理療法を組み合わせた治療を提供します。発達障がい者支援拠点病院(子どもの心の診療ネットワーク事業)として地域の支援機関や教育機関での対応にも役立つ診療情報の提供を通じて、支援のネットワーク作りに積極的に取り組みます。

■周産期からはじまる母子のこころの健康支援:総合周産期母子医療センターと連携して、こころの健康にリスクをもつ女性に、妊娠期から、赤ちゃんとの出会いや育児のスタートへとつながる予防や早期支援のためのメンタルヘルスサービスを提供しています。こころの問題をもつ養育者が、安心・安全な出産・育児が行えるよう助産師、精神科医、産科医、心理師のチームによるサポートも行います。

【学会施設認定】

日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本乳幼児医学・心理学会

油症ダイオキシン研究診療センター

油症ダイオキシン研究診療センター（以下センター）は、1968年に発生したカネミ食用油による食中毒事件（以下油症）の治療法開発の推進と発症機序の解明に向けた研究を推進する研究診療拠点として2008年に設置されました。



センター長 中原剛士



油症支援室

【得意分野】

油症はカネミ油に混入していたPCB類やダイオキシン類による複合中毒です。犠牲者の方々は発生当初はもとより、約58年が経過した現在でもさまざまな症状に苦しんでいます。PCB類やダイオキシン類の人体影響については未解明の部分が多く、地球環境の視点から考えてもきわめて重要な課題です。油症の「病態および発症機構」を解明することによってダイオキシン類が人体にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることは、人類全体にとっても有益であると考えます。このような社会的・学術的な要請を満たすべく、九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターは診療、研究、患者支援を行っています。

【診療体制】

センター長は中原剛士とし、准教授1名、助教2名、学術研究員3名、看護師1名、メディカルソーシャルワーカー1名、テクニカルスタッフ1名、事務補佐員1名を配置します。全国油症治療研究班や各診療科と連携して疫学調査、臨床試験、検診、診療、油症相談員や患者会支援の業務を実施します。また長崎大学病院、各地域のかかりつけ医や患者会との連携を緊密にしています。さらに、油症診療ネットワークとして、油症外来（皮膚科）を窓口に関診療科（眼科、呼吸器内科、産科婦人科、脳神経内科、心

療内科、整形外科、内科、歯科、循環器内科）を紹介しています。

【診療方針】

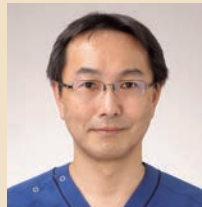
油症の解明や治療法を開発を求める油症患者のニーズに合わせ、迅速かつ確かな診療を行えるよう関連各診療科と緊密に連携をとり、患者さん中心の診療に取り組んでいます。当センターが中心となって、ダイオキシン類の人体影響を明確にするために不可欠な疫学調査を押し進め、ダイオキシン類の排泄促進や症状を軽減させる治療法の開発のための臨床試験を促進させています。そして、長期的課題である油症の解明と新しい治療法開発につながるような基礎的研究も発展させていきたいと考えています。また、当センターが中核となり、長崎大学病院はもとより、各地域のかかりつけ医との連携を強め、油症治療の普及・発展を推進します。

【主な業務】

油症に関する健康実態調査、疫学、検査、治療、基礎的研究

救命救急センター

3次救急医療全般、とくに急性心筋梗塞や脳卒中などの心血管病、重症外傷に力を入れています。大学病院として医学生のみならず、卒後医師の研修、救急救命士の訓練などにも取り組んでいます。



センター長 赤星朋比古

【得意分野】

救急、麻酔・集中治療、脳血管、小児、循環器、感染症、整形、外科の各専門医が、交代勤務体制で重症の患者さんに24時間対応します。各種疾患に応じ専門各科とのスムーズな連携を行い、看護師、診療工学技士、放射線部などとのチーム医療により、大学病院ならではの高度な医療を提供することを心がけています。

【診療方針】

緊急度、重症度を迅速かつ正確に判断し、人工呼吸管理、体外循環補助、血液浄化療法などの高度な機器をタイミングを逃さずに用いることで、早期に社会復帰を果たすことができるよう、患者さん自身の治癒力を引き出す医療を心がけて診療を行っています。

【対象疾患】

- 重症多発外傷：ショック、頭部外傷、緊急止血術などを要する症例など
- 重症内因性疾患：急性心筋梗塞、重症不整脈、心筋炎、脳卒中など
- 重症熱傷：広範囲熱傷、気道熱傷など

【主な治療】

専門部署と連携し、生命に直結した全身管理を行っています。人工呼吸管理（肺保護戦略的アプローチ、非侵襲的陽圧換気法、呼吸理学療法）、循環管理（薬物療法、ペーシング、大動脈バルーンポンピング、経皮的人工心肺、左室補助装置など）、持続血液濾過透析、エンドトキシン吸着療法、脳低温療法など

医療器材サプライセンター

医療器材サプライセンターは、院内で使用する医療器材の洗浄・組立・包装・滅菌を行い、安心・安全な医療器材を提供する部門です。



センター長 吉本幸司

【運営方針】

安心して使用できる安全な医療器材を、安定して医療現場へ提供できるよう、医療器材の洗浄・滅菌評価を実施し、高水準な洗浄および滅菌の質を確保しながら、供給する医療器材の質の向上に努めています。

【業務内容】

院内で使用した医療器材を専用搬送カートで回収し、洗浄・組立・包装・滅菌を一元的に行っています。回収した器材と専用搬送カートは、高水準消毒が可能な洗浄装置（12台）とカート洗浄機（2台）にて洗浄しています。滅菌は、高圧蒸気滅菌装置（8台）・エチレンオキサイド滅菌装置（1台）、過酸化水素ガスプラズマ滅菌装置（4台）を用いて、器材に適した滅菌方法を選択しています。滅菌保証は、滅菌工程を監視する物理学的方法、カードや滅菌バッグの色変化をみる化学的方法、菌の死滅をみる生物学的方法の3つの方法を採用しており、全てにおいて問題がないことを確認した上で供給しています。また、洗浄・滅菌の質を確保するため、洗浄・滅菌システムやプロセスが予め定めた仕様に適合しているかを検証することを目的としたバリデーションや点検、高水準な洗浄・滅菌が行われているかの評価を定期的に行っています。

【特色】

自動洗浄システム、自動滅菌搬送システム、手術器材自動保管・搬送システムなどにより、自動化された洗浄・滅菌部門として、多くの医療器材の洗浄・滅菌に対応しています。

メディカル・インフォメーションセンター

メディカル・インフォメーションセンター（MIC）は、病院情報システムの安定した稼動を担うとともに、インターネット回線を含めた病院全体の情報セキュリティを管理しています。また蓄積した電子データを管理しつづ解析も支援しており、近年は医療DXの推進活動も担っています。



センター長 中島直樹



電子カルテ端末

【運営体制】

MICでは、多職種スタッフ（医師、看護師、薬剤師、診療情報管理士、医療情報技師、統計・疫学専門家、エンジニア、事務職員など）が役割分担をして効率よい協働体制を構築しています。これにより、診療現場や病院内各部署への診療・研究支援を行うと同時に、病院全体の情報システムの統合的管理が可能となりました。

【運営方針】

九州大学病院は、2008年に電子カルテを導入して以降、システム整備を進めてまいりました。解決すべき課題も山積みですが、これからもより使いやすいシステムを構築するための努力を継続します。また急激に蓄積する電子データを安全に管理しながら解析する基盤を構築することにより、各部署や診療科のさまざまなニーズに対して支援を行います。さらに疾病コホート研究やデータ駆動型研究などの臨床研究面での支援を積極的に推進します。

【業務内容】

- 病院情報システムの管理、部門システムを含めたネットワーク管理、地域医療ネットワーク管理、インターネット監視、災害時バックアップシステム管理
- 臨床観察研究支援、データ駆動型臨床研究支援、医療情報システム研究、遠隔医療研究支援、AI開発支援

【設備】

- 病院情報システム：サーバ・情報機器群、電子カルテ端末、医用画像フィルムレスシステムなど

- 病院情報ネットワーク：電子カルテネットワーク、部門システムネットワーク、九州大学総合情報伝達システム（KITE）

【特色】

MICは、各部署や各診療科との話し合いを広くもちながら、医療安全管理や医療の質向上を担うと同時に、患者さんにも医療者にも優しいシステムを目指しています。

また、データ解析基盤の充実と人材確保に重点を置くと同時に九州大学本部データ駆動イノベーション推進本部との連携も行い、情報セキュリティを強化しています。さらには、アジア遠隔医療開発センターを擁する国際医療部と協力し、国際的な活動を展開しています。

【教育】

医学研究院・医療情報学講座と連携し、医療情報、生物統計学に関する教育を提供すると同時に、医療系統合教育センターと共同で、学生実習用電子カルテの教育・運用およびCBT実施支援を行っています。また、研修医や新任職員への情報リテラシーオリエンテーションやオーダ研修を行っています。さらに電子カルテを用いたデータ検索・抽出に関する講習会を定期的に開催しています。

【学会・行政施設認定】

医療情報データベース（MID-NET）事業協力医療機関
臨床研究中核病院ネットワーク事業参加医療機関
社会系専門医研修連携施設

臨床教育研修センター

2004年から始まった新研修医師制度に合わせて設立され、2006年からは新歯科医師研修制度が始まり、現在、医師・歯科医師の卒後教育を統括する部門となっています。研修医と研修歯科医がより良い環境の中で研修ができ、自ら学び、積極的に経験ができるよう、あらゆる面から研修医をサポートします。



センター長 新納宏昭

【運営体制】

臨床教育研修センター長、副センター長（医科、歯科部門各1名）、専任教員2名、医員1名、センター支援教員（医科、32名）、カリキュラム委員（歯科、18名）により構成されています。

【運営方針】

九州大学病院では、病院の基本理念である、患者さんに満足され、医療人も満足し、医療の発展に貢献できる医師、歯科医師、研究者を育てることを目指しています。

【業務内容】

- 初期研修医/研修歯科医に対する業務

初期研修医/研修歯科医の採用試験の実施、初期研修プログラムの作成・初期研修プログラムの説明会の実施、初期研修医/研修歯科医への入職時のオリエンテーション、初期研修医/研修歯科医の評価（PG-EPOC：医科、臨床研修習熟度評価：歯科）指導・初期研修プログラムの評価と見直し・研修管理委員会による研修修了判定、研修医手帳（医科）・研修医記録簿（歯科）の作成と管理、支援教員会議（医科、四半期一回）・カリキュラム専門委員会（歯科、不定期）を実施、講習会（月一回）の企画と統括（九大病院グラウンドラウンド、福岡臨床研修セミナー、呼吸管理セミ

ナー、研修歯科医対象臨床セミナーなど）、初期研修医/研修歯科医の年2、3回のヒアリング、初期研修医/研修歯科医に対するワクチン接種

- 後期（専門医）研修（医科）/後期研修医（歯科）に対する業務
- 新専門医制度に関する説明会実施・後期研修のコーディネートと管理

【特色】

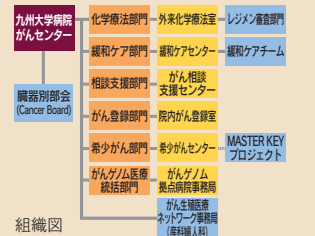
当センターは、研修医と研修歯科医がより良い環境の中で研修ができ、自ら学び、積極的に経験できるように、研修生活をあらゆる面からサポートします。初期研修プログラムの管理・運営は、当センターが研修医の希望を考慮して実施しています。本プログラムの研修施設は、本院と研修協力病院、研修協力施設などが一体となった臨床研修病院群で構成され、円滑な連携に努めています。国立大学附属病院臨床研修協議会との連携も行っています。すべての研修医が公平で一貫した初期研修に専念することができるようサポートします。また、その後の後期（専門医）研修にスムーズに移行できるように、新専門医制度に関する説明会や後期研修のコーディネートも行っています。

がんセンター

九州大学病院は、2008年2月8日に厚生労働省から福岡県のがん診療連携拠点病院に指定されました。九州大学病院がんセンターはその役目を担い、院内のがん医療の充実を図り、地域がん診療連携拠点病院と共に、福岡県のがん医療を推進するために活動しています。



センター長 馬場英司



【運営方針】

福岡県がん診療連携拠点病院として、本院はもとより県内のがん医療推進に努めます。我が国のがん対策推進基本計画の骨子である、がん予防、がん医療、がんとの共生、そしてこれらを支える基盤の整備という目標を踏まえ、安全ながん薬物療法、緩和医療、相談支援、がん登録などの充実を目指すと共に、中心的課題であるがんゲノム医療や希少がん・難治がん対策にも積極的に取り組み、患者さん本位のがん医療の実現を目指します。またAYAがんや小児がん診療の支援のため、妊孕性温存に関する情報発信の強化、県内の治療施設間における連携体制等を目的とした福岡県がん・生殖医療ネットワーク事務局を設置するとともに、当院内の小児がん拠点病院事務局とも連携を進めます。

【業務内容】

九州大学病院がんセンターは6つの組織から成り立っています。

- 「外来化学療法室」外来における抗がん剤治療を担当するとともに、本院の抗がん剤治療の内容を精査し標準化するために化学療法レジメン管理を行っています。外来での抗がん剤治療を安全に実施すべく活動しています。
- 「緩和ケアセンター」医師、看護師、薬剤師、公認心理師が参加し、がん患者さんの身体的・精神的苦痛を和らげるために活動しています。緩和ケアセンターには専任の看護師がジェネラルマネージャーとして在籍し、拠点病院や在宅医療機関との緩和医療連携体制の強化を進めています。
- 「がん相談支援センター」看護師と社会福祉士が在籍し、院内外のがん患者さんやご家族の様々な相談に対応しています。また、地域医療機関と

密接に連携し、がん患者さんが地域においても適切な療養環境が得られるように支援しています。

- 「院内がん登録室」本院では年間約4,000例の新規がん患者さんの治療情報を収集・登録しています。ホームページでは部位別のがん治療の実績や予後情報について広く公開しています。
- 「がんゲノム医療統括部門」本院は九州で唯一のがんゲノム医療中核拠点病院に指定されています。がんゲノム医療は、がん細胞の多数の遺伝子を同時に解析して個々の患者さんに合った治療を行うとする新しい医療であり、これには多分野の専門家の協力が必要です。本院では当部門がこれを担当し実施しています。
- 「希少がんセンター」希少がんは罹患率が人口10万人当たり6例未満の希ながんであり、頻度の高いがんに比べて診断や治療が困難です。当院だけでなく、県内そして九州・沖縄・山口の希少がん患者さんの診療やセカンドオピニオン、その他の診療支援を迅速かつ適切に実施することを目的として、希少がんセンターは活動しています。また直通の電話回線「希少がんホットライン」を開設し、希少がんに関する患者さんや医療機関からの様々な問合せに対応しています。

【院内活動の特色】

がんセンターは18の臓器別専門部会の運営を担当しており、各部会に内科医、外科医、病理医などの専門医や薬剤師、看護師が参加し、診療科・職種の枠を超えてがんの治療方針を討議しています。「九州大学病院がんセミナー」「がんゲノム医療セミナー」「クローバー会」を定期的に開催し、院内と地域の医療者や、患者さんを対象に最新のがん治療に関する情報提供を行っています。

医療連携センター

九州大学病院は高度急性期病院で、先進医療や救急医療、がん医療、脳血管疾患、循環器疾患、小児医療、移植医療、難病医療などの高度医療が必要な患者さんを数多く受け入れて地域医療に貢献する責務があります。医療連携センターは、地域医療機関から患者さんを円滑に受け入れるための活動を行うとともに、高度医療を終えた患者さんが地域で安心して療養できるように支援しています。



センター長 中川尚志



センターの相談受付

【運営体制】

センターに運営委員会を設け、医科・歯科から選出された医師や、看護師、社会福祉士、事務職員など、多職種で地域との医療連携のあり方を協議しています。予約センター、在宅療養支援室、社会福祉相談窓口がそれぞれ役割を分担し、患者さんからの相談対応、紹介患者さんの受け入れ、退院に向けての在宅療養支援、転院先紹介、社会福祉相談などを行っています。

【運営方針】

患者さんが住みなれた地域で必要とする医療を安心して受けられるよう、高度医療を担う本院とそれぞれに特長をもつ地域の医療機関が密接に連携することを主眼に活動します。院内の関係部署である患者相談支援室、国際診療支援センターやがん相談支援センターとも連携しています。

【業務内容】

- 予約センター：地域の医療機関から紹介される患者さんが円滑に本院を受診でき、満足を得られる診療が受けられるように支援します。
- 在宅療養支援室：入院中の患者さんが退院し、在宅医療が必要となった場合に、地域医療機関と連携をはかりさまざまな支

援を行っています。

- 社会福祉相談窓口：社会福祉士が中心となり、医療費に関する相談や、さまざまな生活支援に関する相談、あるいは地域医療機関との連携を担当しています。
- 院内病床管理業務：高度医療を迅速に提供するために、看護師長を中心として共通病床や空床を効率的に管理・運用しています。
- 入退院・周術期支援センター：患者さんが安心して安全に入院、手術、治療、検査を受けられるよう、スタッフが各科担当医師や、手術部、病棟、事務と連携し、入院前から患者支援を行っています。

【特色】

九州大学病院で治療が必要な患者さんの受け入れから、病床の管理、退院・在宅療養に至るまで高度医療が必要な患者さんをトータルに支援します。

【教育】

地域医療連携をテーマにした講演会等を開催し、院内外からの医師、看護師、介護士、理学療法士、社会福祉士、事務など、さまざまな職種の参加を募り、意見交換を行っています。

グローバル感染症センター

グローバル感染症センターは、院内における感染対策の充実を行っています。さらには、地域の医療機関をはじめ、アジア地区におけるネットワークの形成を通じ、お互いの感染対策の充実を図ります。



センター長 三宅典子



グローバル感染症センター委員会

【運営体制】

グローバル感染症センターは、センター長、専任医師2名、専従看護師4名、専従薬剤師1名、専従事務職員2名で構成されています。委員会は、医科部門の医師8名、歯科部門の医師2名、看護師4名、薬剤師2名、臨床検査技師4名、栄養管理士1名、事務職員2名の参加のもと開催しています。

【運営方針】

感染症対策は、個々の医療機関における対策のみでは困難となり、グローバルな視点にたった対策が求められています。院内における感染対策の充実はもちろんのこと、近隣の医療機関をはじめとした、地域・アジアに向けた感染対策の拡充を図っています。

【業務内容】

■院内向け業務

感染対策マニュアルの作成、感染制御に係る職員の教育・研修、定期的な院内ラウンド、院内感染発生時に必要な指導、院内感染予防の推進、抗菌薬の適正使用に関する指導、感染症診療の支援など

■院外向け業務

行政、地域医療機関およびアジア医療機関とのネットワークの整備・拡充、人材育成プログラムの開発、渡航前のワクチン接種、グローバル化する感染症に対する研究など

【特色】

院内感染において脅威となっている薬剤耐性の腸内細菌目細菌やアシネトバクター、パンデミックな感染を引き起こす新型インフルエンザや新型コロナウイルスなどのように、さまざまな病原微生物に対する感染対策は、一つの医療機関の対策のみでは不可能となりつつあります。そして、多剤耐性菌や鳥インフルエンザなどは、とくにアジア地区に多い現状があります。このような社会的背景のもと、グローバル感染症センターが開設されました。院内業務のみならず、院外に対してもネットワークを通じて、教育・啓発活動を行い、情報発信を行っていくためです。

これまで、福岡地区には、地域の医療機関を中心とした感染対策に関する組織として、「福岡ICT交流会」が存在していましたが、これを基盤として2012年度より福岡地区感染対策ネットワークを構築し、地域医療機関との連携を深めています。また、福岡は、アジアに対する空、海の玄関口であるため、各種輸入感染症に対する対策の充実が求められています。当センターは韓国の釜山大学病院感染制御チームとネットワークを構築しています。新型コロナウイルス感染症においてもネットワークを通じて情報共有を行い、迅速かつ適切な感染対策を行っています。

【学会施設認定】

日本感染症学会 認定研修施設、日本環境感染学会 認定教育施設

医療安全管理部

九州大学病院が提供する医療の安全を確保するために、医療内容や病院システムを把握して、間違いを誘発しない環境や事故を未然に防ぐことのできるシステムを整備するための中心的役割を担っています。



部長 後 信



医療安全管理部 集合写真

【運営体制】

医療安全管理部長、医療安全管理副部長、医療安全管理者（セーフティマネージャー）5名と20数名の部員で構成され、医療に係る安全管理を行っています。

【運営方針】

患者さんが安心して医療を受けられるよう医療安全の確保と信頼の維持・向上を目指します。

【業務内容】

■医療安全の推進、医療事故防止に関すること

インシデントレポートを促進し、それを分析した結果を診療科・部門などにフィードバックし、事故防止に繋がります。各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書の作成、それに基づく医療安全対策の実施状況と評価結果の記録を行います。医療安全に資する診療内容のモニタリングと職員の医療安全の認識の状況の確認を行います。医療安全管理マニュアルの編集と見直しを行います。死亡・死産事例報告の報告状況の確認、報告内容の検証を行います。医療事故調査制度に係る報告、事例検討会、委員会などを開催します。

■医療安全に係る職員の教育・研修に関すること

安全に対する意識の向上や、安全な業務の遂行につながる研

修を企画・実施します。

■インシデントやアクシデントへの対応に関すること

事実の確認、患者さんへの対応確認などを行うとともに、その内容に応じた指導を行います。診療録や看護記録などの確認と、適切な記録のための指導を行います。改善策を検討し、必要があれば病院全体へ周知します。改善策が実施されていることの確認や、必要な指導を行います。

【特色】

■国立大学附属病院長会議の医療安全管理体制担当校とともに、他の特定機能病院と相互連携して行う、医療に係る安全管理の改善のための技術指導を行います。国立大学附属病院医療安全管理協議会では学術・広報委員会委員長を九州大学病院医療安全管理部長が務めています。

■9月17日世界患者安全の日 患者安全を促進することへの人々の意識・関心を高め、国際的な理解を深めると共に、普及活動を推進しています。

■医療安全管理部はさまざまな職種の部員から構成されています。さらに他学部の教員にも協力を仰ぎ、多角的な意見を取り入れて医療安全の向上に努めています。

ARO 次世代医療センター

ARO次世代医療センターは先端技術による医療開発のための組織です。科学的で倫理的かつ信頼性を確保した臨床研究を推進するなど、新しい治療法を国民に届けることが使命です。医療法上の臨床研究中核拠点病院の中核を担っています。



センター長代行 戸高浩司



臨床研究コーディネーターによる治療の説明

【運営体制】

AROは橋渡研究推進部門とともに九州大学生命科学革新実現化拠点を形成し、橋渡し拠点としても機能しています。

【運営方針】

未来医療の開発は、九州大学病院の大きな使命です。ARO次世代医療センターでは、幅広い分野の専門職が協力して活動し、イノベーション人材育成にも取り組んでいます。

【業務内容】

■橋渡し研究の支援

- ・シーズ探索、開発戦略、知財戦略、産学連携、薬事戦略等に関する業務
- ・非臨床/臨床フェーズの橋渡し研究実施
- ・臨床試験物製造とその安全性評価
- ・橋渡し研究や臨床研究データ解析

■臨床試験の支援

- ・企業治験、医師主導治験、先進医療、患者申出療養などの支援
- ・研究者主導型臨床研究(特定臨床研究を含む)の支援
- ・生物統計学的支援・データマネジメント
- ・安全性情報の収集と管理
- ・モニタリング・監査

■教育研修活動、広報活動

【特色】

当センターには、医学、歯学、薬学、看護学等の専門職に加え、生物統計、医学倫理、知財、薬事等の専門家100名以上が在籍しています。先進医療や新薬開発治験はもちろん、九州大学病院の全臨床研究を質の高い倫理的な研究とするため、研究者への専門的アドバイスや業務支援を行っています。

臨床研究の安全性・適正実施をチェックし、助言・勧告・警告を行うとともに、臨床研究コーディネーターが患者さんの安全と倫理性を確保しながら、研究が円滑に進むよう努めています。

特に九州大学では、アジアの国々との連携を強みとしており、国際臨床研究の推進に注力しています。

また、世界的な課題である「顧みられない熱帯病(感染症)」への対応などにも積極的に力を入れ、グローバルな医療開発を牽引しています。

さらに、革新的な医薬品・医療機器の創出を促進するため、九州大学生命科学革新実現化拠点を中心に、医療系スタートアップエコシステム「QUICK」を構築。九州・沖縄・西日本からアジア、そして世界へと繋がる多重圏の医療系スタートアップ支援を推進します。シーズ発掘からアントレプレナーシップ教育、国際展開までを包括的に支援します。

【教育】

九州大学病院では、臨床研究参加スタッフ全員に倫理・法規・科学的事項・業務等の講義/試験合格を義務付けています。現在、医師1,007名、メディカルスタッフ1,312名が認定、うち医師440名、メディカルスタッフ162名は上位PI認定を受けています。認定更新講習会も開催しています。



国際医療部

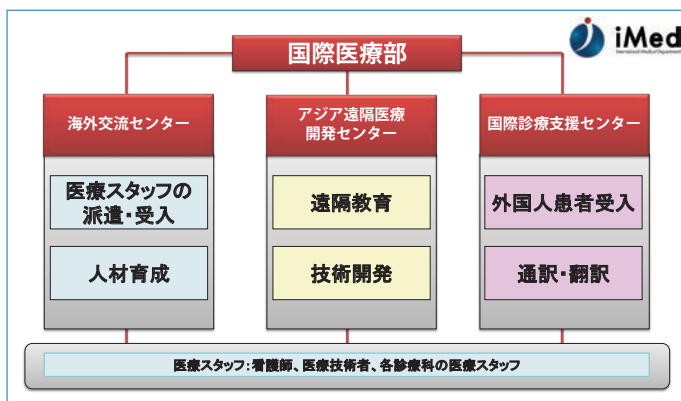
国際医療部はアジアをはじめ世界における国際化拠点として医療・教育・研究のすべてにおいて国際・社会貢献を実現します。



部長 中島直樹

【組織体制】

国際医療部は、国際交流促進担当の「海外交流センター」、国際遠隔医療教育ネットワーク構築担当の「アジア遠隔医療開発センター」、海外や国内の国際患者受け入れ担当の「国際診療支援センター」を統括します。部長および副部長(専任准教授)を中心として、各センターには、全員が英語のできるスタッフを配置するとともに、各診療科から選出された国際化担当教員などと一緒に協力体制を築きます。



海外交流センター

海外派遣や外国人研究者受け入れなどの国際的人事交流を通し、世界で活躍できる人材の育成を目指します。また海外から訪問する医療スタッフのニーズに応え、快適で有意義な滞在をサポートします。



海外医師の受け入れ

【組織体制】

センター長(兼任)を中心として、医師4名(うち1名専任)、国際コーディネータ2名、事務2名(兼任)を配置しています。

【業務内容】

- 海外相互訪問・人事交流の企画・調整
海外の大学・医療施設への人材派遣や受け入れ
- 医師・技術研究者の受け入れ
海外医師・技術者の受け入れ、研修プログラムの実施
- 国際共同研究の調整・支援
海外医療施設との遠隔研究交流を支援
- 海外交流関連事務処理の支援
ビザ取得、宿舍予約、旅費や謝金の支払い手続きなど
- 院内国際交流窓口の一本化
施設見学のコーディネート
- 病院職員に対する人材育成サポート
職員向け英語研修の実施
- 医系地区横断的な人的ネットワークの構築
病院地区部局国際推進室との連携

アジア遠隔医療開発センター

アジアを中心に世界各国の医療機関との間に構築された研究教育用の超高速インターネットを活用し、国際的な遠隔医療教育の中心としての役割を果たします。



遠隔医療会議室

【組織体制】

センター長(兼任)を中心として、医師2名、講師1名(技術系)、学術研究員2名、技術スタッフ3名、国際コーディネータ2名、事務補佐員1名を配置しています。

【業務内容】

- 日本の先端医療技術の発信
早期胃癌診断など日本の先端技術を海外へ発信
- 国際遠隔教育プログラムの企画
世界各国の状況を踏まえ魅力的な教育プログラムを企画
- 各国担当者との調整
国際コーディネータによる各国間の連絡・調整
- プログラムの実施と評価
継続的かつ発展性のあるプログラムを実施
- 遠隔医療システムの改良・開発
世界中の医療機関と高品質な映像音声の接続を実現
- 他施設・他国へのICT技術指導
施設間の技術格差を埋め、安定した接続を実現
- 国際組織の事務局、連携
アジア太平洋地区における遠隔医療教育の中心的存在
- 領域横断的セミナーの定期開催
国際的な人的ネットワークの構築を促進

国際診療支援センター

①海外の外国人②海外の日本人③国内の外国人、と定義する「国際患者」に対して、日本の先進的医療を適正かつ迅速に提供し、アジアにおける先進的医療拠点として、国際貢献を果たします。



国際患者の対応

【組織体制】

センター長(兼任)のもとに副センター長(兼任)、専任医師1名、通訳2名(英語1名、中国語1名)、事務員2名(兼任)を配置しています。

【業務内容】

- 言語支援活動(院内医療通訳者・通訳タブレット端末)
- 国立大学病院国際医療連携ネットワーク事務局活動
- 海外遠隔医療相談
- 宗教や異文化理解のための啓発活動
- 厚生労働省「外国人患者受け入れ環境整備事業の医療通訳拠点病院」活動
- 福岡県・市、医師会等の医療国際化活動との協働

【具体的な業務】

- 通訳・翻訳業務
- 国際患者統計
- 国際診療支援センターホームページからの国際患者受入れ相談
- 海外遠隔医療相談に係る業務
- 国際患者に係る研修の開催
- JMIP受審に係る業務
- マニュアル作成等医療安全に係る業務
- 海外患者コーディネート企業との連絡・調整

薬剤部

医薬品を専門に取り扱う部門として、安全で適正な薬物療法の実現と医薬品の適正使用の推進に努めており、質の高い薬剤業務の展開を目指し、日々努力しています。



部長 内田まよこ



薬剤師外来

【運営体制】

業務係、調剤係、病棟係、TDM・院内製剤係、注射剤係、薬品情報係、治験薬管理係の7部署が、相互に連携しながら薬物療法の有効性と安全性の確保に取り組んでいます。さらに、医療安全、感染制御、栄養サポート、緩和ケアなど、院内のさまざまなチーム医療にも積極的に参画し、臨床における活動の幅を広げています。

【運営方針】

専門的な知識と技術を駆使して薬剤の適正使用を推進し、患者中心の良質で安全な医療の提供に貢献することを理念とし、以下の7つの基本方針を掲げています。

1. 患者中心の医療の実践
2. 医療チームとの協働
3. 高度先進医療の開発への貢献
4. 地域医療への貢献
5. 薬物療法における専門性の向上
6. 薬学研究の推進
7. 病院経営への貢献

【特色】

- 1) 病棟では薬物療法の有効性と安全性向上に資する薬剤関連業務を展開し、全国トップクラスの実績を上げています。
- 2) 抗がん薬の調製は業務効率化の一環として調製ロボットを導入しています。さらに、がん領域では薬剤師外来を展開し、保険薬

局と連携して外来がん化学療法の質の向上に取り組んでいます。

- 3) がん、感染制御、精神科薬物療法、妊婦・授乳婦薬物療法などの認定資格を持つ薬剤師が多数在籍し、病棟のほか、医療安全管理部、グローバル感染症センター、入院・周術期支援センターにも薬剤師が常駐しています。

- 4) 薬学研究院の協力講座として「臨床薬物治療学」を主宰し、日常診療における医薬品の適正使用を目指して、基礎・臨床・データサイエンスなど様々な手法を用いて幅広い研究を行っています。

【教育】

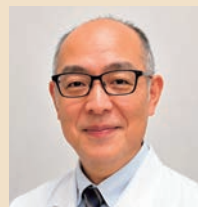
ラダーを軸とした人材育成・教育プログラムを導入し、行動目標や技術チェックシートを用いた多角的な評価により各段階の役割の明確化を図ることで、薬剤師が自身の立ち位置と今後の目標を明確にし、キャリアアップに取り組める環境を整備しています。また、薬剤師の職能や専門性の向上を目的として、他病院の薬剤師や保険薬局薬剤師の研修も受け入れています。さらに、研修医を対象とした処方オーダー研修や、医学部・歯学部学生への処方学教育に加え、薬学部学生に対する実務実習や講義にも積極的に取り組んでいます。

【学会施設認定】

日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師制度/がん専門薬剤師制度/薬物療法専門薬剤師制度/日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業/妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修/日本臨床薬理学会認定薬剤師制度 等

医療技術部

医療技術部は、医療技術職員の適正配置と専門性の向上を通じて、安全で質の高い医療の提供と患者サービスの向上を推進する組織です。12職種の医療技術職員が、それぞれの専門的知識・技術を活かし、多職種と連携しながら、チーム医療の一員として高度先進医療を支えるとともに、次世代の医療人育成にも取り組んでいます。



部長 加藤豊幸



ICUでの多職種回診

【運営体制】

大学病院における高度先進医療を医療技術の面から支援するため、12職種約320名の医療技術職員（臨床検査技師、衛生検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、公認心理師、精神保健福祉士、臨床工学技士、歯科衛生士、歯科技工士）が所属しています。

医療技術部は、臨床検査部門、放射線部門、リハビリ部門、臨床工学部門、歯科部門の5部門で構成され、医療技術の向上と全人的医療人の育成を推進しています。

■運営委員会・運営小委員会：運営方針や年度計画の審議、労務管理、人材マネジメント等を行っています。

■5つのワーキンググループ：各部門からメンバーを選出し、教育研修、業務改善、医療安全、患者サービス向上、広報活動等に取り組んでいます。

- 1) 教育担当WG：教育・研修の企画
- 2) グランドラウンドWG：研修会の運営、学術集会の企画・運営
- 3) 医療安全WG：医療安全に関する活動、研修会の開催
- 4) 患者サービス向上WG：患者サービス向上に関する活動
- 5) 広報担当WG：ホームページの管理・更新、概況書の作成

【運営方針】

1. 安心・安全で質の高い医療の提供
2. エビデンスに基づく医療技術の推進
3. 多職種連携によるチーム医療の充実
4. 部員が自信と誇りを持って活躍できる環境づくり

【業務内容】

中央診療施設長や各診療科長と密接に連携し、以下の診療業務を担っ

ています。また、救命救急センター、ハートセンター、ブレインセンター等においても、組織横断的なチーム医療を展開しています。

■臨床検査部門：検査部、病理診断科・病理部、遺伝子・細胞療法部等における各種臨床検査データの提供

■放射線部門：放射線・超音波・磁気共鳴機器等を用いた画像検査および放射線治療

■リハビリ部門：早期社会復帰を目指した機能回復支援ならびに各種検査・治療

■臨床工学部門：生命維持管理装置を用いた診療支援およびME機器の安全管理・集中管理

■歯科部門：歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上、歯科技工物の製作・修理

【特色】

■各職種が専門的知識・技術を発揮し、多職種と連携しながら質の高い医療の提供に貢献しています。

■12の国家資格職種で構成されており、専門性の向上に加え、全職種共通の社会人教育・医療人教育を通じた人材育成を行っています。

■高度な医療技術の実践に向け、認定資格の取得や学術活動を積極的に推進しています。

【教育】

九州大学医学部保健学科（臨床検査・診療放射線）をはじめ、他大学や専門学校から各職種の臨床実習生を受け入れ、次世代の医療人育成に取り組んでいます。また、医学生や看護学生に対する病院実習を実施するとともに、各職種の専門性を活かし、医師、看護師、事務職員等を対象とした院内教育・研修にも参画しています。

看護部

看護部は高度かつ先駆的な医療を担う医療チームの一員として、看護の専門性を発揮し、患者・家族や多職種からなる医療チーム、そして地域から信頼されるより質の高い看護の提供を目指しています。



部長 江口恭世



パートナーシップ・ナーシングシステム(PNS)

【運営体制】

総務、業務、教育、質、経営・企画、医療安全・法務を担当する6名の副看護部長、40名の看護師長、100名の副看護師長およびスタッフ、看護助手の計1,300余名の看護要員を擁し、35の病棟をはじめ手術部、外来、検査部門、ARO次世代医療センターなど、合計42の看護単位を数える部署で看護を行っています。多部門と連携を図り質の高い医療・看護が提供できるように努力を重ねています。

【運営方針】

看護部の理念と基本方針

私たちは、人間性を尊重し、患者さんに信頼される質の高い看護を提供します。

1. 安全で安心な看護の提供
2. 専門職として豊かな人間性と高度な専門的知識・技術を持ち、自己研鑽に努める看護職員の育成
3. 情報技術を活用した看護の質向上
4. 多部門と協働したチーム医療の促進
5. 看護・教育・研究を通じた地域医療への貢献
6. 積極的な病院経営への参画

2026年度看護部は、①安全で質の高い看護の提供②地域貢献・社会貢献に繋がる人材育成③看護の可視化、質向上への推進④病院経営への積極的な参画⑤接遇の向上⑥健康で安全な職場づくり⑦九州大学病院福岡地区・別府地区の協力体制づくりを目標として掲げ、やりがいをもって看護ができるよう日々努めています。

【特色】

1. 2008年から助産師外来、ストーマ看護外来、糖尿病フットケア外来、リンパ浮腫外来、腹膜透析外来、造血細胞移植後患者フォローアップ外来、糖尿病透析予防指導外来、がん看護外来の8つの看護専門外来を順次開設しています。外来での医療ニーズの高い患者さんに専門性を活かした高度な看護を提供しています。
2. 看護方式は安全で質の高い看護の提供と人材育成を目的としてパートナーシップナーシング・システム(PNS)を導入し看護を実践しています。この方式は、安全・安心な看護業務ができる体制や経験の浅い看護師の学びの場の構築に、効果を得ています。
3. 看護キャリアセンターと連携し、院内・外を含めた地域全体の看護の質向上に貢献することを目的に活動しています。
4. 専門看護師11名、認定看護師36名、院内認定看護師163名を擁し、多部門と連携した院内での組織横断的な活動や看護の専門性を発揮した質の高い医療・看護の提供に取り組んでいます。

【教育】

看護部キャリアパスに基づき、九大版クリニカルラダーを基盤にした13分野86コースの看護職員教育プログラムを実施しています。また、新人看護職員にはプリセプターシップを取り入れ、育成を重点的に行っています。e-ラーニング、キャリアナビゲーションシステムなどを活用し、自らが学ぶ環境を整え、自立を支援しています。教育プログラムの開発や教育体制を整備し、その一部を公開するとともに地域医療を支える看護職の教育・研修に携わっています。

事務部

事務部では、患者さんの外来受診や入院受付、医療安全管理や感染予防対策、病院経営や医薬品などの購入・施設設備の維持管理、さらに職員の人事や労務管理など、さまざまな業務を行っています。



入院受付

【総務課】

病院運営に関する業務、職員の人事、臨床教育研修関係や広報関係業務、国際化推進などに関する事務を行っています。

【経営企画課】

適正な病院経営を行うための予算執行管理、経営分析、会計帳票の照査などに関する事務を行っています。

【医療管理課】

医療関係法令に基づく諸手続、医療安全管理、院内感染予防、病院情報システム、診療録管理などに関する事務を行っています。

【研究支援課】

産学官連携、研究・診療活動の倫理審査、臨床研究契約、外部資金の受け入れなどの研究支援に関する事務を行っています。

【経理課】

医薬品や医療装置など物品の購入、建物の維持管理などに関する事務を行っています。

【患者サービス課】

外来受診受付・入院および退院手続き、社会福祉・公費医療などの相談、先進医療・臓器移植に関する事務、診療報酬の算定・請求・収納、医療機関との連携に関する業務を行っています。



診療科紹介

■ 診療科 医科部門

■ 診療科 歯科部門

■ 中央診療施設等

■ 院内診療支援施設等

■ 別府病院

小児医療センター

小児医療に特化した医療スタッフと内科系・外科系の小児病棟を集約的に配置し、小児医療の質と患者さんご家族の生活の質(QOL)の向上のみならず、ハード・ソフト両面にわたる医療資源の効率的運用を目的として、2006年3月に北棟6階に開設されました。



小児医療センター外来



どうぶつランド

【得意分野】

小児科、小児外科・成育外科・小腸移植外科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科を中心に、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科、精神科神経科、救命救急センター、集中治療部などの関連各科が診療科の垣根を越えて、小児への集学的医療を提供しています。九州沖縄地区唯一の小児がん拠点病院として、小児がんに対する新規治療法の導入や治験への参加も積極的に行っています。また、2020年5月に小児心臓移植実施医療機関に認定されています。

【診療体制】

病棟は北棟6階で、小児科36床、小児外科・成育外科・小腸移植外科16床、共通病床22床の計74床です。

外来は北棟5階で、小児科、小児外科・成育外科・小腸移植外科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科、矯正歯科の専門医が担当します。移植後フォローアップ外来、トランジショナルケア外来、在宅自己注射指導外来、小児漢方外来および小児AYA世代がんフォローアップ外来を設置しています。また、小児救命救急センターに小児科医、小児外科医が常駐し、小児の急患に24時間体制で対応しています。

【診療方針】

子どもたちにとってもっとも適切な医療を提供できるように、多職種による医療チームの連携と和を大切にしています。プレイルーム、中庭の設置、院内学級の併設、小児看護専門看護師、病棟保育士や子ども療養支援士の配置など、患者さんとそのご家族のQOLの向上と心理面のサポートに努めています。また季節ごとにボランティアを中心に、年中行事も開催しています。

【対象疾患】

小児の疾患すべて。

【主な検査、治療】

各科横断的な治療を提供しています。造血幹細胞移植、心臓カテーテル治療、子どものこころと発達診療、脳機能検査、内分泌負荷試験、小児臓器移植(肝臓・小腸・心臓)、小児の低侵襲手術(腹腔鏡・胸腔鏡手術)、小児がんに対する集学的治療、短腸症候群や腸管ぜん動不全の治療、全身麻酔下での一括歯科治療など、専門性の高い医学・医療を提供しています。

【学会施設認定】

関連各科(小児科、小児外科・成育外科・小腸移植外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科、精神科神経科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科)の項、参照

ハートセンター

ハートセンターは、心臓カテーテル検査室、心臓超音波検査室、冠動脈疾患治療部(CCU)、手術室、集中治療部(ICU)、内科・外科病棟を機能的に集約した心臓血管専門施設です。九州大病院は九州唯一の心臓移植実施施設であり、内科・外科が連携してあらゆる重症心疾患の治療にあたっています。また、小児に特化した医療スタッフと内科系・外科系の小児病棟を集約的に配置し医療の向上、ならびに患者さん・ご家族の生活の質(QOL)の向上を目指します。



ハートセンター 正面

【得意分野】

■内科部門

循環器内科、血液・腫瘍・心血管内科、小児科の3科が、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈、心不全、大動脈や末梢動脈疾患、弁膜症などの構造的な疾患、肺高血圧症や先天性心疾患といった、広範囲の循環器疾患に対して、高度で専門的な診療を行っています。主な検査・治療として、年間約16,000件の心エコー・血管エコー検査のほか、約1,700件の心臓カテーテル検査、約400件の冠動脈/末梢血管・構造的な疾患のインターベンション、約400件の不整脈に対するカテーテルアブレーションなどの実績を誇っています。外科部門や多職種で協働して弁膜症に対するカテーテル治療や重症心不全に対する補助人工心臓や心臓移植治療、肺高血圧症に対するカテーテルや手術療法、日本で屈指の心臓リハビリテーション治療など、あらゆる循環器疾患に対して先進的かつ高度な治療・管理を実践しており、九州にとどまらずわが国における循環器疾患の「Center of Center」を目指しています。

■外科部門

年間約700例の手術(うち心臓・大血管手術約500例以上:24時間急患対応)。冠動脈バイパス手術や弁膜症手術(経カテーテルの大動脈弁置換術を含む)、大動脈瘤に対する手術(人工血管置換術やステントグラフト手術)、未熟児を含めた新生児から成人期にわたる全ての手術に対応しています。九州唯一の心臓移植実施施設として成人および小児の重症心不全に対する補助人工心臓植込み手術から心臓移植までの全ての治療過程を行っています。低侵襲手術(小切開手術やロボット手術)にも積極的に取り組んでいます。

【診療体制】

スタッフは医師58名、看護師55名です。病床数は66床で、冠動脈疾患治療部の10床と合わせると76床です。心臓カテーテル検査室、心エコー検査室、手術室、ICU/CCU、外来が同じフロアに配置され、迅速な診断、治療の提供が可能です。ハートセンターは内科部門、外科部門それぞれホットラインを備え、24時間対応を行っています。

ホットライン:

内科(循環器内科) 外来予約関連:080-3213-3068(外来主任直通)、急患受入相談:092-642-5368、5877から内線2200(病棟医長・当直医直通)
内科(血液・腫瘍・心血管内科) 急患依頼 080-3213-2964、夜勤帯は092-642-5368、5877から内線2200

小児科:外来 092-642-5425、病棟 092-642-5427

外科 ①080-3213-2833 ②病棟 092-642-5563、5564から内線2295。

【診療方針】

患者さんの視点に立つことを一番に考え、本人とご家族に最善の医療を提供することを目指します。重症心不全、虚血性心疾患、弁膜症疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、不整脈などの循環器疾患に対する先端医療を実践し、肺高血圧症や複雑な合併症のある難治性循環器疾患などの九州の拠点病院としての役割を果たすべく、努力を続けています。

【対象疾患】

虚血性心疾患、弁膜症疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、不整脈、心不全、心筋症、肺高血圧症

【主な治療】

循環器内科、冠動脈疾患治療部、血液・腫瘍・心血管内科、小児科、心臓血管外科の項、参照

ブレインセンター

脳神経内科、精神科神経科、心療内科、脳神経外科、小児科、腎・高血圧・脳血管内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科と検査部が協力して脳・神経疾患の総合的な診断を行っています。認知症や難病の相談や環境整備の拠点としての役割も果たしています。



神経伝導検査



運動誘発電位検査

【得意分野】

認知機能障害、運動障害、感覚障害をきたす疾患の診断と機能評価に必要な、さまざまな検査を行います。認知症やてんかん、神経難病の診断と、診断後の治療方針の決定や療養環境の整備を行います。

【診療体制】

日本神経学会認定神経内科専門医、日本臨床神経生理学会認定医、日本認知症学会専門医、日本てんかん学会専門医、日本精神神経学会専門医などが専門的な検査・診療にあたっています。臨床心理士が高次脳機能検査や難病心理相談にあたっています。認知症疾患医療センターでの認知症専門外来を行っています。難病相談支援センターでは難病患者さんや小児慢性特定疾病患児とご家族の相談支援、難病ネットワークの拠点病院としての療養環境整備に取り組んでいます。未診断・未指定難病相談支援センターでは、難病を疑われながら診断がついていない患者さんやご家族などのための相談窓口として早期に正しい診断が受けられるよう支援しています。また、2023年1月より、てんかん支援拠点病院の相談窓口も設置しています。

【診療方針】

専門知識をもつ医師が診断や機能評価のために必要な検査を選択し、患者さんの負担が少なくなるよう心がけています。認知

症や難病の診断・治療はさまざまな分野の医師が話し合いながら行います。療養方針は、医師だけでなく看護・行政側と相談して、よりよい療養環境となるようにしています。

【対象疾患】

神経変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病、レヴィー小体病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など）、免疫性神経疾患（多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、重症筋無力症、筋炎など）、脳血管障害、末梢神経障害、自律神経障害、てんかん、その他（筋ジストロフィー、脊椎疾患、うつ病、心身症など）

【主な検査】

神経伝導検査、針筋電図検査（単線維筋電図含む）、誘発電位検査（体性感覚、視覚）、磁気刺激による運動誘発電位検査、脳波検査、頸部血管エコー検査、定量的発汗機能検査、ヘッドアップティルト検査、神経心理検査（認知機能、高次脳機能、うつ病の検査など）、電流知覚閾値検査

【学会施設認定】

関連各科（脳神経内科、精神科神経科、心療内科、脳神経外科、小児科、腎・高血圧・脳血管内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、検査部）の項、参照

小児救命救急センター

小児救命救急センターは院内各科と連携し、重篤な小児の救急患者さんの診療を24時間体制で行っています。



重篤な小児患者さんの診察の様子

【得意分野】

当センターは、事故やけいれんなどで、直接救急搬送されるお子さんはもちろん、肺炎などで当初は他の病院で診療を受けていたものの状態が快方に向かわず、本院へ転院搬送されるお子さんにも対応しています。福岡市周辺はもちろん、九州北部（福岡・佐賀・長崎・大分・熊本）や山口地域などから転院される方もいます。病気や事故にかかわらず、すべての重症な小児の救急患者さんに対応します。

このような重症のお子さんが入院する小児集中治療室（PICU）では、小児のさまざまな体格に合ったチューブ、カテーテル、輸液ポンプなどを装備し、小児特有の病態に合った集学的な集中治療を行います。

【診療体制】

9名の小児担当スタッフ（小児科医8名、小児外科医1名）が、救命救急センター・集中治療部の成人担当スタッフと連携して診療を行っています。

【診療方針】

当センターでは、専門性をもった他の診療科の医師や看護スタッフ、臨床工学技士などが綿密に連携・協力し、北部九州地域の小児救急医療における「最後の砦」として、適切な治療を適切

なタイミングで行うことができるよう、努めています。突然の入院・転院となった子どもたちのストレスができるだけ少なく、また、ご家族、医療者も安心できる小児救急医療を提供しています。また、状態が安定したら、本院の小児病棟や地域の病院で引き続き治療が継続できるよう、院内外の施設と連携しています。

【対象疾患】

集中治療が必要となる小児救急疾患

- 内因性疾患：呼吸器疾患（重症呼吸不全、急性肺炎、急性気管支炎）、神経疾患（急性脳炎・脳症、けいれん重積）、循環器疾患（劇症型心筋炎、先天性心疾患）、重症肝不全、急性腎不全など
- 外因性疾患：重症外傷、頭部外傷、多発外傷、溺水、熱傷、窒息、中毒など
- 心肺停止・虐待

【主な治療法】

人工呼吸、緊急血液透析、血漿交換、脳低温療法、体外補助循環（ECMO）など、専門部署と連携し、生命に直結するような病態に対し、全身管理を行っています。

周術期口腔ケアセンター

円滑な周術期の治療・管理を目的として、全身麻酔で手術を受ける患者さんや化学療法、放射線治療を受ける患者さんに対し、治療開始前から専門的な口腔ケアを行い、口腔内の細菌や疾患が原因となる合併症を予防します。



診療風景

【得意分野】

医科の手術や治療の前後に口腔診査を行い、口腔からの細菌感染の予防や口腔機能の管理、さらには治療の妨げになるような口腔疾患の治療を行います。また、疾患のためブラッシングやうがいをすることが難しい患者さんの口腔ケアサポートも行います。

- 1) 口腔内感染源の除去: 専門スタッフ(歯科医師および歯科衛生士)による徹底的な歯垢・歯石除去、口腔粘膜の清掃、ブラッシング・保湿・うがい指導など
- 2) 薬の副作用などによる口腔粘膜炎症の治療・ケア
- 3) 動揺歯の固定: 全身麻酔のチューブ挿入時などに起こる歯の脱落を予防
- 4) 一般歯科治療、口腔外科治療

【診療方針】

周術期とは、入院・手術・回復からなる治療前後を含めた一連の期間を意味します。この期間に口腔内が不潔だと、術後の肺炎や創部感染など多くの合併症が起こります。また、心臓血管外科手術時や造血幹細胞移植においては、歯周病や進行したう蝕は重篤な感染症のリスクになります。周術期口腔ケアセンターでは、このような合併症の予防を目的として、医科各科や入院退院・周術期支援センターと連携して、手術、化学療法や放射線治療、移植や心臓外科手術などの患者さんに対して外来・入院期間に感染源除去を目的とした口腔ケアや歯科治療を、高齢者歯科・全身管理歯科、口腔総合診療科を中心に歯科部門の全科が行います。退院後はかかりつけ歯科医、あるいはかかりつけ歯科医がない場合は地域の歯科医院や病院を紹介し、連携を取ります。

【対象疾患】

歯周病、う蝕、放射線・化学療法による口腔粘膜障害、口腔乾燥、義歯および冠の不適合など口腔内の疾患、摂食・嚥下障害、口腔衛生状態が不良で誤嚥性肺炎のリスクが高い患者

【主な検査】

- 口腔衛生状態診査: 衛生状態を診査し、口腔清掃指導を行います。
- X線検査: 歯の状態を調べ、医科治療を円滑に行えるようにします。
- 歯周組織検査: 歯の動揺、歯周ポケットの深さを診査します。
- 義歯の診査: 義歯の状態を評価し、必要な場合は修理などを行います。
- 口腔機能検査: 咀嚼機能、咬合力、唾液量、舌や口唇の運動機能、嚥下機能などの評価を行います。

【主な治療法】

- 口腔内衛生指導(ブラッシング、粘膜の清掃、うがい、保湿)
- 歯周基本治療(歯石除去)
- 歯科治療(う蝕治療や抜歯などによる感染源の除去)
- 動揺歯の固定・保護(マウスプロテクタの製作)
- 口腔ケア(歯、舌、粘膜)と口腔リハビリテーション
- 退院後支援(地域の歯科医院や病院を紹介します)

【学会施設認定】

日本口腔ケア学会、日本口腔衛生学会

再生歯科・インプラントセンター

歯科インプラント治療やそれに伴う組織再生などの診療を行い、顎口腔外科、顔面口腔外科、義歯補綴科、咬合補綴科、歯科麻酔科、口腔画像診断科などの各領域の専門家が連携しながら、チームアプローチを行っています。



手術風景

【得意分野】

う蝕、歯周病、外傷などによる歯の欠損、歯周病による重度の歯槽骨吸収症例を対象に、歯科インプラント治療、骨移植や上顎洞底挙上術といったさまざまな治療に取り組んでいます。

【診療体制】

日本口腔インプラント学会、日本補綴歯科学会、日本口腔外科学会の指導医・専門医を中心に、他の歯科領域の専門家とも連携し、インプラントや再生治療などの診療にあたっています。

【診療方針】

患者さんの口腔内状況に合わせて十分なインフォームドコンセントを行い、最適な治療法を選択しています。それぞれの患者さんに対して、主に、義歯補綴科、咬合補綴科、顎口腔外科、顔面口腔外科の専門家が十分にディスカッションを行い、チームアプローチで診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

う蝕、歯周病、外傷、腫瘍切除による歯の欠損症例、重度の歯槽骨吸収や歯周病症例などを対象に治療を行っています。

【主な検査】

X線およびCT検査、咀嚼機能検査

【主な治療】

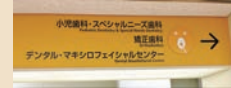
- 歯の欠損: 歯科インプラント埋入術、ナビゲーションシステムによるガイドサージェリーを用いたインプラント手術、インプラント上部構造(冠・義歯)製作など
- 歯槽骨吸収: 骨移植、骨誘導再生法、サイナスリフトやソケットリフトによる上顎洞底挙上術、スプリットクレストや仮骨延長法による骨増成術など
- インプラント周囲炎: 洗浄、薬物療法、外科的対応による感染源の除去、罹患したインプラントの撤去やその後の骨造成術、再埋入など

【学会施設認定】

日本口腔インプラント学会、日本補綴歯科学会、日本口腔外科学会

デンタル・マキシロフェイシャルセンター

口唇・口蓋裂をはじめとするさまざまな口腔先天異常の一貫治療、顎変形症に対する顎矯正治療、障がいがある成人の歯科治療を行うための専門歯科施設です。これらの疾患にかかわる先進的な治療法の開発も行っています。



診療風景

【得意分野】

口唇・口蓋裂をはじめとする多様な口腔先天異常に対しては、出生前相談、哺乳床または術前顎矯正装置装着、口唇形成術（一次）、口蓋形成術（一次）、言語治療、矯正治療、顎裂部骨移植術、口唇・外鼻形成術（二次）、口蓋形成術（二次）など、成長時期に応じて必要とされる多角的な治療を一定のプロトコルに沿って組み合わせて実施する、一貫治療を行っています。特定機能病院の特性を活かして、他部位に合併する各種の先天異常をもつ症例にも対応しています。

顎変形症に対しては矯正歯科治療と顎矯正手術により、咬合をはじめとして、顎運動、発音、睡眠など口腔諸機能の回復を図っています。他施設では対応が難しい骨延長術や顎関節の手術にも対応しています。

障がいがある成人の歯科治療は、外来または入院下の鎮静や全身麻酔下の治療を行っています。

【診療方針】

顔面口腔外科、顎口腔外科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科、矯正歯科が中心となって連携・協力し、系統的に診療する、チーム医療を原則としています。患者さんの状態を診査し、種々の検査の後に担当各科の専門家がカンファレンスで十分に協議し、綿密な治療計画を作成します。治療計画にはCTなどから作製し

た3次元画像および実体モデルによる手術シミュレーションを取り入れています。また、必要な症例には先端医工学診療部と連携して手術ナビゲーションを行っています。

必要に応じて小児科、耳鼻咽喉科、形成外科などの医科部門関係各科と円滑に連携を行いながら治療を進めています。

治療方針策定後、十分なインフォームド Consentのもとに、最適と考えられる治療をチームで実施します。

【対象疾患】

1. 口唇・口蓋裂をはじめとする口腔顎顔面先天異常
2. 顎変形症
3. 障がいがある成人の歯科疾患

【主な治療法】

1. 術前顎矯正装置装着、口唇形成術（一次）、口蓋形成術（一次）、言語治療、矯正歯科治療、顎裂部骨移植術、口唇・外鼻形成術（二次）、口蓋形成術（二次）など
2. 術前・術後矯正歯科治療、下顎骨形成術、上顎骨形成術、骨延長術、顎関節形成術
3. 全身麻酔下あるいは鎮静化での触処置など

ECMOセンター

ECMO（エクモ）とはExtraCorporeal Membrane Oxygenationの略で、心臓機能と肺機能を代替する体外循環装置です。近年では、補助循環用ポンプカテーテル（インペラ）による循環補助も加わり、ECMOセンターはMCS（Mechanical Circulatory Support）センターへと発展しています。



ECMO治療

【得意分野】

成人・小児を問わず、重症循環不全・重症呼吸不全を対象とし、心臓と肺の両方を補助することができるV-A ECMO、肺の補助のみを行うV-V ECMOを使用しています。また本院は、補助循環用ポンプカテーテル（インペラ）の実施設です。これらの組み合わせにより、診療科の垣根を越えて、さまざまな疾患に対応しています。

■成人ECMO治療

成人ECMOの適応疾患は多岐にわたり、重症循環不全（急性心筋梗塞、劇症型心筋炎、心臓手術後など）、重症呼吸不全（肺炎、ARDS：急性呼吸窮迫症候群）、さまざまな手術での術中補助などでECMOを使用しています。成人ECMO症例は年々増加傾向にあります。

■小児ECMO治療

体格や年齢（月齢）を問わず、心臓手術後、先天性横隔膜ヘルニア、劇症型心筋炎、重症呼吸不全（新生児遷延性肺高血圧）などでECMOを使用しています。小児ECMO治療を集学的に行える施設は、九州では本院以外になく、九州全域から広く患者さんを受け入れています。小児ECMO症例数は、年々増加しています。

■より高度な機械的循環補助・呼吸補助

ECMO治療は、末梢ECMO（大腿部や頸部から）を行うことが一般的ですが、循環・呼吸の状態や他臓器（肝臓、腎臓）の状態により必要に応じてセントラルECMO（開胸下）へ移行することで、より高い救命率を得ています。また、近年は補助循環用ポンプカ

テーテル（インペラ）を組み合わせることで、より効果的な治療を行うことができるようになりました。ECMO治療は、通常1～2週間での回復・ECMO離脱を目標にしていますが、本院は九州随一の重症心不全センターとして、回復が困難な心不全の患者さんに対しては、体外式または植込型の補助人工心臓治療や心臓移植治療を提供することも可能です。

【診療体制】

ECMOセンターのメンバーは、心臓血管外科、循環器内科、小児科、小児外科などの専門診療科医師と集中治療部医師に加え、ICU・CCU看護師、臨床工学技士、薬剤師などのメディカルプロフェッショナルスタッフによって構成されています。ECMO治療は循環・呼吸に対する集中治療を必要とするため、ICU・CCUで実施されます。ECMOセンターの開設により、より迅速な診断と治療開始をシームレスに提供できるようになりました。また、すでに他院でECMO治療を行われている患者さんを常時、受入可能な体制を整えています。ECMOセンタースタッフが日夜担当科医師などと治療方針を話し合いながら、適切な治療を提供しています。

【診療方針】

患者さんの視点に立つことを一番に考え、本人とご家族に、最善の医療を提供することを目指しています。重症循環不全・呼吸不全に対するECMO治療を実践し、九州での拠点病院としての役割を果たすべく、日々診療を行っています。

集学的痛みセンター

痛みは日本国民の愁訴で最も多いものです。痛みに伴う機能障害をこじらせると治療が困難になるため、厚生労働省は集学的な治療を推進しており、生きる喜びを再び実感できるようにサポートする医療を目指して、本院に集学的痛みセンターが設立されました。



痛みに対する集学的診療体制

【得意分野】

痛みをきたすさまざまな疾患に対する生物心理社会的観点での多面的な病態評価とそれにもとづく集学的治療を行っています。本院各科の専門家と協力し、全国各地から紹介された慢性疼痛難治例に対して心身医療を行い、QOLを向上させた治療経験の蓄積があります。

【診療体制】

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・公認心理師などの多職種で構成され、各専門分野を研鑽しながら定期的な集学的カンファレンスを行い、個々の患者さんに対して複数の担当者が情報交換し、多面的観点からオーダーメイドの医療を実践しています。

【診療方針】

社会生活においては、現在の環境や身体状況だけでなく、個人の独特な考え方(認知)・幼少期からの生育歴に影響された感情の持ち方や行動パターンにより、痛みに対する対処が決定し、痛みが軽減するか、悪化するかが決まってきます。これらの観点で医学的病態を分析し対策を練り、患者さんに寄り添った診療を行っています。

【対象疾患】

多くの病気やストレスを契機に発症し、適切な医療を受けても3か月以上続く痛みや、原因がはっきりしない痛みに苦しんでいる方

【主な検査】

各種自記式質問紙、心理検査、活動量計、可動域制限に関する評価、サーモグラフィ、自律神経機能検査、定量的感覚検査(QST)

【主な治療】

病態とそのステージに沿った薬物療法、運動療法、理学療法、作業療法、各種神経ブロック(高周波熱凝固法、パルス高周波法など)、脊髄刺激療法、経皮的髄核摘出術、神経剥離術(スプリングコイルカテーテル)、自律訓練法、心理カウンセリング、認知行動療法、マインドフルネス、アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)、芸術療法、箱庭療法、精神療法など。

【学会施設認定】

日本運動器疼痛学会(いきいきリハビリノート使用施設)

脳卒中センター

腎・高血圧・脳血管内科、脳神経内科、脳神経外科、救命救急センターなどが協力して脳卒中の専門診療を行っています。通常の脳卒中だけでなく、治療困難な脳卒中症例を各地から受け入れ、福岡県だけでなく九州・山口の拠点病院としての役割を果たしています。



病棟回診



カテーテル治療

【得意分野】

脳梗塞に対する血栓溶解療法や血栓回収療法、また脳出血やくも膜下出血に対する手術治療など、さまざまな脳卒中疾患に対する急性期治療を行っています。また、大学病院の充実した設備・人員を活かし、巨大動脈瘤や複雑な脳血管奇形、また多疾患合併症例などの治療難易度の高い脳卒中に対しても近隣の病院から患者さんを多数受け入れ、最新の治療を行っています。

【診療体制】

救命救急センター、内科、外科、放射線科などそれぞれの分野の専門家が協力して、脳卒中疾患の迅速な診断・治療を行っています。カテーテル検査室や手術室も24時間365日対応しています。多数の脳卒中専門医・指導医が在籍し、さらに複数の脳卒中の外科認定・指導医、脳神経血管内治療専門医・指導医が最先端の治療を行います。

【診療方針】

複数の分野の専門家が集まって必要な検査を迅速に行い、患者さんの状態を正確に診断して、適切かつ安全な治療方法を選択して迅速に治療しています。

【対象疾患】

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中疾患。また通常の治療が困難な巨大脳動脈瘤や血管奇形、そして頸動脈狭窄症、頭

蓋内動脈狭窄症など。

【主な検査】

CT(コンピューター断層撮影検査)、MRI(磁気共鳴画像検査)、超音波検査、カテーテル検査、SPECT(脳血流検査)、脳波検査など。

【主な治療】

- 血栓溶解療法、急性期抗血栓療法、抗脳浮腫療法、また呼吸循環動態や栄養などの全身管理など。
- カテーテル治療(脳梗塞に対する血栓回収療法、血管狭窄病変に対する血管形成術・ステント留置術、くも膜下出血に対する動脈瘤塞栓術、血管奇形に対する塞栓術など)
- 手術治療(脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術、高流量・低流量バイパス併用手術、脳出血に対する開頭・内視鏡血腫除去術、頸動脈内膜剥離術など)
- 脳卒中急性期リハビリテーション
- 併存疾患の管理、再発予防(抗血栓薬、全身リスク管理、手術治療など)

【学会施設認定】

日本脳卒中学会認定研修教育病院、一次脳卒中センターコア施設、脳神経外科専門研修プログラム基幹施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設

糖尿病診療支援センター

糖尿病専門医、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの糖尿病診療のエキスパートが院内の各診療科と連携し、先進的かつ集学的な糖尿病診療を提供して、九州大学病院における高度先進医療を支援しています。



メンバー集合写真



糖尿病教室ノート



インスリンポンプと持続血糖測定器

【得意分野】

入院診療では多職種連携による糖尿病教育入院、持続血糖モニタリングやインスリンポンプなど先進的な医療機器を用いた血糖管理のほか、眼科、腎臓内科、循環器内科、脳血管内科、血管外科などの専門診療科との緊密な連携により、糖尿病の全身合併症の精査・治療を行っています。外来診療では腎症の悪化を防ぐため糖尿病透析予防指導外来に加えて、足のトラブルを早期に発見し、重症化を予防するための糖尿病フットケア外来も設置し、多職種連携による糖尿病患者の療養支援を推進しています。また、しばしば治療に難渋する高度肥満症合併糖尿病については、内分泌代謝・糖尿病内科による薬物療法、心療内科による認知行動療法、減量・代謝改善手術などチーム医療による集学的治療を行っています。小児科は福岡市の学校腎臓・糖尿検診、生活習慣病健診の精査医療機関であり、糖尿病専門医、内分泌代謝科(小児科)専門医、臨床遺伝専門医が診療しています。小児に対する持続血糖モニタリング、インスリンポンプの導入、カーボカウントを含む食事指導も可能です。また、心療内科医による心理カウンセリングや歯周病科医による歯科治療や口腔ケアも行っています。さらに、持続血糖モニタリング機器と電子カルテとの連携をはじめ、全国の大学病院に先駆けた先進的な取り組みに加え、医療安全管理のための院内共通の血糖管理指針の策定も推進しています。

【診療体制】

九州大学病院に在籍する30人を超える糖尿病専門医をはじめ、歯科医師、糖尿病療養指導士の資格をもつ看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などの多職種の医療スタッフにより構成され、分野横断的な診療、集学的治療や高度先進医療を推進しています。

【診療方針】

手術や高度先進医療を受ける糖尿病患者の血糖管理や、全身合併症の管理など診療科横断的な診療を支援しています。新しい糖尿病治療薬や最新のテクノロジーを用いた診療機器による糖尿病治療法の開発・推進にも取り組んでいます。

【対象疾患】

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、薬剤性糖尿病、内分泌疾患に伴う糖尿病、膵外分泌疾患や肝疾患に伴う糖尿病、移植後糖尿病、遺伝子異常に伴う糖尿病

【主な検査】

持続血糖モニタリング、インスリン分泌能検査、血中ケトン迅速測定、神経伝導速度検査、精密振動覚閾値検査、自律神経機能検査、眼底写真検査、網膜電位図検査(ERG)、動脈硬化検査(PWV、CAVI、ABI)、血管内皮機能検査(Endo-PAT)、精密体組成測定、内臓脂肪面積測定、肝硬度・脂肪量測定、骨密度・骨質測定、遺伝子検査、口腔内診査、歯周病検査(歯周組織検査やX線写真撮影)など。

【主な治療】

食事療法、運動療法、薬物療法(経口薬、インスリンポンプ療法を含む注射療法)、心療内科医による心理カウンセリング、歯周病科医による口腔ケア、糖尿病透析予防指導外来、糖尿病フットケア外来など。

【学会施設認定】

日本糖尿病学会認定教育施設、日本専門医機構 内分泌代謝・糖尿病内科領域研修施設

移植医療センター



症例数、技術レベルともに国内トップクラスである当院の移植医療を円滑に進めるとともに、移植医療の提供に必要な「人材育成」「地域連携」「コーディネート支援」の中心的役割を果たします。また、九州における多臓器移植対応施設の実現を目指しております。

【運営体制】

センター長、領域長を中心として、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、医師事務作業補助者、事務職員により構成しています。

【運営方針】

集学的診療体制のもと、当院の移植医療の円滑な運営管理を行うとともに、地域の臓器提供体制の構築を行います。

【運営領域】

- (1) 心臓移植領域
- (2) 肝臓移植領域
- (3) 膵臓移植領域
- (4) 腎臓移植領域
- (5) 小児肝・小腸移植領域
- (6) 造血幹細胞移植領域
- (7) 角膜移植領域



MEセンター

MEセンターでは、生命維持管理装置の操作と保守点検を行い、医師や看護師、メディカルスタッフらと共に患者さんの治療をサポートしています。またさまざまなME機器の一元管理を行い、ME機器の効率運用を図っています。



ロボット手術の管理・操作



人工心肺装置の操作

【運営方針】

生命維持管理装置の操作、医療機器の点検。

MEセンターは、令和8年4月現在、31名（うち1名は別府病院）の臨床工学技士が運営を行っています。ME機器の貸し出しや臨床技術支援の依頼は365日24時間体制で対応しています。

【業務内容】

臨床技術支援として、人工心肺、人工呼吸器、ECMO装置、血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作と安全管理をしています。また輸液ポンプ、シリンジポンプ、バイタルサインモニターなどの各種ME機器の中央管理を行い、機器の効率的かつ安全な運用を図っています。

【特色】

臨床工学技士を特定の部門に固定せず、各部門に派遣して業務を行うことでマンパワーの有効利用を図っています。業務範囲は手術部、救命救急センター、集中治療部、腎疾患治療部、光学医療診療部、ハートセンター、総合周産期母子医療センターなどの中央診療部門を中心に、各診療科病棟、外来を含め病院全体を対象としています。

診療録管理室

診療録管理室では、電子カルテ、電子カルテ導入前の紙カルテ、電子カルテ導入後にも発生する同意書などの文書を管理しています。



カルテレビュー

【運営方針】

診療録を適切に保管、管理します。また、記録の監査を行い、診療録の精度向上を目指します。

【業務内容】

■診療録の監査業務

診療情報のすべてが記載される診療録は、診療報酬請求の根拠となるため、入院診療計画書や手術記録など診療録に記載すべき内容が適切に記載されているかを監査しています。

■文書の電子化業務、CD / DVD画像の入出力業務

診療で発生する同意書や他院からの診療情報提供書などの紙文書を電子化し、電子データを原本として管理しています。また、他院や本院で撮影された画像を電子カルテへ入出力しています。

■紙カルテの貸出業務

電子カルテ導入以前の外来診療録と入院診療録の貸出を行っています。

■医師事務作業補助者の業務管理

医師の業務負担軽減のため、保険会社診断書などの医療文書作成補助業務、NCD登録など医療の質向上に資するデータ入力補助業務の管理を行っています。

高度新規医療評価部

九州大学病院で初めて実施する高難度な手術や未承認薬などを使用する医療について、医療安全の観点から、審査する部門です。



部長 後 信



高度新規医療評価部会

【運営方針】

患者さんが安心して高度で先進的な医療を受けることができるように、高難度新規医療技術や未承認新規医薬品などを用いた医療の適正な提供を図ります。

【業務内容】

高度新規医療評価部は、「高難度新規医療技術評価部門」「未承認新規医薬品評価部門」「未承認新規医療機器評価部門」の3つの部門で構成されています。診療科からの高度新規医療提供の申請を受けて、まず諮問委員会である高難度新規医療技術審査委員会または臨床倫理委員会で、倫理的・科学的な妥当性及び適切な提供方法について審査を行い、その意見をもとに高度新規医療評価部で提供の適否などについて決定します。また、提供された高度新規医療について医療安全の観点から定期的に確認を行います。

【特色】

高度新規医療評価部は、本院で初めて実施される高難度な新規医療を、公平性と透明性をもって評価し、医療の質の確保と医療安全に寄与するように努めます。専門知識を有する診療情報管理士が配置されています。

栄養管理部

治療方針に適した食事を提供します。食事と栄養の最新情報を発信し、栄養面から健康と社会復帰を支援します。



栄養食事指導

【運営方針】

患者さんの病状と治療に適した食事を提供し、きめ細やかな栄養管理を行います。栄養サポートチーム(NST)、褥瘡、緩和、移植医療、がん治療、糖尿病、摂食嚥下などのチーム医療に参画し、食事と栄養面から患者さんを支援します。

【業務内容】

栄養評価により患者さんの疾患や栄養状態を把握し病態に合わせた栄養管理計画を作成します。他の医療スタッフと連携しながら最新の医療情報に基づく栄養療法を提供し、良好な栄養状態になるよう支援します。また、わかりやすく実生活に役立つ実践可能な食事指導を行っています。入院退院・周術期支援センターでは、入院前からの食事と栄養についてアドバイスをを行い、良好な栄養状態で治療が受けられるように支援しています。

【特色】

集団給食施設衛生管理マニュアルの衛生基準に基づき、毎食約900食を提供しています。約170種類の食種を設け、疾患や病状により栄養量の変更や食形態の調整を行うとともに、食物アレルギーや宗教に伴う禁止食品の除去などに対応しています。

造血幹細胞移植地域支援センター

造血幹細胞移植地域支援センターは、造血幹細胞移植を受けた、あるいは受ける予定の患者さんやご家族からの相談に加えて、移植患者さんの日常診療に携わる、血液を専門としない地域の先生方からの質問・要望に応えることを主な目的として設立されました。



造血幹細胞移植地域支援センター



移植コーディネーター中のスタッフ

【運営方針】

九州大学病院は厚生労働省から、九州ブロックの造血幹細胞移植推進拠点病院（拠点病院）に選定され、2020年度からの新事業でも引続きその任を担うこととなりました。他ブロックの拠点病院や地域拠点病院とも連携を図りながら、1)人材育成事業 2)コーディネート支援事業 3)地域連携事業 に取り組み、造血幹細胞移植医療の成績向上を目指しています。

【業務体制】

センターの常任スタッフはセンター長1名、血液・腫瘍・心血管内科の医師1名、事務員1名です。さらに小児科医師1名、南棟2階輸血センター医師1名、グローバル感染症センター医師1名、北棟11階無菌治療部看護師長、造血細胞移植コーディネーター1名、患者サービス課長からなる委員会により運営されています。

【業務内容】

①移植コーディネート支援

適切なタイミングで造血幹細胞移植が受けられるよう、ドナー候補者の居住地近くで必要な検査を実施できる病院を紹介する、骨髄バンク九州事務局と連携して骨髄・末梢血幹細胞採取施設の調整を行うなど、ドナーコーディネートが迅速に

進むよう取り組んでいます。また認定移植コーディネーターの養成にも移植施設と協力しながら取り組んでいます。

②地域連携事業

拠点病院と厚生労働省、日本造血・免疫細胞療法学会が協力して作成した「造血細胞移植患者手帳」を配布し、移植患者さんが地域のかかりつけ医を受診する際に移植情報がわかりやすく伝わることを目指しています。それでも、かかりつけ医の先生方が移植患者さんの診療に不安や疑問を感じた場合には、当センターに相談できるような体制を整備しています。移植を受けた患者さんやご家族に対しても、転居する際にフォローアップを継続するのに相応しい病院の紹介、症状や生活上の疑問点への回答などが可能です。移植後患者の就労支援にも、がん支援センターと連携して取り組んでいます。現在は全国の拠点病院と連携し、小児→成人のトランジションの体制整備にも尽力しています。

【学会施設認定】

日本造血・免疫細胞療法学会

臨床遺伝医療部

患者さんやそのご家族からの遺伝に関する相談の総合窓口として対応します。



遺伝カウンセリング

【運営方針】

遺伝に関する疑問や不安に対し、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが相談に応じ、正確な情報提供をします。専用の遺伝カウンセリング室でプライバシーに配慮しながら遺伝カウンセリングを行い、患者さんやご家族が自律的な意思決定ができるようサポートします。

【業務内容】

認定遺伝カウンセラーや臨床遺伝専門医が電話や面談で相談内容を伺います。相談内容に関連した情報収集を行い、スタッフカンファレンスで方針を決定した上で、遺伝カウンセリングを行います。遺伝カウンセリングは必要に応じて継続して行います。

*生殖医療に関する遺伝カウンセリング受け入れ可能な臨床遺伝専門医 在籍

*遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリング受け入れ可能な臨床遺伝専門医 在籍

【特色】

臨床各科に所属している臨床遺伝専門医、あるいはその資格取得を目指す医師や、認定遺伝カウンセラーがさまざまな遺伝性疾患や遺伝に関する疑問や不安に対応しています。院内各診療科の診療をサポートするほか、院外からの患者さん・ご家族からの相談にも対応します。診断のための遺伝学的検査、がんゲノム医療において遺伝性腫瘍が疑われた場合の遺伝学的検査・発症前検査、出生前診断・着床前診断など幅広い領域の遺伝カウンセリングが対応可能です。

【学会施設認定】

臨床遺伝専門医認定研修施設（日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会）

遺伝カウンセラー養成専門課程設置大学院（認定遺伝カウンセラー制度委員会）

未来医療開発センター



病院全体に横断的に関与しうる基盤的組織として、臨床・教育・研究・地域医療を支える医療DXの中核機能を担います。

【運営体制】

先端医工学診療部、メディカル・インフォメーションセンター、アジア遠隔医療開発センターを主体として、必要に応じて各診療科や中央診療部門が連携し構成されています。

【運営方針】

当院の持続的な発展と安定した運営・経営を図るため、医療DX対応窓口として機能し、今後10年を見据えた医療DXを中核とする先端的医療基盤の構築・運用を推進します。

【業務内容】

1. 医療DXの推進を行うこと
2. ロボット手術を含む低侵襲手術を強化すること
3. 遠隔診療及び遠隔手術の運用支援に関すること
4. 遠隔医療を活用した教育支援体制の構築に関すること
5. その他ロボット手術・周術期治療開発に関すること
6. 医療機器、検査機器に関する産学連携活動を推進すること

歯科衛生室

私たち歯科衛生士—Dental Hygienist—は、九州大学病院の患者さんに、より質の高い口腔ケアの普及と安全で信頼される医療の提供を目指しています。



患者さんの口腔ケア

【運営方針】

乳幼児から高齢者までの口腔ケアとセルフケア指導を行い、生活の質（QOL）の向上を目指します。入院患者さんに口腔ケアを行うことによって、口腔衛生改善や口腔機能向上を図り、誤嚥性肺炎などの予防を目指します。

【業務内容】

歯周病科、歯内治療科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科、矯正歯科、咬合補綴科、義歯補綴科、口腔総合診療科、高齢者歯科・全身管理歯科、再生歯科・インプラントセンターに分かれ、診療補助、歯科保健指導、歯科予防処置と診療室管理などを行っています。また、病棟で入院患者さんの口腔ケアを行い、他職種を対象に口腔ケアの指導も行っています。周術期口腔ケアセンターでは、医科と歯科が連携し、術前・術後の口腔機能管理を行っています。

【特色】

歯科衛生士は、口腔ケアの専門職として口腔疾患予防の促進、改善、普及を行い、患者さんのそれぞれの生活環境や健康レベルに合わせて、より快適なライフスタイルをサポートします。

歯科総合予診室

歯科部門を受診する初診患者さんに適切な専門診療科を判断し、誘導する受け入れ窓口です。



予診風景

【運営体制】

口腔包括診療科(口腔総合診療科、口腔画像診断科、高齢者歯科・全身管理歯科)の歯科医師が主体となって予診業務を行っています。

【運営方針】

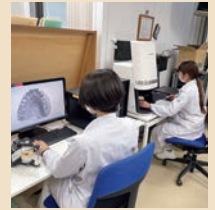
歯科総合予診室では、円滑な歯科診療提供を目的に、歯科部門の初診患者さんを最初に受け入れ、一人ひとりに適切な専門診療科を判断し、誘導しています。

【業務内容】

歯科部門の初診患者受付窓口として、初診患者一人ひとりに適した専門診療科、もしくは集学的診療単位(小児歯科・スペシャルニーズ歯科、矯正歯科、歯内治療科、歯周病科、義歯補綴科、咬合補綴科、顎口腔外科、顔面口腔外科、歯科麻酔科、口腔画像診断科、口腔総合診療科、高齢者歯科・全身管理歯科、周術期口腔ケアセンター、再生歯科・インプラントセンター、デンタル・マキシロフェイシャルセンター)を判断し、適切な専門診療科への誘導を行っています。その後の初診診療は各専門診療科が担当しています。

歯科技工室

歯科医療チームのなかで補綴装置を製作し、機能や審美性の回復を行い、患者さんの健康と生活の質（QOL）向上に貢献しています。



CADによる設計風景

【運営体制】

5名の歯科技工士が各診療科の歯科医師の依頼を受け、歯科技工業務にあたっています。

【運営方針】

歯科技工室では、安全で質の高い修復治療を行い長期的に安定した結果を得るために、新しい技術や材料の情報を有効に活用し、良質な歯科技工業務サービスを提供しています。

【業務内容】

総義歯、部分床義歯、レジン前装冠、金属冠、ブリッジ、ポーセレン、インプラント上部構造、プロビジョナルレストレーション、オールセラミック、Hotz床、CT撮影用ステント、顎関節症用スプリントなどの製作、修理、加工を中心とした創造的な業務や技工材料の管理を行っています。

【設備】

レーザー溶接機(1台)、ポーセレンファーマス(5台)、マイクロモータ(5台)、実体顕微鏡、ミリングマシン、真空加圧鋳造機(3台)、技工用タービン、レーズ研磨機、CAD/CAM機器(6台)、3Dプリンター(2台)など

【特色】

歯科技工士が診療室に赴き、患者さんからさまざまな具体的な要望や希望を直接に伺い、補綴装置の製作を行っています。また、2名の「JSOIインプラント専門歯科技工士」を擁し、幅広いインプラント技工に対応しています。

口腔検査センター

歯科疾患と治療に係る臨床検査を充実化することで 1.一国立大学病院として、歯科各種検査の全国的な標準化に寄与すること 2.より広範な治療の提供による、患者と地域医療機関へ貢献することを目的としています。



センター会議

【運営体制】

口腔検査センター長はじめ、各専門診療科の教員を主な構成メンバーとし、各専門診療科がこれに連携しています。

【運営方針】

歯科部門の各専門診療科で行っている各種歯科検査を、各科連携の下、センターへの依頼に応じて横断的に検査を行っています。

【業務内容】

センターへの予約システムを利用して、依頼された検査を迅速に実施し、検査結果は、臨床研究に展開できるような形で、電子カルテ上に保存します。

【設備】

口腔機能低下症に係る検査体制が整い、新しい検査に対応した機器の充実を進めています。

【特色】

歯科部門の専門診療科が横断的に協力してセンターの運営にあたっていることから、多様性のある研究へと展開できる可能性、そして新たな検査方法の開発などを潜在しており、今後の歯科医療の発展に貢献できると考えています。他機関連携の臨床研究にも着手し、さらに、将来的には、九州大学病院内の運用に留まらず、地域の医療機関とも連携したセンターの利用法を検討しています。

内視鏡外科手術 トレーニングセンター

2004年12月より、内視鏡外科手術トレーニングセンターを設置し、学内外の外科医を対象に、内視鏡外科手術のトレーニングセミナーを随時開催しています。



ボックストレーニング風景

【運営方針】

内視鏡外科手術における教育・トレーニングは、医療安全水準を向上させるために、きわめて重要です。当センターでは、学内外の外科医を対象に、内視鏡外科手術の基本手技から応用手技までのトレーニングを、系統的なカリキュラムに沿って実施しています。

【業務内容】

初心者・研修医のためのベーシックコース、基本手技の習得を目的としたスタンダードコース、応用手技の習得を目的としたアドバンスコースを行っています。また、これらのコースは九州大学医師再教育事業の一環にもなっています。

【設備】

講義室、ボックストレーニング室(ボックス18台)、VRシミュレータトレーニング室(内視鏡外科手術シミュレータ2台、ロボット外科手術シミュレータ1台)、アニマル手術室(内視鏡外科手術台4台)、技術評価室など

【特色】

大学主導の内視鏡外科手術トレーニング施設としてはわが国最大規模であり、ボックス、シミュレータ、アニマルを用いた多彩なトレーニングカリキュラムは高い評価を得ています。2025年3月時点で、全国各地から2,200名を超える外科医が受講しています。

【教育】

研修医向けのベーシックコースは、研修カリキュラムの一環として内視鏡外科手術の理解を深める上で役立っています。

患者相談支援室

患者相談支援室では、毎日、患者さんから医療に関する不安・悩みの相談があります。窓口である社会福祉士を中心に、課題を多職種で検討し、関係部署とも連携して、患者さんが安心して療養できるように支援しています。



患者さんへの相談対応

【運営体制】

当支援室は、医師、社会福祉士、医療コーディネーター、事務職員で構成されています。毎週、構成員に歯科医師や看護師を加えて、相談事例について検討しています。また、運営委員会を設け、各診療科から医師・歯科医師・看護師・理学療法士・社会福祉士など、多職種が選出され、的確に患者支援ができているかを協議しています。

【運営方針】

患者さんからお聞きする不安・ご相談は、医療従事者とのコミュニケーションの不足によるものです。この問題を解決するために、不安を抱えている相談者に寄り添い、医療者との対話が円滑に進むように支援します。必要に応じて院内の委員会でも相談内容とその課題について報告しています。

看護キャリアセンター

九州大学病院看護キャリアセンターは、専門職業人としての看護職のキャリア開発や生涯学習を支援し、院内・外を含めた地域全体の看護の質向上に貢献することを目的に活動しています。



シミュレーション研修

【運営体制】

九州大学病院看護部と九州大学医学研究院保健学部門看護学分野が連携・協働し、看護部長をセンター長とし、副センター長2名、看護部教育担当と看護学分野の教員で構成しています。

【運営方針】

センターは、看護職の専門職業人としてのキャリア支援・開発を行うための看護実践教育の拠点としての役割をもち、院内・外を含めた地域全体の看護の質向上に寄与することを目的としています。

【業務内容】

1. 基本的看護実践能力育成に係る教育・研修に関すること
2. 看護実践能力定着・向上に係る教育・研修に関すること
3. 地域貢献・社会貢献としての教育・研修に関すること
4. 臨床看護研究推進に関すること
5. その他、看護職のキャリア支援・開発に関すること

【特色】

多くの人的・物的リソースをもつ九州大学病院が、地域医療を支える看護職への教育プログラムの開発や教育体制を整備し、専門職業人としてのキャリア開発支援を行っています。

経営戦略センター



経営戦略センターでは、将来にわたって安定的な病院経営を維持するため、中長期的視点に立った経営戦略・病院改革を実行し、経営基盤の確立を図ります。

【運営体制】

センターは、センター長(経営担当副病院長)、副センター長(実務家教員)をはじめ、コ・メディカル職員や事務職員など、多職種の職員により構成しています。

【運営方針】

医療の更なる高度化と患者ニーズの多様化に応じていくとともに、安定した病院運営・経営を目指した経営分析や経営戦略の立案等を行います。

具体的には、診療実績(診療活動)や収入・支出実績の分析と経営課題の把握、また、分析結果に基づいた改善策の検討等を行います。

【業務内容】

1. 経営分析に関すること
2. 経営戦略の企画・立案に関すること

診療科紹介

■ 診療科 医科部門

■ 診療科 歯科部門

■ 中央診療施設等

■ 院内診療支援施設等

■ 別府病院

内科

リウマチ・感染症、循環器、腫瘍、消化器領域の専門医が高い専門性を持って診療にあたっています。それと同時に各診療グループの連携を密に行って全身的な内科ケアを実践し、高齢の方・複数の疾患がある方にも安心して治療を受けていただける体制を整えています。標準的治療・新規治療に加えて、リハビリテーション、温泉療法、疼痛緩和治療等を含めた幅広い治療オプションを提供します。



科長 三苫弘喜



内科集合写真2026

【得意分野】

- リウマチ・膠原病:60年以上におよぶ診療と研究の伝統があり、関節リウマチをはじめ多くの自己免疫疾患の患者さんが通院されています。温泉プールによるリハビリテーションも行っています。
- 感染症:基礎疾患をもつ患者さんの感染治療を適切に行うことを目的として、2023年4月に感染症内科が新設されました。肺炎、尿路感染症、蜂窩織炎など様々な感染症の治療、院内の感染対策管理を行っています。
- 循環器:心不全診療に注力しており、原因疾患の治療や生活習慣の改善による予防に取り組んでいます。高血圧・心房細動・睡眠障害などを抱える多くの患者が通院しており、多職種が連携して心不全の管理・指導・リハビリを包括的に実施しています。
- 悪性腫瘍:乳がん、甲状腺がん、膵がん、胃がん、大腸がん、肺がんなど、様々な臓器の固形腫瘍に対する化学療法、免疫チェックポイント阻害薬治療を行っています。外科や放射線科とも連携をし、術前・術後化学療法、放射線治療など集学的な治療を実践しています。治療中の方のがんによる苦痛(疼痛など)を和らげる緩和ケアも並行して行っています。
- 消化器:食道・胃・十二指腸・大腸をはじめとする消化器疾患の検査と治療を行っています。また、ポリプや早期癌の内視鏡の治療を行っています。
- 糖尿病・内分泌:糖尿病をはじめとする内分泌疾患の検査、治療を行っています。また手術を受けられる患者さんの周術期血糖管理も実施しています。

【診療体制】

リウマチ、循環器、がん薬物療法、消化器など関連学会の専門医を中心に診療にあたっています。病棟では毎週内科全体で多職種カンファレンス(医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養管理士、医療ソーシャルワーカー)を行い、包括的診療に取り組んでいます。

【診療方針】

多彩な分野の専門医が協働して診療を行い、幅広い視点から一人ひとりの患者さんを総合的に診療することを心がけています。入院中は生活の質(QOL)を落とさないように、薬物治療に加えてリハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。原疾患の治療と再発予防、医療ソ-

シャルワーカーの介入によって、退院後の日常生活を含めたケアを行っています。

【対象疾患】

- リウマチ・膠原病:関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、血管炎症候群、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、ベーチェット病、成人ステイラ病、シェーグレン症候群、遺伝性血管性浮腫など
- 感染症:細菌感染症(肺炎、尿路感染症、皮膚感染症など)、ウイルス感染症(帯状疱疹など)、真菌感染症など
- 循環器:急性・慢性心不全、狭心症、心臓弁膜症、不整脈(心房細動など)、心筋症(心アミロイドーシスなど)、高血圧症、大動脈疾患、肺高血圧症、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群など
- 固形腫瘍:甲状腺がん、乳がん、膵がん、胃がん、大腸がん、肺がん、原発不明がん、肉腫など
- 消化器:消化器がん、胃・十二指腸潰瘍、胃炎、逆流性食道炎、炎症性腸疾患など
- 内分泌・糖尿病:1型、2型糖尿病、甲状腺疾患、副腎不全、免疫チェックポイント阻害薬による内分泌疾患など

【主な治療】

- リウマチ・膠原病:経口抗リウマチ薬、生物学的製剤(抗サイトカイン療法)、標的型合成抗リウマチ薬、免疫抑制療法、副腎皮質ステロイド療法、大量ガンマグロブリン療法、リウマチ性疾患のリハビリテーション、遺伝性血管性浮腫の予防・発作時治療
- 感染症:抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬等による治療、ガンマグロブリン補充療法
- 循環器:心不全包括的治療(薬物療法、運動療法、食事療法)、ペースメーカー治療、持続陽圧呼吸療法(CPAP)
- 腫瘍:抗がん剤治療、免疫チェックポイント阻害薬、放射線療法、緩和ケア
- 消化器:消化管薬(制酸剤、粘膜保護剤、消化管運動改善薬など)の内服治療、ヘリコバクター・ピロリ除菌治療、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術
- 内分泌・糖尿病:経口血糖降下薬、経口ホルモン剤、インスリンおよびその他の注射薬、持続式血糖測定器による血糖管理・薬剤調整

外科

1931年九州大学温泉治療学研究所開所以来、別府地区における九州大学病院外科として役割を担ってきました。消化器癌・乳癌を中心に、地元の先輩医師、九州大学本院と緊密に連携し、大学としての先鋭的な医療を推進しています。



科長 三森功士



外科集合写真

【得意分野】

- 腹腔鏡による胃癌・大腸癌・肝臓癌に対する徹底的な低侵襲手術
- 肝胆膵領域がんなどの、高度技能を要する外科手術
- ERCP等含む内視鏡的治療
- 乳癌に対する集学的治療と乳房再建術
- 鼠径ヘルニアなどの良性消化器疾患
- その他消化器内科的腹部疾患

【診療体制】

外科学会専門医8名(うち指導医4名)、消化器外科学会専門医4名(うち指導医4名)、日本内視鏡外科学会技術認定医1名、乳腺専門医1名、マンモグラフィ読影認定医2名、がん治療認定医5名が専門的な診療にあたっています。

【診療方針】

早期から終末期までがん診療に特化した科で、根治性を担保しつつ「徹底的な低侵襲」治療を目指します。一方、高度進行がんに対しても基本的に「根治性をあきらめない」診療をしています。また大学の病院として最新知識や技術を市民に還元し、役立てていただくことを心がけています。

【対象疾患】

消化管外科(胃癌、大腸癌、消化管間葉系腫瘍(GIST)、消化管穿孔など)、乳癌、肝・胆・膵外科(原発性・転移性肝臓癌、胆管癌、胆のう癌、膵臓癌など)、その他一般外科、高度(末期)進行がん

【主な治療法・高度先進医療】

- 消化管、肝・胆・膵、乳腺の悪性腫瘍に対する手術
- 最新機器による放射線照射療法(放射線科)、最新の分子標的療法、化学療法
- 低侵襲治療(腹腔鏡下手術)
- 高齢者に対する負担の少ない低侵襲手術

【学会施設認定】

日本外科学会(指定関連施設)、日本消化器外科学会、日本乳癌学会(認定研修施設)、日本臨床腫瘍学会、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

整形外科

2011年4月に九州大学病院別府病院に整形外科が開設され、これまで“脊椎外科”に特化した診療を行ってきました。2025年4月から新たに関節外科の診療を開始し、股関節疾患や膝関節疾患を中心により幅広い診療を行っています。



科長 播谷勝三



側方侵入椎体間固定術

「得意分野」

脊椎疾患全般を対象に治療を行っています。坐骨神経痛の原因となる腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡手術や棘突起縦割式椎弓切除術、骨粗しょう症に伴う脊椎圧迫骨折に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術などの低侵襲手術や脊柱側弯症・後弯症に対する矯正固定術などを行っています。

また、関節外科では変形性関節症や関節リウマチに対して人工股関節全置換術や人工膝関節全置換術、単顆型人工膝関節置換術のほか、関節温存手術(骨切り術)などを行っています。

「診療体制」

整形外科医7名が専門的な治療にあたります(日本整形外科学会専門医6名、日本脊椎脊髓病学会・脊椎脊髓外科指導医2名、日本人工関節学会認定医1名)。

〔診療方針〕

病状は患者さんによってそれぞれ異なります。手術的治療ばかりでなく、薬物療法、リハビリテーションを含めた保存的治療を、最新の知識・技術に基づいて考え、十分な説明と同意のもとに行うように心がけます。

〔対象疾患〕

■脊椎・脊髄疾患：腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、脊柱靱帯骨化症、脊柱側湾症、脊柱後湾症、骨粗しょう症、脊椎圧迫骨折、脊椎・脊髄腫瘍 など

■関節疾患:変形性股関節症、大腿骨頭壊死症、股関節インピンジメント症候群、変形性膝関節症、関節リウマチなど

〔主な検査〕

X線、CT、MRI、脊髄造影、血管造影、骨密度検査 など

〔主な治療〕

■ 脊椎・脊髄疾患：内視鏡手術（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など）
脊椎固定術（側方経路腰椎椎体間固定術を含む）
脊柱側わん症・後わん症に対する矯正固定術
脊椎圧迫骨折に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術
腰椎椎間板ヘルニアに対する椎間板内酵素注入療法

■ 関節疾患: 人工関節置換術(人工股関節全置換術や人工膝関節全置換術、単顆型人工膝関節置換術)、股・膝関節温存手術(骨切り術)など

「学会施設認定」

日本整形外科学会、日本脊椎脊髓病学会

婦人科

婦人科一般診療、悪性腫瘍、女性ヘルスケアといった婦人科全般の専門領域に関して診療を行います。2006年5月1日に当院での産婦人科診療を休止しましたが、2024年4月から再開し、本年度は3年目となります。婦人科一般診療、悪性腫瘍、女性ヘルスケアといった婦人科全般の専門領域について、他医療施設(病院・クリニック)と連携した診療を推進していきます。



科長 園田顯三



婦人科診察室

「診療体制」

日本産科婦人科学会の専門医4名(内指導医1名)、日本婦人科腫瘍学会の専門医・指導医1名、日本臨床細胞学会の専門医・指導医1名、日本遺伝性腫瘍学会の専門医1名で専門的な診療にあたります。診療に際しては、個々の患者さんに最適な治療法をスタッフ一同が他専門診療科とも連携しながら行っています。

「診療方針」

患者さんの全身状態・病状を評価し、適切な治療の提供を心掛けます。年齢・合併症を考慮し、必要に応じ専門診療科と相談しながら診療を推進します。悪性腫瘍の診療に際しては、新たに報告されるエビデンスも取り入れた治療を行います。

「得意分野および対象疾患」

■婦人科一般診療：良性腫瘍（子宮筋腫・卵巣嚢腫など）、性感染症、骨盤臓器脱 等

■悪性腫瘍および関連疾患:子宮頸部異形成・子宮頸癌、子宮内
膜増殖症・子宮体癌、卵巣癌、外陰・陰癌 等

■女性ヘルスケア:月経困難症・月経不順・更年期障害 等の検査・治療。なお、不妊治療、産科診療(妊婦健診・分娩など)は行いません。

〔主な検査〕

患者さんの全身状態・病状を評価し、必要な検査を行います。婦人科領域では検査としての手術(子宮頸部円錐切除術、内膜全面搔爬術、腹腔鏡手術など)が行われますので、入院しての検査を提案することがあります。

〔主な治療〕

病気の診断に必要な検査を行い、治療を開始します。検査には、上述した様に入院して行う手術も含まれます。治療として外来での投薬(抗生剤やホルモン剤など)を行う病気がありますが、悪性腫瘍の場合は手術療法、放射線療法、化学療法の中から適切な治療法を組合わせて行います。

婦人科の悪性腫瘍(特に子宮頸癌)に対する重要な治療法の一つに、小線源を使用する放射線療法があります。当院では2026年4月から遠隔操作密封小線源治療(RALS)を開始しました。外部照射とRALSを組み合わせる放射線療法は肝要な治療と位置付けられます。最新のシステムを導入し放射線科と協力しながら、安全で効果的な治療を提供いたします。

放射線科

新病院では、フィリップス社製3テスラMRI装置、旧病院よりもより高精度な放射線治療が可能なバリアン社製放射線治療装置など、九大病院本院と同じ装置へ更新しました。これで本院と同等の放射線診療を提供可能となり、スタッフ一同協力してより体に優しい放射線診療を提供してまいります。



科長 平川雅和



バリアン社製 高精度放射線治療装置

【得意分野】

各種画像診断装置と高精度放射線治療装置を導入し、主に様々な悪性腫瘍を対象として、画像診断、放射線治療、内視鏡的治療、画像下治療(血管内治療など)に幅広く取り組んでいます。前立腺癌や肺癌など様々な悪性腫瘍に対する高精度放射線治療を行っています。多くの患者さんを、豊富な湯量に恵まれた温泉を備える別府の素晴らしい療養環境で専門的な放射線診療を行っています。

放射線治療について

IMRTや体幹部定位照射などの高精度放射線治療を大分県下では他院に先駆けて2009年より開始し、安全性と効果の高い治療を提供しています。4次元CT撮影、呼吸モニタリングシステム、体表位置照合システムなどを用いて、精度が高く、体への負担の少ない治療を目指しています。短期間で高い治療効果が望める定位照射は、早期肺癌に対して従来より施行してきましたが、2024年にVarian社TrueBeamを導入し、肝腫瘍、骨などへの小数個の転移や、より高い精度管理が必要な脳転移にも対応可能となりました。さらに、2026年5月より小線源治療装置であるVarian社BRAVOSを導入し、同室CTを備えたシステムにより、子宮頸癌などの婦人科腫瘍を中心とした腔内照射を開始予定です。治療は専従の医師・技師・看護師が対応致しますので、安心して治療を受けていただけます。

【診療体制】

日本医学放射線学会放射線科専門医3名(診断専門医1名、治療専門医2名)、日本放射線腫瘍学会認定医2名、日本IVR学会専門医1名、第一種放射線取扱主任者免状を1名が保持し、専門的な放射線診療にあたっています。

【診療方針】

可能な限り、低侵襲な画像診断と治療が提供できるよう、各専門医が診療を担当します。さらに、院内各科の専門医師とも緊密に連携し、診療に取り組んでいます。

【対象疾患】

各種悪性腫瘍など

【主な検査】

320列マルチディテクタCT 検査、3T MRI検査、血管造影検査

【主な治療】

■各種悪性腫瘍に対する高精度放射線治療(強度変調放射線治療・画像誘導放射線治療・定位照射・腔内照射)

■肝臓・胆のう・膵臓や血管狭窄病変に対する、画像介入下低侵襲治療(IVR: 経皮的治療・血管内治療)

【学会施設認定】

日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関 画像診断、IVR、放射線治療部門

麻酔科

麻酔科の主な診療内容は、手術時の麻酔管理です。手術を受ける際には痛みを取ると同時に呼吸、循環、代謝など、手術時に刻々と変化する生体反応を制御する必要があります。生体の機能をコントロールし、患者さんの安全を確保するのが麻酔科医の役割です。



科長 瀬戸口秀一

【得意分野】

麻酔科の診療は手術、検査実施時の麻酔・全身管理がメインですが、病棟での重症な患者さんの循環、呼吸、代謝管理などのサポートも行います。

【診療体制】

現在麻酔科医3名(麻酔科専門医1名、医員2名)で、別府病院で行われる年間900件以上の手術麻酔を担当しています。外科、整形外科、婦人科の手術治療時に、全ての麻酔管理を麻酔科専門医の管理下に実施しています。手術前日までに患者さん訪問を実施し、診察と麻酔の説明を行います。

【診療方針】

手術時の麻酔管理では、安全で最適な麻酔管理を実施します。そのために、手術内容と患者さんの情報を基に、最適な麻酔方法・全身管理を検討し患者さん本人やご家族に説明します。それぞれの患者さんの納得の上で術後の痛みなどストレスが少ない麻酔法を選択していきます。術後の疼痛管理は、担当診療科の主医、看護師と協力して実施します。

【対象疾患】

当科が麻酔を担当する対象疾患は、手術治療を必要とする全疾患に及びます。小手術の場合は担当科で局所麻酔をして手術をすることもあります。

【主な検査】

麻酔管理に必要な検査(血液検査、心電図検査、呼吸機能検査、胸部単純X線撮影など)は、基本的には入院前後に治療担当診療科で実施します。さらに手術前に麻酔医が診察し、動脈血液検査、心エコー検査など特殊な検査を追加させていただくことがあります。手術中に麻酔科医は、日本麻酔科学会の勧告するモニター指針に従って、患者さんのバイタルサインを看視します。必要に応じて、観血的動脈圧測定、中心静脈圧測定、脳波モニターなども加えます。

【主な治療】

別府病院で行われる手術の麻酔管理を行います。

【学会施設認定】

麻酔科認定病院(日本麻酔科学会)

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、さまざまな疾患によって低下した身体機能を、個々の患者さんがその人らしく生活できるよう回復を促し、自立した社会生活機能を最大限に向上させるようリハビリテーションを行っています。



科長 播広谷勝三



理学療法士による温水プールでの運動指導

【得意分野】

当院の整形外科ではこれまで脊椎・脊髄疾患に特化した診療を行ってきましたが、2025年度から新たに関節外科の診療を開始しております。当科では整形外科の手術前後の運動器リハビリテーションを行っています。また、当院の内科の特徴である関節リウマチや膠原病のほか、パーキンソン病、心疾患、脳血管障害、高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患、悪性腫瘍を対象とした「がんのリハビリテーション」も行っています。

【診療体制】

医師2名と理学療法士5名、作業療法士1名、技能補佐員1名で診療にあたっています。

【診療方針】

専任医師の指示の下で、さまざまな疾患から生じた機能的および社会的な障害を把握し、インフォームド・コンセントを行った上で、個々の患者さんのニーズに合ったリハビリテーションを提供することを基本方針としています。

【対象疾患】

- 脊椎脊髄疾患(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など)
- 関節疾患(変形性股関節症、変形性膝関節症など)
- 関節リウマチ、膠原病
- パーキンソン病

■脳血管障害

■心疾患

■高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患

■悪性腫瘍(がんのリハビリテーション)など

【主な治療】

疼痛の訴えや身体的・社会的障害に対し、患者さんのニーズに合わせ、徒手療法や物理療法、温泉(水治)療法、作業療法、理学療法、ADL指導などを行い、早期回復・社会復帰の手助けをします。

【設備と特色】

通常のリハビリテーション室に加えて、温泉湧出量日本一の地域の特徴を活かした温泉運動プール(9.5m × 4.8m × 1.1m)などの温泉リハビリテーション施設を備えています。温泉プールでは、理学療法士がプールに入って運動指導を行うこともあります。また、温泉療法と徒手療法を組み合わせたりハビリテーションも特徴のひとつです。そのほかに「がんのリハビリテーション」や患者さん向けの糖尿病教室・リウマチ教室も行っています。さらに、施設敷地内には大森林があり、自然遊歩行コースを設けて市民の方々にも開放しています。

【教育】

学生教育では、理学療法士や作業療法士養成校から、数名の臨床実習生を受け入れています。



リハビリテーション部

病気によって低下した身体機能を、患者さんがその人らしく生活できるよう回復させ、さらに自立した社会生活機能を最大限に向上させる、急性期から慢性期にわたるリハビリテーションを行います。

【運営体制】

リハビリテーション部長1名、診療講師1名、理学療法士5名、作業療法士1名、技能補佐員1名で構成。

【運営方針】

障がいに対し、身体の良い面に着目して、潜在する機能を最大限に引き出し、「その人が、再びその人らしく生活できるように」患者さんを主体としたリハビリテーションを基本方針にしています。

【業務内容】

脊椎脊髄疾患、関節疾患、関節リウマチや膠原病、パーキンソン病、心疾患、脳血管障害、高齢者の生活習慣病や呼吸器疾患、悪性腫瘍などのリハビリテーションを中心に行っています。

【設備】

リハビリテーション室のほかに、温泉運動プール(9.5m×4.8m×1.1m)などの温泉施設を備えています。

【特色】

理学療法、作業療法に加え、温泉プール治療などの物理療法の特性を組み合わせたリハビリテーションを行っています。また「がんのリハビリテーション」も行っています。

【教育】

学生教育では理学療法士、作業療法士養成校から、数名の臨床実習生を受け入れています。

検査室

1977年10月に設置された検査室は、病院再開発に伴い、2024年3月に生理検査室が新病院A棟へ、2026年3月に検体検査、細菌検査、病理検査室がB棟へ移転しました。



検体検査室の様子

【運営体制】

検査室長(病理医)、臨床検査技師8名の体制で日々の臨床検査を行っています。時間外緊急検査は、オンコールによる24時間体制で対応しています。

【運営方針】

検体検査の院内検査項目は、すべて迅速報告を実施し、外来診療の質向上に貢献しています。また、ICTなどの院内活動や委員会にも参加し、重要な役割を果たしています。

【業務内容】

①検体検査室(生化学、血液、免疫血清、輸血、一般検査等)、②生理検査室(心電図、肺機能、超音波検査等)、③病理検査室(病理組織検査・細胞診、迅速病理検査)、④細菌検査室(血液培養、薬剤感受性検査)にて別府病院の診療に不可欠な臨床検査を行っています。

【設備】

生化学汎用自動分析装置、多項目自動血球分析装置、全自動血液凝固測定装置、血液ガス分析装置、自動血液培養検査装置、自動密閉式自動固定包埋装置、自動免疫染色装置、超音波診断装置など

【特色】

各診療科が行う研究活動等への支援も行っています。

【教育】

毎年、臨床検査技師養成学校から学生実習を受け入れて、これからの臨床検査技師の育成も行っています。

手術室

外科的治療のうち、手術治療を行う施設です。

【運営方針】

安全で円滑な手術治療が行える環境を整備することが基本です。そのため計画に基づいた手術時の麻酔管理、患者看護、手術介助、手術室の環境維持、手術機器・衛生材料の管理などを行っています。

【業務内容】

麻酔科医による周術期麻酔管理では、手術前診察、手術時全身管理、診療科主治医と協力した手術後の鎮痛管理を行います。また、手術室専任看護師による手術前後の患者訪問、手術看護、手術介助を行います。手術室の管理は麻酔科医を中心に、看護スタッフ、診療科医師を含めて行います。

【特色】

安全な手術を実施するために手術室の生体情報は、手術管理室のセントラルモニタで情報管理を行っています。3手術室のうち2室は無菌手術室で、高度な衛生状態で手術治療が可能です。新しい手術法や腹腔鏡手術も積極的に取り入れ、安心安全な医療の提供に努めています。

診療放射線室

集学的診療に対応するため、質の高い放射線診療を提供できるよう努めています。



CT撮影装置

【運営体制】

放射線科医師4名、診療放射線技師7名、事務職員1名で構成しています。

【運営方針】

医療目的に適した最良の放射線診療(診断・治療)を提供するとともに、患者さんおよび医療従事者の放射線被ばくを可能な限り低減し、安心して放射線診療を受けていただけるよう努めています。

【業務内容】

■画像診断: 一般X線撮影、乳房撮影、X線透視検査、X線CT検査、MRI検査、心臓・血管造影検査、骨塩定量検査

■IVR治療: 塞栓療法、動注療法、リザーバ留置、各種血管内治療

■放射線治療: 各種悪性腫瘍に対する放射線治療(外照射)、体幹部定位放射線治療(SBRT)、強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、遠隔操作密封小線源治療(RALS)

【設備】

一般X線装置、乳房撮影装置、X線透視撮影装置、骨塩定量装置、移動型X線撮影装置、X線CT装置(320列)、MRI装置(3.0T)、心臓血管撮影装置、放射線治療装置(リニアック、RALS)

【特色】

九州大学病院と同等のラインナップを揃え、低被ばく化、高速化、高品質化を実現しています。またスタッフも九州大学病院とローテーションを行い、診断から治療までを含めた集学的な診療を実践することで、満足度の高い質の高い医療の提供を目指しています。

中央材料室

中央材料室は、安全な医療器材の提供に努め、洗浄・組み立て・滅菌全般を行っています。



オートクレーブ滅菌器

【運営方針】

- 医療器材の洗浄・滅菌を一括管理し、滅菌の質を保証し、安全な医療材料の提供を行う
- 医療器材の効率的運用を図り、病院経費の節減に努める

【業務内容】

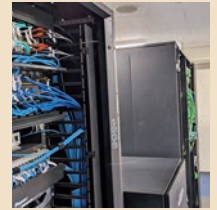
- 診療上必要とする医療器材の洗浄・滅菌を一元的に行っています。各病棟・外来・内視鏡室・手術室の使用済み器材の回収・洗浄・組み立て・点検を行い、器材に合った滅菌の実施・器材の保管・供給を施行しています。
- 安全で効率的な医療材料が提供されるよう、中央材料室が主体となって各部署で必要な医療器材を算出し、定数配置を実施しています。
- 使用する洗浄装置や滅菌装置は、日常点検・法定保守点検を施行し、定期的に点検整備を実施しています。

【設備】

- オートクレーブ滅菌器2台、プラズマ滅菌器1台、ウォッシュャーディスインフェクター1台、減圧沸騰式洗浄機1台

メディカル・インフォメーションセンター分室

診断と治療の精密化を図る目的で導入した病院情報システムと、病院情報ネットワークシステムの維持管理を行っています。



病院情報システムサーバー

【運営体制】

メディカル・インフォメーションセンター（以下MICと略す）分室長、事務職員、委託職員で業務を担当し、運営は各部署代表者で構成されるMIC分室運営委員会が安定した病院情報システム運用のためにトラブル防止や問題点を討議しています。

【運営方針】

九州大学病院別府病院は、2013年に電子カルテを導入し、その後整備を進めてまいりました。解決すべき課題も残っていますが、これからより使いやすいシステムの構築と安定運用のために努力を継続します。また急激に蓄積する電子データを安全に管理しながら解析する基盤を構築することにより、各部署や診療科のさまざまなニーズに対して支援を行います。

【業務内容】

電子カルテを中心とした病院情報システムの管理、部門システムを含めたネットワーク管理、地域医療ネットワーク管理、インターネット監視、災害時バックアップシステム管理

【設備】

- 病院情報システム：サーバ・情報機器群、電子カルテ端末、医用画像フィルムレスシステムなど
- 病院情報ネットワーク：電子カルテネットワーク、部門システムネットワーク、九州大学総合情報伝達システム(KITE)、全国医療情報プラットフォーム

【特色】

MIC分室は、各部署や各診療科との話し合いを広くもちながら、医療安全管理や医療の質向上を担うと同時に、患者さんにも医療者にも優しいシステムを目指しています。また、九州大学病院本院のメディカル・インフォメーションセンターとの連携も行い、双方のシステム閲覧の基盤構築や情報セキュリティの強化に取り組んでいます。

【教育】

新任職員へのセキュリティ講習や病院情報システムの操作講習を行っています。

地域医療連携室

地域医療連携室は患者さんが地域で一貫性のある治療を受けられるよう地域医療連携を強化し、地域医療の質の向上に貢献することを目指しています。



地域医療連携室

【運営体制】

社会福祉士(MSW:医療ソーシャルワーカー)2名、看護師1名、事務職員2名で業務を遂行しています。

【業務内容】

- 医療連携業務
地域の医療機関からの紹介患者さんの受け付けや、紹介元医療機関への返書管理、外来受診・入院報告をはじめ、入院退院管理業務を行い、効率的な病床稼働に努めています。
- 入院調整業務
毎日、入院退院小委員会を開催し、入院患者さんのスムーズな受け入れを図るため、各病棟看護師長と協同し、連絡調整を行っています。
- 在宅療養支援、退院・転院支援業務
退院後、地域で医療・介護サービスなどを利用する患者さんに対し、地域医療機関、訪問看護ステーション、介護施設などとの有機的な連携を図り、切れ目のないサービスの活用が行えるよう支援を展開しています。

【特色】

地域医療連携室が患者さんと地域医療機関との“かけはし”となるよう、社会福祉士を中心に多様な医療・福祉相談に応じています。

診療録管理室

診療録管理室では、電子カルテ導入以前の紙カルテ、電子カルテ、同意書などの文書の管理を行っています。

【運営方針】

診療録を適切に保管、管理します。また、記録の監査を行い、診療録の精度向上を目指します。

【業務内容】

- 診療録の監査業務
診療情報のすべてが記載される診療録は、診療報酬請求の根拠となるため、診療録に記載すべき内容が正確に記載されているかを監査しています。
- DPC調査提出業務
DPC調査提出データを作成し、厚生労働省に提出しています。
- 文書の電子化業務、CD画像の取込業務
診療で発生する同意書などの院内文書や他院からの診療情報提供書を電子化し、電子データを原本として管理しています。また、患者さんが持参したCD画像を電子カルテへの取り込みを行っています。
- 全国がん登録提出業務
全国がん登録届出書の提出を行っています。
- 紙カルテの貸出業務
電子カルテ導入以前の診療録を管理し、診療などで使用する際の貸出業務を行っています。

栄養管理室

適切な栄養療法の実施、栄養に関する教育、情報の発信などを行っています。

【運営体制】

栄養管理部門と給食管理部門の2部門で構成されています。

■栄養管理部門は入院患者さんの栄養管理と、入院・外来患者さんの食事指導を行っています。

■給食管理部門は委託給食を行い、栄養管理部門と連携し、個人の病態や状態に合わせた、より質の高い食事の提供を行っています。

【運営方針】

「病院食は『あくまでも食事』『さりげなく治療食』としての心配りを！」を理念に掲げ、患者さんに安心しておいしく食べてもらえる治療食の提供を行っています。

■栄養治療に関する知識や調理技術の向上、相手のことを想像できる感性を磨くなど、つねに自己研鑽しています。

【業務内容】

■個人の病態や状態に合わせた食事の提供(220食/日)

■総合栄養支援チーム(NST)の運営

■外来ならびに入院患者さんへの食事療法の説明、指導

【特色】

■各科において毎週1回、合同カンファレンスを行い、多職種と連携したチーム医療を行っています。

■患者さんと栄養士、双方の顔が見える栄養管理

■電算化による業務の効率化と調理機器の電化による徹底した衛生管理

【教育】

■各地の栄養士養成施設(大学や短期大学)からの臨床実習生の受け入れ

■地域大学の臨床栄養についての講義に、講師を派遣

薬剤室

薬剤の適正使用と安全管理を担う専門部署として、質の高い薬物療法の提供に取り組み、地域に信頼される医療への貢献を目指しています。



注射薬無菌調製室

【運営方針】

専門的な知識と技術を駆使し、薬剤の適正使用を推進するとともに、患者さん中心の良質で安全な医療の提供に貢献することを理念としています。最新の医療知識やエビデンスを迅速に臨床へ反映できる体制を整え、高度医療と地域医療をつなぐ役割を担っています。

【業務内容】

調剤、医薬品管理、注射薬無菌調製、薬剤管理指導、製剤、DI(医薬品情報管理)、医薬品安全管理 など

【設備】

処方チェックシステム、麻薬・血液製剤管理システム、PTP・一包装・散剤鑑査支援システム、全自動錠剤分包機、安全キャビネット、クリーンベンチ

【特色】

■入院患者さんに対し、持参薬の確認・評価、薬物療法の有効性・安全性の評価、処方提案、服薬指導を実施し、多職種と連携して質の高い薬学的ケアを実践しています。

■がん専門薬剤師による薬剤師外来を実施し、外来がん化学療法における副作用管理や服薬支援を通じて、患者さんの不安軽減と治療継続を支援しています。

■地域の保険薬局との連携を推進し、レジメンやがん治療、手術前の休止薬などの情報を共有することで、入院から退院後、外来まで切れ目のない薬物療法の提供に努めています。

■NST、乳腺チーム、感染対策、医療安全などの多職種チームに参画し、薬学的視点から治療支援とリスクマネジメントを行っています。

看護室

心のこもったケアと安全で安心な医療の提供を行うために、患者さんを中心としたチーム医療を推進し、多職種間で認め合い必要とされる看護を目指しています。



新人教育(プリセプター制度)

【運営体制】

外科・婦人科、整形外科、内科・放射線科を中心とした3病棟と外来、手術室の5つの看護単位において、看護師長3名、副看護師長9名と看護師、看護助手の計105名の看護職員が看護を行っています。医療安全や感染対策など6つの看護室委員会、がん看護、NSTなど6の看護WGを運営しています。

【理念】

私たちは、人間性を尊重し、患者さんに信頼される質の高い看護を提供します。基本方針として、九州大学病院本院の方針に倣い、看護の質の向上と人材育成、自己啓発・研鑽の促進、業務改善と活気ある職場づくり、地域医療連携の推進、接遇の向上などを目標にしています。

【特色】

1.7:1看護体制とPNS(パートナーシップナーシング・システム)による、質の高い看護の提供に努めています。

2.地域医療と大学病院機能を併せ持つ分院として、急性期から在宅移行まで切れ目のない看護を実践しています。

3.新人看護師の受け入れにはプリセプターナースを設定し、他にもさまざまな役割を担う教育体制を整備しています。

【教育】

1.本院と連動した継続教育を基盤に、OJTと集合研修を組み合わせ、確実な実践力を育成しています。

2.大分県看護協会の企画研修会やその他の研修などへ積極的に参加を推進しています。

3.業務改善報告会、看護研究発表会を実施し、看護学会などへの発表を目指した看護研究にも取り組んでいます。

事務室

事務室では、患者さんの受診に関する業務、医薬品などの購入、教職員に関すること、経理に関すること、建物の維持管理に関することなどさまざまな事務処理などを行っています。



待合ロビー

【庶務・人事系業務】

会議などの庶務事務、教職員の人事・労務管理・福利厚生、法規や労働安全衛生、別府病院執行部の運営方針の執行に係る事務処理などを行っています。

【経理系業務】

適正な病院運営を行うための予算管理、経営分析などのほか、給与などの支払い、共済組合などの事務も行っています。

【用度・施設系業務】

医薬品、医療材料や研究用品の購入・管理、契約、入札、建物などの維持管理などに関する業務を行っています。

【医事系業務】

患者さんの外来受付と入退院に関すること、保険給付に係る請求業務、諸料金の収納その他、患者サービスに関する業務を行っています。

資 料 篇

- 外来・入院患者数
- 医療機関の承認・指定状況等
- 施設基準の承認状況
- 経理状況等
- 建物階別一覧
- 所在地略図・建物配置図

外来・入院患者数

(1)福岡地区(九州大学病院 医科・歯科部門)

診療科別

(令和7年度)

診療科名	外 来		入 院	
	延べ患者数	1日平均患者数	延べ患者数	1日平均患者数
血液・腫瘍・心血管内科	22,836	94.4	18,805	51.5
免疫・膠原病・感染症内科	17,003	70.3	13,137	36.0
消化管内科	19,929	82.4	11,548	31.6
腎・高血圧・脳血管内科	16,784	69.4	11,300	31.0
内分泌代謝・糖尿病内科	32,433	134.0	5,933	16.3
肝臓・膵臓・胆道内科	16,689	69.0	14,937	40.9
心療内科	13,200	54.5	9,457	25.9
脳神経内科	13,448	55.6	10,989	30.1
循環器内科	19,675	81.3	16,651	45.6
呼吸器内科	19,515	80.6	15,744	43.1
産科婦人科	28,411	117.4	13,664	37.4
小児科	24,263	100.3	17,001	46.6
胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科、 消化管外科(1)、乳腺外科(1)、 内分泌外科、呼吸器外科(1)	22,550	93.2	23,719	65.0
肝臓・膵臓・門脈・肝臓移植外科、 消化管外科(2)、呼吸器外科(2)、 乳腺外科(2)、血管外科	25,678	106.1	30,446	83.4
整形外科	27,383	113.2	30,867	84.6
脳神経外科	7,774	32.1	11,620	31.8
心臓血管外科	4,217	17.4	9,826	26.9
小児外科、成育外科、小腸移植外科	7,529	31.1	7,043	19.3
形成外科	4,690	19.4	2,008	5.5
皮膚科	21,929	90.6	6,996	19.2
泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科	16,550	68.4	12,778	35.0
リハビリテーション科	—	—	384	1.1
精神科神経科	23,329	96.4	11,908	32.6
眼科	37,047	153.1	19,080	52.3
耳鼻咽喉・頭頸部外科	23,387	96.6	15,384	42.1
放射線科	86,090	355.7	8,581	23.5
麻酔科蘇生科	8,793	36.3	227	0.6
総合診療科	11,035	45.6	6,097	16.7
先端分子・細胞治療科	0	0.0	0	0.0
救命救急センター	1,740	7.2	4,555	12.5
総合周産期母子 医療センター	母性胎児部門	—	9,648	26.4
	新生児内科部門	—	7,395	20.3
	新生児外科部門	—	1,590	4.4
先端医工学診療部	117	0.5	65	0.2
医科小計	574,024	2,372.0	379,383	1,039.4
小児歯科・スペシャルニーズ歯科	8,897	36.8		
矯正歯科	14,256	58.9		
歯内治療科	18,262	75.5		
歯周病科	15,542	64.2		
義歯補綴科	19,449	80.4		
咬合補綴科	17,896	74.0		
顎口腔外科	29,691	122.7	7,404	20.3
顔面口腔外科	20,754	85.8	6,535	17.9
歯科麻酔科	1,266	5.2		
口腔画像診断科	6,883	28.4		
口腔総合診療科	18,867	78.0		
高齢者歯科・全身管理歯科	10,870	44.9		
歯科小計	182,633	754.7	13,939	38.2
合 計	756,657	3,126.7	393,322	1,077.6

(単位 人)

※単位未満は四捨五入で、合計等の計算が若干合わない場合があります。

病棟別

(令和7年度)

病棟名	診療科名	病床数 (令和8年3月31日現在)	入院		病床稼働率
			延べ患者数	1日平均患者数	
ウエストウイング棟	1階病棟	精神科神経科	41	11,908	79.6%
		精神科神経科	0		
	2階病棟	休床	19	0	0.0%
		小計	19	0.0	
		ICU	12		
	3階病棟	救命救急センターICU	10	9,930	85.0%
		冠動脈疾患治療部	10		
		小計	32	27.2	
	4階病棟	ハイケア病棟	10	2,897	79.4%
	5階1病棟	総合周産期母子医療センター	28	9,765	95.5%
南棟	5階2病棟	総合周産期母子医療センター	31	8,736	77.2%
	6階1病棟	産科婦人科	45	14,556	88.6%
		泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科	31		
		肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、 消化管外科(2)、呼吸器外科(2)、 乳腺外科(2)、血管外科	6	15,464	94.1%
		共通	8		
		小計	45	42.4	
	7階1病棟	耳鼻咽喉・頭頸部外科	43		
		形成外科	6	16,586	89.1%
		共通	2		
		小計	51	45.4	
北棟	7階2病棟	脳神経外科	28		
		耳鼻咽喉・頭頸部外科	2	12,248	86.0%
		脳神経内科	2		
		共通	7		
		小計	39	33.6	
	8階1病棟	肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、 消化管外科(2)、呼吸器外科(2)、 乳腺外科(2)、血管外科	30	16,551	90.7%
		皮膚科	20		
		小計	50	45.3	
	8階2病棟	肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、 消化管外科(2)、呼吸器外科(2)、 乳腺外科(2)、血管外科	44	15,387	95.8%
		総合診療科	17		
北棟	9階1病棟	胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科、 消化管外科(1)、乳腺外科(1)、 内分泌外科、呼吸器外科(1)	26	15,254	87.1%
		先端医工学診療部	1		
		共通	4		
		小計	48	41.8	
	9階2病棟	胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科、 消化管外科(1)、乳腺外科(1)、 内分泌外科、呼吸器外科(1)	39	14,265	90.9%
		共通	4		
		小計	43	39.1	
	10階1病棟	整形外科	41		
		循環器内科	1	15,750	95.9%
		心臓血管外科	3		
北棟		小計	45	43.2	
	10階2病棟	整形外科	43		
		リハビリテーション部	2	16,465	94.0%
		救命救急センター	1		
		共通	2		
		小計	48	45.1	
	11階1病棟	眼科	19		
		共通	15	10,688	86.1%
		小計	34	29.3	
	11階2病棟	眼科	29		
北棟		免疫・膠原病・感染症内科	6	13,243	95.5%
		共通	3		
		小計	38	36.3	
	3階病棟	循環器内科	28		
		心臓血管外科	20	19,329	88.3%
		血液・腫瘍・心血管内科	6		
		放線病棟	6		
		小計	60	53.0	
	6階1病棟	小児外科、成育外科、小腸移植外科	16		
		小児科	3	12,722	85.0%
北棟		共通	22		
		小計	41	34.9	
	6階2病棟	小児科	33	10,360	86.0%
		歯科	37		
	7階1病棟	脳神経内科	1	14,058	96.3%
		共通	2		
		小計	40	38.5	
	7階2病棟	脳神経内科	27		
		感染症病棟	11	12,109	87.3%
		小計	38	33.2	
北棟	8階1病棟	放射線科	24		
		免疫・膠原病・感染症内科	8	12,909	80.4%
		循環器内科	8		
		共通	4		
		小計	44	35.4	
	8階2病棟	呼吸器内科	40		
		ARO次世代医療センター	4	14,996	93.4%
		小計	44	41.1	
	9階1病棟	心療内科	30		
		内分泌代謝・糖尿病内科	2	12,075	80.7%
北棟		共通	9		
		小計	41	33.1	
	9階2病棟	内分泌代謝・糖尿病内科	11		
		肝臓・脾臓・胆道内科	33	15,185	90.4%
		共通	2		
		小計	46	41.6	
	10階1病棟	腎・高血圧・脳血管内科	31		
		肝臓・脾臓・胆道内科	14	13,687	79.8%
		消化管内科	2		
		小計	47	37.5	
北棟	10階2病棟	消化管内科	35		
		共通	8	12,544	79.9%
		小計	43	34.4	
	11階1病棟	血液・腫瘍・心血管内科	24		
		免疫・膠原病・感染症内科	18	13,325	86.9%
		小計	42	36.5	
	11階2病棟	血液・腫瘍・心血管内科	21		
		免疫・膠原病・感染症内科	6	10,469	89.6%
		共通	5		
		小計	32	28.7	
合 計		1,242	393,461	1,078.0	86.8%

(単位 人)

※単位未満は四捨五入で、合計等の計算が若干合わない場合があります。

(2) 別府地区(九州大学病院 別府病院)

診療科別

(令和7年度)

診療科名	外 来		入 院	
	延べ患者数	1日平均患者数	延べ患者数	1日平均患者数
内科	10,423	43.1	9,539	26.1
外科	6,225	25.7	8,011	21.9
整形外科	9,442	39.0	12,789	35.0
放射線科	2,832	11.7	676	1.9
婦人科	2,230	9.2	2,391	6.6
麻酔科	0	0.0	—	—
計	31,152	128.7	33,406	91.5

(単位 人)

病棟別

(令和7年度)

病棟名	診療科名	病床数 (令和8年3月31日現在)	入 院		病床稼働率
			延べ患者数	1日平均患者数	
3階北病棟	内科・放射線科	40	10,523	28.8	72.1%
3階南病棟	整形外科	40	12,303	33.7	84.3%
2階病棟	外科・婦人科	40	10,580	29.0	72.5%
計		120	33,406	91.5	76.3%

(単位 人)

診療科・病床数・患者数

(令和7年度)

診療科名	病床数	延べ患者数	
		入院	外来
血液・腫瘍・心血管内科	51		
免疫・膠原病・感染症内科	38		
消化管内科	37		
腎・高血圧・脳血管内科	31		
内分泌代謝・糖尿病内科	13		
肝臓・脾臓・胆道内科	47		
心療内科	30		
脳神経内科	30		
循環器内科	37		
呼吸器内科	40		
産科婦人科	45		
小児科	42		
胆道・脾臓・膵臓移植・腎臓移植外科、 消化管外科(1)、乳腺外科(1)、 内分泌外科、呼吸器外科(1)	65		
肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、 消化管外科(2)、呼吸器外科(2)、 乳腺外科(2)、血管外科	80		
整形外科	84		
脳神経外科	28		
心臓血管外科	23		
小児外科、成育外科、小腸移植外科	16		
形成外科	6		
皮膚科	20		
泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科	31	379,383	574,024
リハビリテーション科	2		
精神科神経科	41		
眼科	48		
耳鼻咽喉・頭頸部外科	45		
放射線科	24		
麻酔科蘇生科	0		
総合診療科	17		
先端分子・細胞治療科	—		
救命救急センター	1		
先端医学診療部	1		
ICU	12		
救命救急センター ICU	10		
冠動脈疾患治療部	10		
腎疾患治療部	—		
総合周産期母子医療センター	59		
リハビリテーション部	—		
ハイケア病床	10		
RI病床	6		
ARO次世代医療センター病床	4		
共通病床	102		
休床	19		
医科小計	1,205		
小児歯科・スペシャルニーズ歯科			
矯正歯科			
歯内治療科			
歯周病科			
義歯補綴科			
咬合補綴科			
顎口腔外科	37	13,939	182,633
顔面口腔外科			
歯科麻酔科			
口腔画像診断科			
口腔総合診療科			
高齢者歯科・全身管理歯科			
歯科小計	37		
内科	34		
外科	29		
整形外科	29		
放射線科	2		
婦人科	10	33,406	31,152
共通病床	16		
休床	0		
別府小計	120		
合 計	1,362	426,728	787,809

(単位 人)

※病床数は、令和8年3月31日現在のものを記載しています。

検査件数

(令和7年度)

区 分	総件数			外注検査(内数)	
	入院	外来	計	件数	保険点数*
尿・糞便等検査	86,309	185,561	271,870	2,781	616,759
血液学的検査	442,439	506,325	948,764	5,690	16,982,345
生化学的検査Ⅰ	2,360,058	3,185,257	5,545,315	20,122	2,844,624
生化学的検査Ⅱ	49,406	167,169	216,575	30,064	5,427,618
免疫学的検査	180,078	288,335	468,413	33,116	8,178,689
微生物学的検査	49,733	23,346	73,079	2,227	959,541
病理学的検査	3,603	22,188	25,791	1,375	17,993,945
検体検査小計	3,171,626	4,378,181	7,549,807	95,375	53,003,521
呼吸循環機能検査等	27,557	44,980	72,537	0	0
超音波検査等	16,280	41,801	58,081	0	0
監視装置による諸検査	208,033	4,323	212,356	0	0
脳波検査等	3,595	1,658	5,253	0	0
神経・筋検査	2,200	2,740	4,940	0	0
耳鼻咽喉科学的検査	42	5,563	5,605	0	0
眼科学的検査	2,603	167,148	169,751	0	0
臨床心理・神経心理検査	226	1,236	1,462	0	0
負荷試験等	1,705	1,906	3,611	0	0
内視鏡検査	4,052	17,377	21,429	0	0
その他	0	21	21	0	0
生体検査小計	266,293	288,753	555,046	0	0
採血・採液等	16,916	142,239	159,155	0	0
合 計	3,454,835	4,809,173	8,264,008	95,375	53,003,521

(単位 件)
※ただし*印を除く

死亡患者数及び病理解剖件数

医科部門

(令和7年度)

区 分	件数	(うち男女) 男・女
死 亡 患 者 数 (入院)	198 人	117・81
〃 (外来)	57 人	38・19
病理解剖件数 (本院)	21 件	13・8
〃 (受託)	2 件	1・1
〃 (その他)	0 件	0・0

(単位 件)

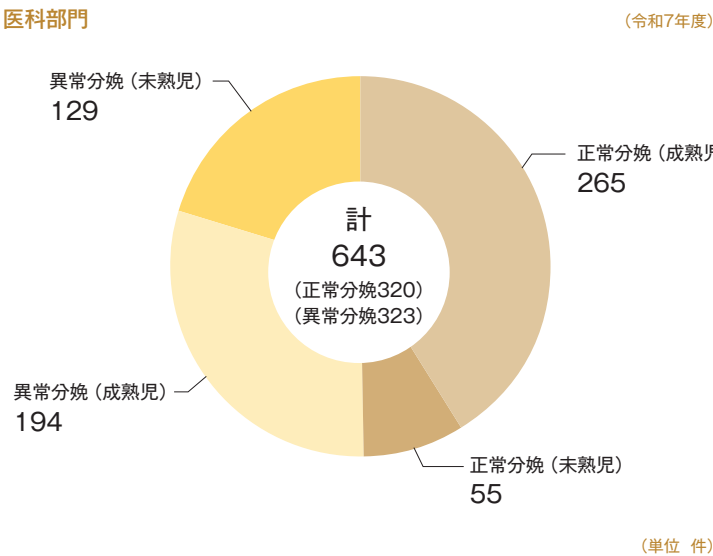
別府病院

(令和7年度)

区 分	件数	剖検率
死 亡 患 者 数	24 人	
病理解剖件数	0 件	0%

※剖検率には受託及びその他の病理解剖件数は含みません (単位 件)

分娩件数



画像検査件数及び放射線治療件数

(医科・歯科)

(令和7年度)

区 分	件数 (医科、歯科)
X線撮影 呼吸器	92,559
消化器	26,695
泌尿生殖器	385
脈管	4,008
骨	43,714
乳房	1,363
歯	21,295
非血管IVR	1,466
X線撮影小計	191,485
X線CT(医科)	45,859
CBCT(歯科)	3,372
MRI	18,151
CT・MRI小計	67,382
骨塩定量	2,892
骨塩定量小計	2,892
治療計画	1,469
治療計画用CT*	1,495
*画像診断管理加算あり	(4)
高エネルギー放射線治療	22,931
強度変調放射線治療(IMRT)	13,772
画像誘導放射線治療(IGRT)加算	14,440
直線加速器定位放射線治療	134
腔内照射	74
組織内照射	102
温熱療法、その他	0
放射線治療小計	54,417
PET、PET-CT	3,122
SPECT	1,243
シンチグラム	1,558
放射性同位元素内用療法	266
その他	0
核医学小計	6,189
腹部 超音波検査	4,470
乳腺・甲状腺 超音波検査	3,681
超音波小計	8,151
計	330,516

(単位 件)

手術件数

(令和7年度)

診療科名	件数(人数)
産科婦人科	490
消化管外科(1)、 胆道・脾臓・脾臓移植・腎臓移植外科、 呼吸器外科(1)、乳腺外科(1)、 内分泌外科	853
消化管外科(2)、 肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科、 呼吸器外科(2)、乳腺外科(2)、血管外科	1,067
整形外科	1,512
脳神経外科	476
心臓血管外科	670
小児外科、成育外科、小腸移植外科	498
皮膚科	252
泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科	579
眼科	2,261
耳鼻咽喉・頭頸部外科	646
総合周産期母子医療センター	343
形成外科	234
その他の診療科	555
医科小計	10,436
顎口腔外科	338
顔面口腔外科	414
小児歯科・スペシャルニーズ歯科	208
高齢者歯科・全身管理歯科	37
義歯補綴科	7
その他	34
歯科小計	1,038
内科	4
外科	443
整形外科	543
婦人科	132
別府小計	1,122
計	12,596

(単位 件)

救急外来患者数

(令和7年度)

科 別	疾病	外傷	交通外傷	中毒	溺水	熱傷	総計
血液・腫瘍・心血管内科	145	2					147
免疫・膠原病・感染症内科	36						36
消化管内科	161	1					162
腎・高血圧・脳血管内科	142						142
内分泌代謝・糖尿病内科	42						42
肝臓・脾臓・胆道内科	84						84
循環器内科	246	1					247
呼吸器内科	153	1					154
脳神経内科	41						41
総合診療科	45	23					68
心療内科	15						15
精神科神経科	26						26
救命救急センター	497	230	35	0	4	17	783
産科婦人科	497	1					498
産科婦人科周産	371						371
小児科	274	6					280
小児科周産	54						54
小児外科・成育外科・ 小腸移植外科	286	10					296
小児外科周産	7						7
脳神経外科	121	6					127
心臓血管外科	31	1					32
第一外科	116	1					117
第二外科	202	1					203
整形外科	28	7					35
形成外科	8	2	1				11
眼科	340	86				4	430
耳鼻咽喉・頭頸部外科	134	154					288
皮膚科	28					2	30
泌尿器・前立腺・腎臓・ 副腎外科	97	1					98
顎口腔外科	142	27					169
顔面口腔外科	144	28					172
歯内治療科	1						1
歯周病科	1						1
矯正歯科	7						7
小児歯科・ スペシャルニーズ歯科	1						1
高齢者歯科・全身管理科	3						3
咬合補綴科	1						1
口腔画像診断科	1						1
総 計	4,528	589	36	0	4	23	5,180

(単位 人)

※産科婦人科の患者数内訳の疾病に妊娠を含む

医療機関の承認・指定状況等

(令和8年4月1日現在)

入院基本料(特定機能病院入院基本料)

一般病棟	7対1入院基本料	入院時食事療養実施状況	有
精神病棟	13 対1入院基本料	基準寝具設備実施状況	有
		病衣貸与	無

法令による医療機関の指定等

法令による指定及び受託医療機関	指定年月日	
法令による医療機関の指定	昭和23年10月27日	
労働者災害補償保険法による医療機関	昭和23年11月 1日	
(児童福祉法)	(育成医療)	(昭和30年 3月30日)
(身体障害者福祉法)	(更生医療)	(昭和30年 3月30日)
被爆者援護法	認定医療	昭和33年 2月17日
(精神保健法による医療機関)		(昭和34年 4月 6日)
母子保健法	養育医療	昭和34年 4月26日
戦傷病者特別援護法医療機関		昭和38年11月 1日
被爆者援護法	一般医療(医)	昭和43年 7月 1日
消防法による救急医療(救急病院・診療所)		昭和53年12月 2日
生活保護法による医療機関		昭和56年 5月 1日
臨床修練指定病院		昭和63年 3月29日
(健康保険法による【特定承認】保険医療機関)		(平成 4年 8月 1日)
(国民健康保険法による【特定承認】療養取扱機関)		(平成 4年 8月 1日)
特定機能病院の承認		平成 7年 4月 1日
災害拠点病院		平成 8年12月27日
結核予防法による医療機関		平成15年10月 1日
被爆者援護法	一般医療(歯)	平成15年10月 1日
救命救急センター		平成18年 8月 1日
障害者総合支援法による精神通院医療		平成19年 2月 1日
障害者総合支援法による更生医療・育成医療		平成19年 3月 1日
都道府県がん診療連携拠点病院		平成20年 2月 8日
福岡県総合周産期母子医療センター		平成20年 3月18日
中国残留邦人等支援法		平成20年 4月 1日
小児がん拠点病院		平成25年 2月 8日
小児救命救急センター		平成25年 5月 1日
難病の患者に対する医療等に関する法律による指定医療機関		平成27年 1月 1日
児童福祉法による指定小児慢性特定疾病医療機関		平成27年 1月 1日
臨床教授等指定病院		平成27年 1月 9日
造血幹細胞移植推進拠点病院の指定		平成27年 8月 7日
臨床研究中核病院の承認		平成28年 1月27日
がんゲノム医療中核拠点病院の指定		平成30年 2月16日
原子力災害拠点病院		平成30年 3月30日
難病診療連携拠点病院		令和 元年12月 1日
福岡県てんかん支援拠点病院		令和 5年 1月23日

小児慢性特定疾病

悪性新生物	慢性腎疾患	慢性呼吸器疾患
慢性心疾患	内分泌疾患	膠原病
糖尿病	先天性代謝異常	血液疾患
免疫疾患	神経・筋疾患	慢性消化器疾患
染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群		皮膚疾患群
骨系統疾患	脈管系疾患	

先進医療

先進医療の名称	承認年月日
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	平成29年 3月 1日
周期期デュルバルマブ静脈内投与療法	令和 2年 4月 1日
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	令和 3年 2月 1日
S-1 内服投与並びにバクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	令和 3年 4月 1日
シクロホスファミド静脈内投与療法成人T細胞白血病	令和 3年 6月 1日
術前のゲムシタピン静脈内投与およびナブーバクリタキセル静脈内投与の併用療法	令和 4年11月 1日
生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	令和 5年 3月 1日
生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん	令和 6年 1月 1日
反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病	令和 6年 8月 1日
抗ネオセルフβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体検査	令和 7年 8月 1日

臓器移植施設の承認状況

腎 臓 移 植	平成 7 年 6 月 3 日
脾 臓 移 植	平成11年 2 月15 日
小 腸 移 植	平成11年12月24 日
肝 臓 移 植	平成12年 5 月22 日
心 臓 移 植	平成15年 6 月 2 日
小児心臓移植	令和 2 年 5 月26 日

先天性血液凝固因子障害等治療研究事業

先天性血液凝固因子欠乏症
血液凝固因子製剤の投与に起因する HIV 感染症

肝炎治療費助成事業

B型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン治療
B型慢性肝疾患に対する核酸アナログ製剤治療
C型慢性肝疾患の根治を目的としたインターフェロン治療
C型慢性肝疾患の根治を目的としたインターフェロンフリー治療

特定医療

1～110は平成27年1月から、111～306は同年7月から、307～330は平成29年4月から、331は平成30年4月から、332～333は令和元年7月から、334～338は令和3年11月から、339～341は令和5年4月から、342～348は令和7年4月から医療費助成を開始

1 球脊髄性筋萎縮症	88 慢性血栓塞栓性肺高血圧症	175 ウィーバー症候群	262 原発性高カイロミクロン血症
2 筋萎縮性側索硬化症	89 リンパ脈管筋腫症	176 コフィン・ローリー症候群	263 脳腫黄色腫症
3 脊髄性筋萎縮症	90 網膜色素変性症	177 ジュベール症候群関連疾患	264 無βリボタンパク血症
4 原発性側索硬化症	91 バッド・キアリ症候群	178 モワット・ウィルソン症候群	265 脂肪萎縮症
5 進行性核上性麻痺	92 特発性門脈圧亢進症	179 ウィリアムズ症候群	266 家族性地中海熱
6 バーキンソン病	93 原発性胆汁性胆管炎	180 ATR-X症候群	267 高IgD症候群
7 大脳皮質基底核変性症	94 原発性硬化性胆管炎	181 クルーゾン症候群	268 中條・西村症候群
8 ハンチントン病	95 自己免疫性肝炎	182 アペール症候群	269 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群
9 神経有棘赤血球症	96 クローン病	183 ファイファー症候群	270 慢性再発性多発性骨髄炎
10 シャルコー・マリー・トゥース病	97 潰瘍性大腸炎	184 アントレー・ピクスラー症候群	271 強直性脊椎炎
11 重症筋無力症	98 好酸球性消化管疾患	185 コフィン・シリズ症候群	272 進行性骨化性線維異形成症
12 先天性筋無力症候群	99 慢性特発性偽性腸閉塞症	186 ロスモンドトムソン症候群	273 肋骨異常を伴う先天性側弯症
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	100 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	187 歌舞伎症候群	274 骨形成不全症
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多発性運動ニューロパチー	101 腸管神経節細胞減少症	188 多脾症候群	275 タナトフォリック骨異形成症
15 封入体筋炎	102 ルピンシュタイン・ティビ症候群	189 無脾症候群	276 軟骨無形成症
16 クロウ・深瀬症候群	103 CFC症候群	190 鯉耳腎症候群	277 リンパ管腫症／ゴーハム病
17 多系統萎縮症	104 コステロ症候群	191 ウェルナー症候群	278 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	105 チャージ症候群	192 コケイン症候群	279 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)
19 ライソゾーム病	106 クリオピリン関連周期熱症候群	193 ブラダー・ウィリ症候群	280 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)
20 副腎白質ジストロフィー	107 若年性特発性関節炎	194 ソース症候群	281 クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群
21 ミトコンドリア病	108 TNF受容体関連周期性症候群	195 スーナン症候群	282 先天性赤血球形成異常性貧血
22 もやもや病	109 非典型性溶血性尿毒症候群	196 ヤング・シンブロン症候群	283 後天性赤芽球癆
23 プリオン病	110 ブラウ症候群	197 1p36欠失症候群	284 ダイアモンド・ブラックファン貧血
24 亜急性硬化性全脳炎	111 先天性ミオパチー	198 4p欠失症候群	285 ファンコニ貧血
25 進行性多発性白質脳症	112 マリネスコ・シェーグレン症候群	199 5p欠失症候群	286 遺伝性鉄芽球性貧血
26 HTLV-1関連脊髄症	113 筋ジストロフィー	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	287 エプスタイン症候群
27 特発性基底核石灰化症	114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	201 アンジェルマン症候群	288 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症
28 全身性アミロイドーシス	115 遺伝性周期性四肢麻痺	202 スミス・マギニス症候群	289 クロンカイト・カナダ症候群
29 ウルリッヒ病	116 アトピー性脊髄炎	203 22q11.2欠失症候群	290 非特異性多発性小腸潰瘍症
30 遠位型ミオパチー	117 脊髄空洞症	204 エマヌエル症候群	291 ヒルシュスプリング病(全結腸又は小腸型)
31 ベスレムミオパチー	118 脊髄髄膜瘤	205 脆弱X症候群関連疾患	292 総排泄腔反症
32 自己食空腔性ミオパチー	119 アイザックス症候群	206 脆弱X症候群	293 総排泄腔遺残
33 シュワルツ・ヤンベル症候群	120 遺伝性ジストニア	207 修動脈幹遺残症	294 先天性横隔膜ヘルニア
34 神経線維腫症	121 脳内鉄沈着神経変性症	208 修正大血管転位症	295 乳幼児肝巨大血管腫
35 天疱瘡	122 脳表ヘモジデリン沈着症	209 完全大血管転位症	296 胆道閉鎖症
36 表皮水泡症	123 HTRA1関連脳小血管病	210 単心室症	297 アラジール症候群
37 膿疱性乾癬(汎発型)	124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	211 左心低形成症候群	298 遺伝性腭炎
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	125 神経軸索スフェア形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	212 三尖弁閉鎖症	299 囊胞性線維症
39 中毒性表皮壊死症	126 ヘルパー病	213 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	300 IgG4関連疾患
40 高安静脈炎	127 前頭側頭葉変性症	214 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	301 黄斑ジストロフィー
41 巨細胞性動脈炎	128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	215 ファロー四徴症	302 レーベル遺伝性視神経症
42 結節性多発動脈炎	129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	216 両大血管右室起始症	303 アッシャー症候群
43 顕微鏡的多発血管炎	130 先天性無痛無汗症	217 エプスタイン病	304 若年発症型両側性感音難聴
44 多発血管炎性肉芽腫症	131 アレキサンダー病	218 アルポート症候群	305 遅発性内リンパ水腫
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	132 先天性核上性球麻痺	219 ギャロウェイ・モウト症候群	306 好酸球性副鼻腔炎
46 悪性関節リウマチ	133 メビウス症候群	220 急速進行性糸球体腎炎	307 カナバン病
47 バージャー病	134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	221 抗糸球体基底膜腎炎	308 進行性白質脳症
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	135 アイカルディ症候群	222 一次性ネフロローゼ症候群	309 進行性ミオクローヌステんかん
49 全身性エリテマトーデス	136 片側巨脳症	223 一次性膜性増殖性糸球体腎炎	310 先天異常症候群
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	137 限局性皮質異形成	224 紫斑病性腎炎	311 先天性三尖弁狭窄症
51 全身性強皮症	138 神経細胞移動異常症	225 先天性腎性尿崩症	312 先天性僧帽弁狭窄症
52 混合性結合組織病	139 先天性大脳白質形成不全症	226 間質性膀胱炎(ハンナ型)	313 先天性肺静脈狭窄症
53 シェーグレン症候群	140 ドラベ症候群	227 オスラー病	314 左肺動脈右肺動脈起始症
54 成人発症スチル病	141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	228 閉塞性細気管支炎	315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症
55 再発性多発乾癬炎	142 ミオクロニー欠伸てんかん	229 肺動脈白症(自己免疫性又は先天性)	316 カルニチン回路異常症
56 ペーチェット病	143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	230 肺動脈低換気症候群	317 三頭筋欠損症
57 特発性拡張型心筋症	144 レノックス・ガストー症候群	231 α1-アンチトリプシン欠乏症	318 シトリン欠損症
58 肥大型心筋症	145 ウェスト症候群	232 カーニー複合	319 セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症
59 拘束型心筋症	146 大田原症候群	233 ウォルフラム症候群	320 先天性グリコシルホスファジリノシドール(GPI)欠損症
60 再生不良性貧血	147 早期ミオクロニー脳症	234 ペルオキシノーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	321 非ケトーシス型高グリシン血症
61 自己免疫性溶血性貧血	148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	235 副甲状腺機能低下症	322 β-ケトチオラーゼ欠損症
62 発作性夜間ヘモグロビン尿症	149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	236 偽性副甲状腺機能低下症	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症
63 免疫性血小板減少症	150 環状20番染色体体症候群	237 副腎皮質刺激ホルモン不応症	324 メチルグルタコン酸尿症
64 血栓性血小板減少性紫斑病	151 ラスムッセン脳炎	238 ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	325 遺伝性自己炎症疾患
65 原発性免疫不全症候群	152 PCDH19関連症候群	239 ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	326 大理石骨病
66 IgA腎症	153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	240 フェニルケトン尿症	327 特発性血栓性(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)
67 多発性嚢胞腎	154 睡眠時呼吸障害を示す発達性てんかん性脳症及びてんかん性脳症	241 高チロシン血症1型	328 前眼部形成異常
68 黄色靱帯骨化症	155 ランドウ・クレフナー症候群	242 高チロシン血症2型	329 無虹彩症
69 後縦靱帯骨化症	156 レット症候群	243 高チロシン血症3型	330 先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症
70 広範脊柱管狭窄症	157 スタージ・ウェーバー症候群	244 メーブルシロップ尿症	331 特異性多中心性キャッスルマン病
71 特発性大腿骨頭壊死症	158 結節性硬化症	245 プロピオン酸血症	332 膠様滴状角膜ジストロフィー
72 下垂体性ADH分泌異常症	159 色素性乾皮症	246 メチルマロン酸血症	333 ハッチンソン・ギルフォード症候群
73 下垂体性TSH分泌亢進症	160 先天性魚鱗癬	247 イソ吉草酸血症	334 脳クレアチン欠乏症候群
74 下垂体性PRL分泌亢進症	161 家族性良性慢性天疱瘡	248 グルコーストランスポーター1欠損症	335 ネフロノ病
75 クッシング病	162 類天疱瘡(後天性表皮水泡症を含む。)	249 グルタル酸血症1型	336 家族性低βリボタンパク血症1(ホモ接合体)
76 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	163 特発性後天性全身性無汗症	250 グルタル酸血症2型	337 ホモシチン尿症
77 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	164 眼皮皮膚皮症	251 尿素サイクル異常症	338 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症
78 下垂体前葉機能低下症	165 肥厚性皮膚骨膜炎	252 リジン尿性蛋白不耐症	339 MECP2重複症候群
79 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	166 弾性線維性仮性黄色腫	253 先天性葉酸吸収不全	340 線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)
80 甲状腺ホルモン不応症	167 マルファン症候群/ロイス・ディーツ症候群	254 ボルフィリン症	341 TRPV4異常症
81 先天性副腎皮質酵素欠損症	168 エーラス・ダンロス症候群	255 複合カルボキシルーゼ欠損症	342 LMNB1関連大脳白質脳症
82 先天性副腎低形成症	169 メンケス病	256 筋型糖原病	343 PURA関連神経発達異常症
83 アジノ病	170 オクシビタル・ホーン症候群	257 肝型糖原病	344 極長鎖アシル-CoA脱水素酵素欠損症
84 サルコイドーシス	171 ウィルソン病	258 ガラクトース-1-リン酸グリシトランスフェラーゼ欠損症	345 乳児発症STING関連血管炎
85 特発性間質性肺炎	172 低ホスファターゼ症	259 レシチンコレステロールアシトランスフェラーゼ欠損症	346 原発性肝外門脈閉塞症
86 肺動脈性肺高血圧症	173 VATER症候群	260 シトステロール血症	347 出血性線溶異常症
87 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	174 那須・ハコラ病	261 タンジール病	348 ロウ症候群

施設基準の承認状況

本院は次の施設基準の承認を受けています。(令和8年4月1日現在)

基本診療料の施設基準等	
入院基本料の施設基準等	特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1)
	特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1)
	情報通信機器を用いた診療
	医療DX推進体制整備加算6
	入院栄養管理体制加算
	救急医療管理加算1・2
	超急性期脳卒中加算
	診療録管理体制加算1
	医師事務作業補助体制加算2(20対1)
	急性期看護補助体制加算50対1
	夜間100対1急性期看護補助体制加算
	夜間看護体制加算(夜間100対1急性期看護補助体制加算に対する加算)
	看護補助体制充実加算2
	看護職員夜間配置加算12対11
	看護補助加算2(精神科病棟のみ)
	療養環境加算
	重症者等療養環境特別加算
	無菌治療室管理加算2
	放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素)
	放射線治療病室管理加算(密封小線源)
	緩和ケア診療加算
	精神科身体合併症管理加算
	精神科リエゾンチーム加算
	摂食障害入院医療管理加算
	栄養サポートチーム加算
	歯科医師連携加算(栄養サポートチーム加算の加算)
	医療安全対策加算1
	感染対策向上加算1
	指導強化加算(感染対策向上加算1の加算)
	抗菌薬適正使用体制加算(感染対策向上加算1の加算)
	患者サポート体制充実加算
	重症患者初期支援充実加算
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算
	ハイリスク分娩等管理加算(ハイリスク分娩管理加算)
	術後疼痛管理チーム加算
	後発医薬品使用体制加算1
	病棟薬剤業務実施加算1・2
	薬剤業務向上加算
	データ提出加算2のイ
入院基本料等加算の施設基準等	入退院支援加算1・3
	入院時支援加算
	地域連携診療計画加算(入退院支援加算1の加算)
	総合機能評価加算(入退院支援加算1の加算)
	せん妄ハイリスク患者ケア加算
	精神疾患診療体制加算
	精神科急性期医師配置加算
	地域医療体制確保加算
	救命救急入院料1(CCU病棟)
	救命救急入院料3(ハイケア病棟)
	救命救急入院料4(救命ICU)
	精神疾患診断治療初回加算
	救急体制充実加算2
	小児加算(救命救急入院料の加算)
	早期栄養介入管理加算(救命救急入院料の加算)
	特定集中治療室管理料1
	小児加算(特定集中治療室管理料の加算)
	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)
	総合周産期特定集中治療室管理料(新生児集中治療室管理料)
	新生児治療回復室入院医療管理料
	小児入院医療管理料1
	小児入院医療管理料1・注2
	無菌治療管理加算(小児入院医療管理料1の加算)
	養育支援体制加算(小児入院医療管理料1の加算)
	短期滞在手術等基本料1

特掲診療料の施設基準等	
医学管理等	外来栄養食事指導料1注3
	遠隔モニタリング加算(心臓ペースメーカー指導管理料)
	腎代替療法実績加算(慢性維持透析患者外来医学管理料の加算)
	糖尿病合併症管理料
	がん性疼痛緩和指導管理料
	難治性がん性疼痛緩和指導管理加算(がん性疼痛緩和指導管理料の加算)
	がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ
	移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)
	移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)
	糖尿病透析予防指導管理料
	小児運動器疾患指導管理料
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料1・2
	婦人科特定疾患治療管理料
	腎代替療法指導管理料
	一般不妊治療管理料
	生殖補助医療管理料2
	下肢創傷処置管理料
	外来放射線照射診療料
	外来腫瘍化学療法診療料1
	連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料1の加算)
	がん薬物療法体制充実加算(外来腫瘍化学療法診療料の加算)
	ニコチン依存症管理料
	療養・就労両立支援指導料
	相談支援加算(療養・就労両立支援指導料の加算)
	がん治療連携計画策定料
	ハイリスク妊産婦連携指導料1・2
	肝炎インターフェロン治療計画料
	薬剤管理指導料
	地域連携診療計画加算(診療情報提供料Ⅰの加算)
	医療機器安全管理料1・2
	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
	遺伝学的検査
	骨髄微小残存病変量測定
	BRCA1／2遺伝子検査
	がんゲノムプロファイリング検査
	角膜ジストロフィー遺伝子検査
	先天性代謝異常症検査
	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
	HPV核酸検査及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV核酸検出を含まないもの)
	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
検査	検体検査管理加算(Ⅳ)
	遺伝カウンセリング加算
	国際標準検査管理加算
	遺伝子腫瘍カウンセリング加算
	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
	胎児心エコー法
	ヘッドアップティルト試験
	長期継続頭蓋内脳波検査
	長期脳波ビデオ同時記録検査1
	脳波検査判断料1
	中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
	単線維筋電図
	脳磁図(自発活動を測定するもの)
	脳磁図(その他のもの)
	神経学的検査
	補聴器適合検査
	黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図
	ロービジョン検査判断料
	内服・点滴誘発試験

検査	センチネルリンパ節生検(片側)
	経頸静脈的肝生検
	前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
画像診断	経気管支凍結生検法
	画像診断管理加算4
	遠隔画像診断
	ボジトロン断層撮影、ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影若しくはボジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
	ボジトロン断層撮影、ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影若しくはボジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
	CT撮影及びMRI撮影
	冠動脈CT撮影加算
	血流予備量比コンピューター断層撮影
	外傷全身CT加算
	心臓MRI撮影加算
	乳房MRI撮影加算
	小児鎮静下MRI撮影加算
	頭部MRI撮影加算
	全身MRI撮影加算
	全身MRI撮影加算
投薬	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
注射	外来化学療法加算1
リハビリテーション	無菌製剤処理料
	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
	がん患者リハビリテーション料
	各リハビリテーション料の初期加算
	経頭蓋磁気刺激療法
	療養生活継続支援加算
	認知療法・認知行動療法1
精神科専門療法	精神科作業療法
	精神科ショート・ケア「小規模なもの」
	精神科デイ・ケア「小規模なもの」
	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
	医療保護入院等診療料
処置	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
	多血小板血漿処置
	硬膜外自家血注入
	人工腎臓・慢性維持透析を行った場合1
	導入期加算3
	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
	透析液水質確保及び慢性維持透析濾過加算
	ストーマ合併症加算
	皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
	組織拡張器による再建術(一連につき)(乳房(再建手術))の場合に限る。)
手術	処理骨再建加算
	骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
	人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)
	後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
	椎間板内酵素注入療法
	腫瘍脊椎骨全摘術
	緊急穿頭血腫除去術
	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)(及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術)
	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
	角結膜悪性腫瘍切除手術
	角膜移植(内皮移植加算)
	羊膜移植術
	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
	緑内障手術(流出路再建術(眼内法))

手術

緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
網膜再建術
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器植込及び植込型骨導補聴器交換術
人工中耳植込術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下筋層切開術
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腸腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下弁置換術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
経皮的僧帽弁クリップ術
胸腔鏡下心房中隔欠損閉鎖術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る。)
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る)
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカーの場合)
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(経静脈リード又は皮下植込型リードを用いる場合)
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(心筋リードを用いる場合)
両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
補助人工心臓
小児補助人工心臓
植込型補助人工心臓(非拍動流型)
同種心移植術

手術

経皮の下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
骨格筋由来細胞シート心表面移植術
内視鏡的逆流防止粘膜切除術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
生体部分肝移植術
同種死体肝移植術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下膵中央切除術
同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
生体部分小腸移植術
同種死体小腸移植術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
同種死体腎移植術
生体腎移植術
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
人工尿道括約筋植込・置換術
膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰莖手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
精巣温存術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
胎児胸腔・羊水腔シャント術
胎児輸血術及び臍帯穿刺
体外式膜型人工肺管理料
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。.)に掲げる手術
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
乳房切除術(遺伝子乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)

子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝子乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
輸血管理料Ⅰ
貯血式自己血輸血管理体制加算
コーディネート体制充実加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料(Ⅰ)
麻酔管理料(Ⅱ)
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
1回線量増加加算(前立腺照射の場合)
強度変調放射線治療(IMRT)
画像誘導放射線治療加算(IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
画像誘導密封小線源治療加算
病理診断管理加算2
悪性腫瘍病理組織標本加算
保険医療機関間の連携による病理診断
看護職員処遇改善評価料48
外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(Ⅰ)
入院ベースアップ評価料73

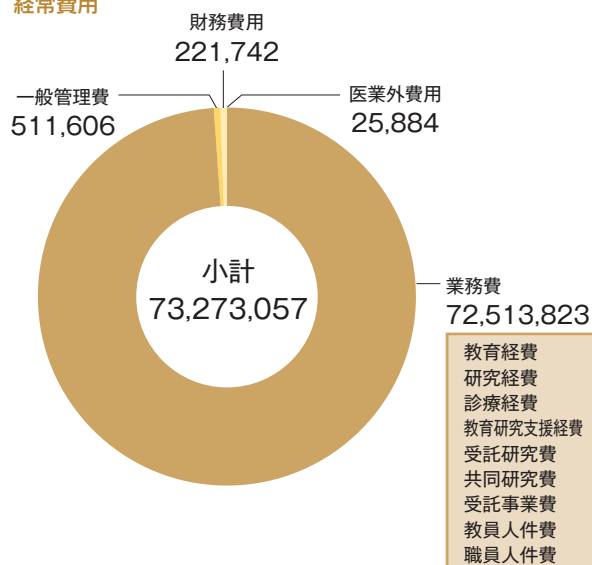
入院時食事療養の基準等
入院時食事療養(Ⅰ)

歯科特有のもの
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療医療安全対策加算2
歯科外来診療感染対策加算4
歯科診療特別対応連携加算
地域歯科診療支援病院入院加算
歯科治療時医療管理料
在宅患者歯科治療時医療管理料
口腔細菌定量検査
有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査
精密触覚機能検査
歯科画像診断管理加算1・2
手術用顕微鏡加算
口腔粘膜処置
う蝕歯無痛の高洞形成加算
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算
光学印象
有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1・2
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、
下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科診療に係るものに限る。)
歯周組織再生誘導手術
手術時歯根面レーザー応用加算
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
歯根端切除手術の注3
レーザー機器加算
歯科麻酔管理料
口腔病理診断管理加算2
クラウン・ブリッジ維持管理料
歯科矯正診断料
歯科口腔リハビリテーション料2
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)

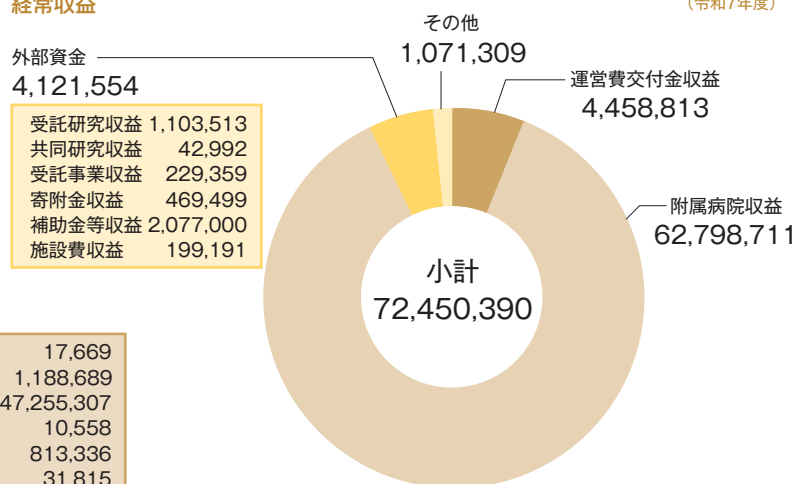
経理状況

(1) 経営状況

経常費用



経常収益



(令和7年度)

(金額単位: 千円)

※単位未満は切捨のため、円グラフの計算が合わない箇所があります

(2) 外部資金受入状況

(令和7年度)

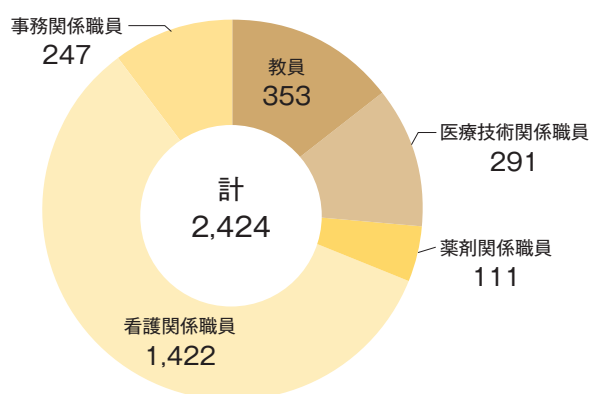
事項	医科		歯科		別府病院		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
受託研究(一般・臨床)	88	254,535	1	9,100	1	36	90	263,671
受託研究(治験)	341	908,036	0	0	4	503	345	908,539
共同研究(一般・臨床)	14	88,957	0	0	0	0	14	88,957
寄附金	345	247,022	7	9,750	15	11,550	367	268,322
科学研究費補助金(文科省)	180	295,450	43	89,730	11	17,030	234	402,210
科学研究費補助金(厚労省)	2	10,579	0	0	0	0	2	10,579
AMED委託費	26	209,733	0	0	3	4,575	29	214,308
補助金	34	2,274,682	1	6,151	3	50,600	38	2,331,433

※本院の研究者が研究代表者を務める研究課題に限る

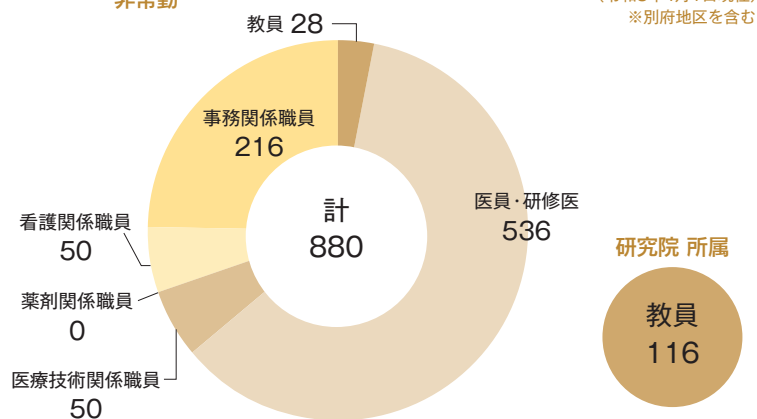
(金額単位: 千円)

職員現員表

常勤



非常勤



(令和8年4月1日現在)

※別府地区を含む

研究院 所属

教員
116研究院教員数は、医学研究院・歯学研究院(臨床系) 所属で外数
(単位: 人)

施設

(1) 福岡地区(九州大学病院)

(令和8年4月1日現在)

敷地面積		建物面積											
病院地区	病 院	鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄筋コンクリート造		鉄骨造		煉瓦ブロック造		木 造		計	
		建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積
308,705	172,777	17,619	135,153	16,466	58,702	1,884	1,899	40	40	45	45	36,054	195,839

(単位: m²)

(2) 別府地区(別府病院)

(令和8年4月1日現在)

（令和6年4月1日現在）											
敷地面積				建物面積							
別府地区	別府病院	鉄筋コンクリート造		鉄骨造		煉瓦ブロック造		木造		計	
		建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積	建築面積	延床面積
100,217	68,696	9,578	24,565	1,032	1,819	10	10	82	82	10,702	26,476

(単位: m²)

*職員宿舍含む

建物階別一覧

(令和8年4月1日現在)

	南棟	北棟	外来診療棟
ウェストウイング棟	11階 眼科 免疫・膠原病・感染症内科	免疫・膠原病・感染症内科 血液・腫瘍・心血管内科	5階 管理部門
	10階 整形外科 リハビリテーション科 循環器内科 心臓血管外科 救命救急センター	腎・高血圧・脳血管内科 肝臓・膵臓・胆道内科 消化管内科 腎疾患治療部	4階 西 外科／呼吸器内科／心療内科 先端医工学診療部 ストーム看護外来 福岡県摂食障害治療支援センター
	9階 胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植外科 乳腺外科／呼吸器外科 消化管外科／内分泌外科 総合診療科 先端医工学診療部	心療内科 内分泌代謝・糖尿病内科 肝臓・膵臓・胆道内科	東 産科婦人科／助産師外来 ペインクリニック(麻酔科蘇生科) 再生歯科・インプラントセンター リンパ浮腫外来
	8階 肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科 消化管外科／呼吸器外科 血管外科／乳腺外科 皮膚科	免疫・膠原病・感染症内科 放射線科 呼吸器内科 ARO次世代医療センター病棟	3階 西 内科／先端分子・細胞治療科 採血室／外来検査室 看護指導室(糖尿病フットケア外来／ 造血細胞移植後患者フォローアップ外来(成人)／ 糖尿病透析予防指導外来)
	7階 耳鼻咽喉・頭頸部外科／形成外科 脳神経外科／脳神経内科	顎口腔外科／顔面口腔外科 脳神経内科 感染症病床(小児・成人)	東 ハートセンター外来 循環器内科／血液・腫瘍・心血管内科 心臓血管外科 皮膚科／耳鼻咽喉・頭頸部外科 形成外科
ARO次世代医療センター	6階 産科婦人科 泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科／消化管外科 肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科／呼吸器外科 乳腺外科・血管外科	小児医療センター 小児外科・成育外科・小腸移植外科 小児科	2階 西 脳神経内科 脳神経外科(もやもや病専門外来／ 間脳下垂体専門外来) 泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科 精神科神経科 子どものこころの診療部
管理部門	5階 総合周産期母子医療センター 母性胎児部門 新生児部門 周産母子共通病床	小児外来 小児科／小児外科・成育外科・小腸移植外科 小児AYAがんフォローアップ外来／ トランジショナルケア外来／小児漢方外来 小児造血細胞移植後患者フォローアップ外来 歯科外来 小児歯科・スペシャルニーズ歯科 矯正歯科(デンタル・マキシロフェイシャルセンター) 顎口腔外科／顔面口腔外科／高齢者歯科・全身管理歯科／歯科麻酔科	東 眼科／外来化学療法室 緩和ケアセンター 痛みの緩和ケア外来／こころの緩和ケア外来 がん看護外来／がん専門薬剤師外来
油症ダイオキシン研究診療センター ARO次世代医療センター 先端医療オープン イノベーションセンター	4階 救命救急センター(ハイクア病棟) 腎疾患治療部(透析室・腹膜透析外来) 病理診断科・病理部 愛の図書室	歯科外来 歯内治療科／歯周病科 咬合補綴科／義歯補綴科 口腔画像診断科／口腔ケア・予防外来 口腔総合診療科／歯科総合予診 周術期口腔ケアセンター	1階 西 総合診療科／整形外科／放射線科 医療連携センター／国際診療支援センター がん相談支援センター・小児がん相談支援センター 患者相談支援室／在宅療養支援室 社会福祉相談窓口／セカンドオピニオン外来 院内お薬お渡し口 ARO次世代医療センター窓口 がんゲノム外来相談窓口 レストラン／コンビニエンスストア
臨床教育研修センター	3階 手術部 集中治療部 冠動脈疾患治療部 CCU 救命救急センター ICU 小児救命救急センター	ハートセンター 循環器内科／心臓血管外科 血液・腫瘍・心血管内科／放射線部(心臓血管造影) アイソトープ治療センター／RI病床 GMP 施設	東 入退院・周術期支援センター(入院説明・検査説明) CD・文書受付 総合案内／初診・再診・入院受付 支払・案内票提出窓口 公費相談窓口／院外処方せん受付 ATM
内視鏡外科手術トレーニングセンター	2階 遺伝子・細胞療法部 輸血センター 検査部(検体検査) 栄養相談室	検査部(検体検査・生理検査) メディカル・インフォメーションセンター／がんセンター ブレインセンター／福岡県・福岡市難病相談支援センター 未診断・未指定難病相談支援センター 福岡市認知症疾患医療センター／医療安全管理部 グローバル感染症センター がんゲノム外来・遺伝カウンセリング外来 先端医工学診療部／移植医療センター／栄養相談室	東 核医学・PETセンター
精神科神経科 分子イメージングセンター	1階 救命救急センター(外来) 小児救命救急センター 放射線部(胸腹部・造影撮影・透視撮影・骨塩定量CT) リハビリテーション部 時間外受付／防災センター	放射線部(血管造影・MRI・超音波・骨撮影) 光学医療診療部(内視鏡室)	
精神科神経科	B1階 放射線治療部門(放射線治療) サプライセンター (滅菌部門・物品供給部門)	MEセンター 栄養管理室(栄養管理室・給食室・厨房) サプライセンター	

所在地略図・建物配置図

(1) 福岡地区(九州大学病院 医科・歯科部門)

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1 TEL:092-641-1151(代表)



- ① 医学部基礎研究A棟 ♥
② 医学部基礎研究B棟 ♥

医学系学府医療経営・管理学専攻

- ③ 医学部臨床研究棟A棟
環境発達医学研究センター

④ 医学部臨床研究棟B棟

⑤ 医学部臨床研究棟共通棟 ♥

⑥ 医学部臨床研究棟中央会議棟

⑦ 医学部保健学科本館 ♥

⑧ 医学研究院附属ヒト疾患モデル研究センター

⑨ 医学研究院附属総合コホートセンター ♥

⑩ 医学部百年講堂 ♥

⑪ 医学歴史館

⑫ 久保記念館

⑬ 医学部創立75周年記念庭園

⑭ 九州大学病院南棟 ♥

⑮ 九州大学病院北棟 ♥

⑯ 九州大学病院外来診療棟 ♥

⑰ エフラボ九大病院

⑱ 九州大学病院ウエストウイング棟 ♥

生体防御医学研究所
(高深度オミクスサイエンスセンター、
システム免疫学統合研究センター、
学際生命科学部門)

⑲ 分子イメージングセンター ♥

⑳ コージェ棟

㉑ 患者用第1駐車場(立体)

㉒ 患者用第2駐車場

㉓ 患者用第3駐車場(立体)

㉔ 歯学部学生実習棟

㉕ 歯学部本館 ♥

OBT研究センター

㉖ 歯学部臨床研究棟

㉗ 薬学部本館 ♥

㉘ サイエンスプラザ

㉙ システム創薬リサーチセンター

「グリーンファルマ研究所」

㉚ 薬学研究院附属グリーンファルマ構造解析センター

㉛ 生体防御医学研究所本館 ♥

㉜ 生体防御医学研究所別館

㉝ 生体防御医学研究所3号館 ♥

㉞ 生体防御医学研究所4号館

㉟ 総合研究棟 ♥

生体防御医学研究所
(分子機能制御学部門、
細胞機能制御学部門、
個体機能制御学部門、
システム免疫学統合研究センター)

㊱ コラボ・ステーションⅠ ♥

㊲ コラボ・ステーションⅡ

生体防御医学研究所
(高深度オミクスサイエンスセンター)

㊳ 医療系統合教育研究センター

医学研究院附属心臓血管研究施設

㊴ 先端医療イノベーションセンター ♥

㊵ 合成システム生物学研究センター

㊶ アイソトープ総合センター病院地区実験室

㊷ 医系管理棟 ♥

キャンパスライフ・健康支援センター病院分室
(健康相談室、学生相談室)

㊸ 医学図書館

㊹ 情報統括本部馬出分室

㊺ 外国人研究員等宿泊施設

㊻ 同窓会館

㊼ 運動場

㊽ 体育館 ♥

㊾ テニスコート

㊿ 慰霊塔

㊱ 納骨塚

㊲ 事務支援センター(検収センター)

㊳ 馬出国際交流会館

㊴ 東門門衛所

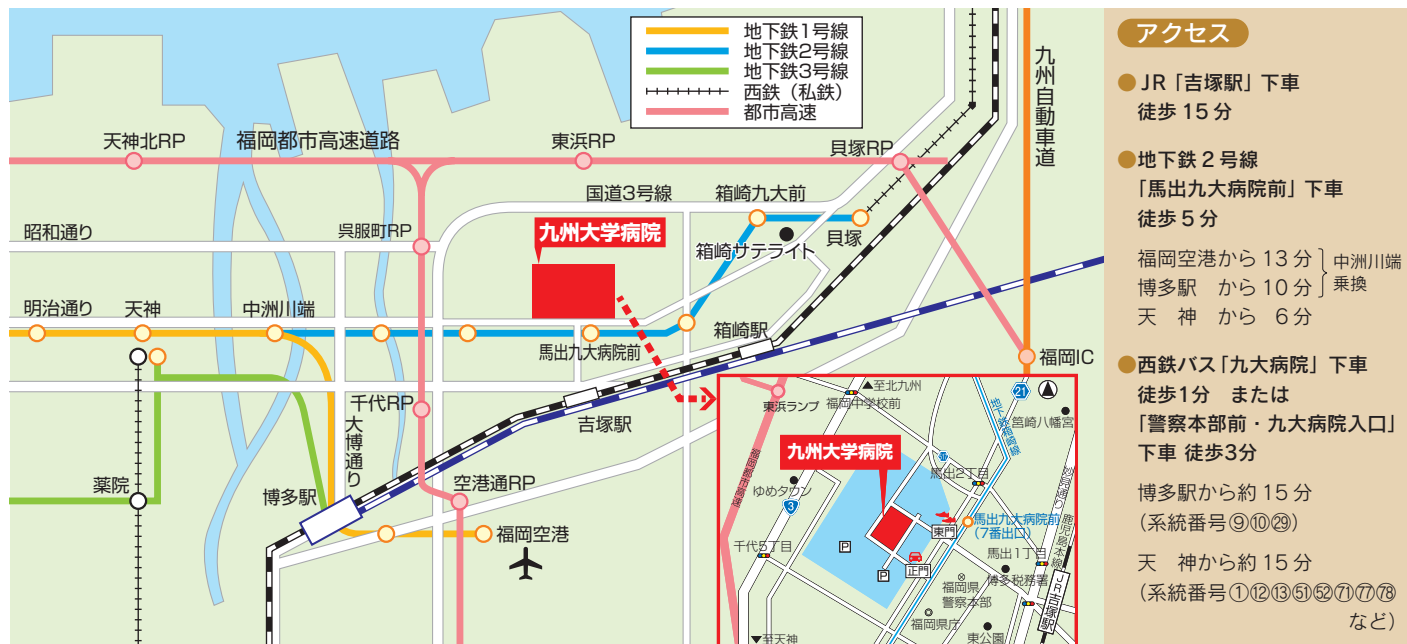
地下鉄馬出九大病院前駅7番出口



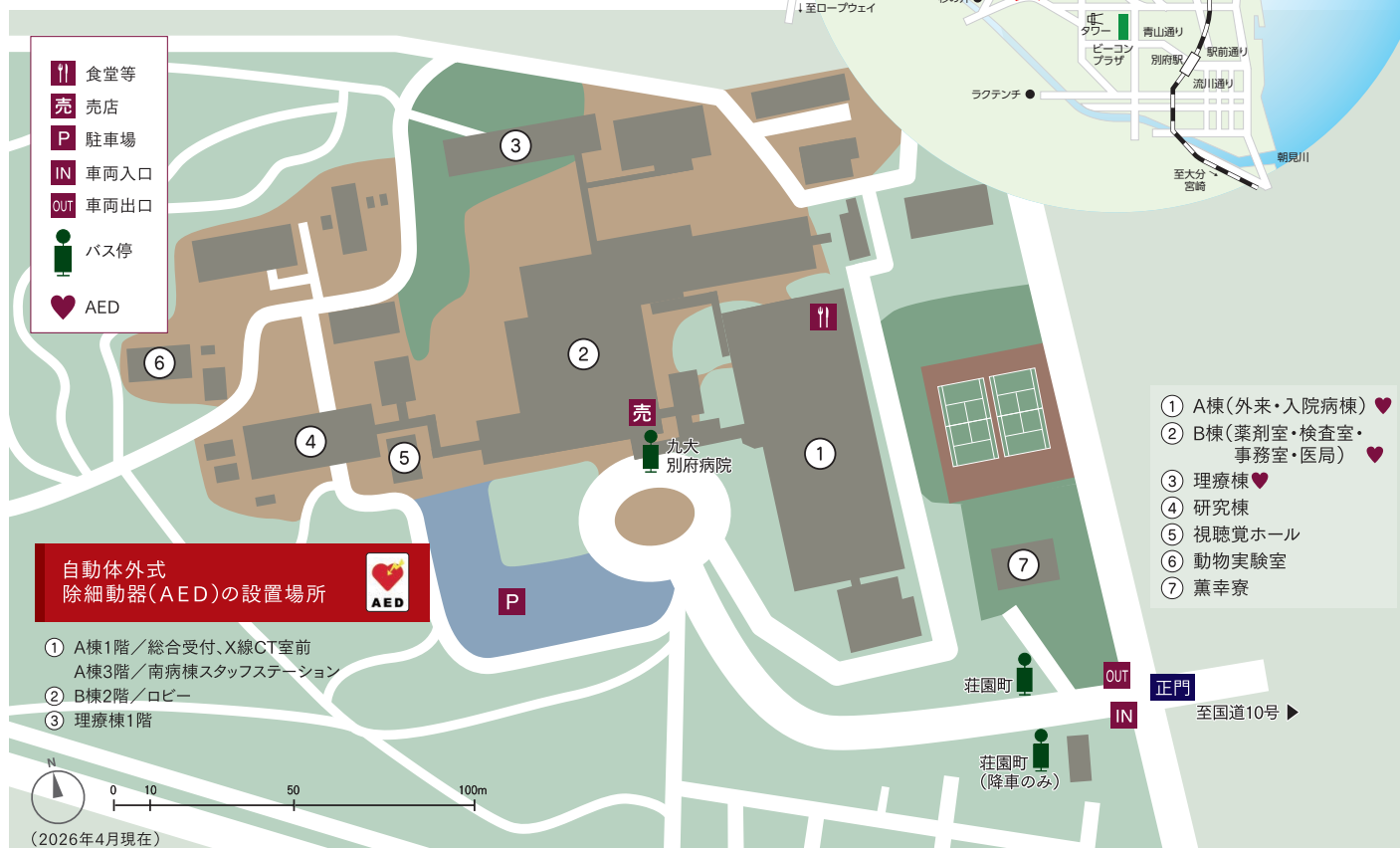
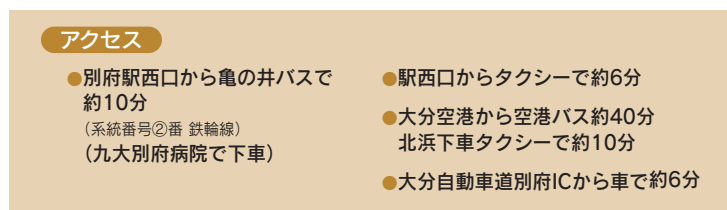
自動体外式除細動器(AED)の設置場所

- ① 医学部基礎研究A棟1階玄関
② 医学部基礎研究B棟1階玄関
⑤ 医学部臨床研究棟共通棟1階玄関
⑦ 医学部保健学科本館1階玄関
⑨ 医学研究院附属総合コホートセンター1階玄関
⑩ 医学部百年講堂出入口
⑭ 九州大学病院南棟/各階
⑮ 九州大学病院北棟/各階
⑯ 九州大学病院外来診療棟/各階
⑱ 九州大学病院ウエストウイング棟
(1階理容室前、2階入口付近)
⑲ 分子イメージングセンター2階
㉔ 歯学部本館1階玄関
㉕ 薬学部本館1階玄関
㉛ 生体防御医学研究所本館1階玄関
㉝ 生体防御医学研究所3号館1階玄関
㉟ 総合研究棟1階玄関
㊱ コラボ・ステーションⅠ1階玄関
㊴ 先端医療イノベーションセンター
(1階ロビー、3階スタッフステーション)
㊷ 医系管理棟1階玄関
㊽ 体育館玄関

(2026年4月現在)



(2) 別府地区(九州大学病院 別府病院)
〒874-0838 大分県別府市荘園町30番10号
TEL:0977-27-1600(代表)



九州大学病院概要 2026年

編集・発行 九州大学病院 広報委員会

Kyushu University Hospital Information

発行日 令和8年7月

印刷・制作 大同印刷株式会社

本書の記載記事及び写真の転写・複写を禁じます

Kyushu University Hospital Information

九州大学病院

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 TEL.092-641-1151 (代表)

<https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>